



**Hewlett Packard
Enterprise**

HPE Systems Insight Manager 7.6 Microsoft Windows 用インストール/コンフ ィギュレーションガイド

摘要

このドキュメントでは、HPE Systems Insight Manager のインストールおよび設定について説明します。このドキュメントは、HPE SIM をインストールおよび使用する予定があるシステム管理者を対象としています。Systems Insight Manager および Microsoft Windows オペレーティングシステムの使用経験を前提にしています。

部品番号: 418812-597
発行: 2016 年 12 月
版数: 1

目次

インストールの概要と要件	5
初期インストールプロセスの概要.....	5
アップグレードの概要.....	5
前提条件.....	5
システム要件.....	5
ブレードシステムの要件.....	16
HPE Insight Remote Support	35
CMS への Systems Insight Manager の初期インストール	36
システムの準備.....	36
標準インストール.....	43
次のステップ.....	46
HPE Systems Insight Manager の設定	51
ファーストタイムウィザードによる HPE Systems Insight Manager の設定.....	51
オプションメニューによる HPE Systems Insight Manager の設定.....	54
管理対象システムのセットアップと設定	56
概要.....	56
HPE Systems Insight Manager のインターフェイスを使用した管理対象システムのセットアップ.....	56
管理対象ストレージシステムのセットアップ.....	57
HPE Systems Insight Manager のアップグレード	60
標準アップグレード.....	65
カスタムアップグレード.....	65
サイレントアップグレード.....	66
データの移行.....	68
HPE Systems Insight Manager のアンインストール	73
構成オプション	74
データ収集時の CPU 使用率.....	74
GUI のタイムアウトポリシー.....	74
HPE Systems Insight Manager の監査ログ設定.....	75
タスクの結果の設定.....	76
データベースインストール	78
SQL Express のインストールおよび使用.....	78
SQL/SQL Express を使用.....	78
Oracle を使用.....	79

カスタムインストール	81
カスタムインストール.....	81
サイレントインストール	90
サイレントインストール.....	90
トラブルシューティング	93
インストール.....	93
サインイン.....	98
パスワード.....	103
移行ログ.....	105
用語集	106
サポートと他のリソース	124
Web サイト.....	124
サポートと他のリソース.....	124

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピューター・ソフトウェア、コンピューター・ソフトウェア資料、および商用製品の技術情報は、ベンダー標準の商用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標について

Microsoft®および Windows®は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Intel®、インテルおよび Itanium®はインテルコーポレーションまたはその子会社のアメリカ合衆国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java®および Oracle®は、Oracle および/またはその関連会社の登録商標です。

UNIX®は、The Open Group の登録商標です。

改訂履歴

ドキュメント部 品番号	発行日	版数	説明
418812-596	2015 年 8 月	1	初回発行。
418812-596a	2015 年 9 月	2	Management CD から Systems Insight Manager をダウンロードする事例を削除。
418812-596b	2015 年 9 月	3	データベースソフトウェアのリストに Microsoft SQL 2008 SP4 を追加。
418812-596bR	2016 年 1 月	4	商標変更。
418812-597	2016 年 12 月	1	新しいオペレーティングシステム、ブラウザーソフトウェア、新しいデータベースソフトウェアのサポート情報を追加し、Windows Vista のサポート情報を削除。

インストールの概要と要件

この章では、HPE Systems Insight Manager のインストールプロセスの概要について説明します。また、Windows CMS、管理対象システム、およびネットワーククライアントのシステム要件について説明します。

初期インストールプロセスの概要

HPE Systems Insight Manager を初めて CMS にインストールする際は、以下の手順を実行します。

1. 中央管理サーバーをインストールして、設定します。詳細については、**CMS への Systems Insight Manager の初期インストール** (36 ページ) を参照してください。
2. 各自の環境に合わせて HPE Systems Insight Manager を設定します。推奨されるタスクについては、**ファーストタイムウィザードによる HPE Systems Insight Manager の設定** (51 ページ) または **オプションメニューによる HPE Systems Insight Manager の設定** (54 ページ) を参照してください。
3. 中央管理サーバーで管理する予定のシステム上に、必要な Insight マネジメントエージェントをインストールして設定します。詳細な作業手順については、**管理対象システムのセットアップと設定** (56 ページ) の最初の項を参照してください。
4. 管理対象システムのための残りのプロトコルを設定します。詳細については、**管理対象システムのセットアップと設定** (56 ページ) を参照してください。

注記:

Windows では、HPE SIM はポート 50000~500015 を予約します。詳細については、Microsoft 社の Web サイト <http://support.microsoft.com/kb/812873> を参照してください。

アップグレードの概要

中央管理サーバーに HPE SIM がインストールされている場合は、**HPE Systems Insight Manager のアップグレード** (60 ページ) に記載されているアップグレード手順を参照してください。

前提条件

Windows 上で HPE Systems Insight Manager を正しくインストールして設定するには、CMS に以下をインストールする必要があります。

- SNMP Service
- .Net framework 3.5 sp1
- .Net framework 4.0
- Powershell 2.0

システム要件

Adobe Flash Player のサポート

Adobe Flash Player バージョン 22 以降の使用をおすすめします。パッチ適用済みの最新バージョンをダウンロードするには、Adobe 社の Web サイト <http://www.adobe.com/support/flashplayer/downloads.html> を参照してください。

第 1 部 : Windows 中央管理サーバー

注記:

CMS では *HPE Systems Insight Manager* 管理ソフトウェアのみが実行されます。VMware vCenter Server や Microsoft System Center Virtual Machine Manager などの他の管理ソフトウェアは、別のサーバーにインストールします。これにより、これらの 1 つまたは両方の製品の動作が低下するポートの競合を回避できます（どちらのアプリケーションも動的ポートを使用するため）。

オペレーティングシステム

- Windows Server 2016 Standard
 - Windows Server 2016 Datacenter
 - Windows Server 2016 Hyper-V
 - Microsoft Hyper-V Server 2016
 - Windows Nano Server 2016 Hyper-V
 - Windows Server 2008 R2 Standard x64、SP1
 - Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition x64、SP1
 - Windows Server 2008 R2 SP1 Hyper-V
 - Windows Server 2008 SP2 Hyper-V
 - Windows Hyper-V Server 2008 R2 SP1
 - Windows Small Business Server 2011 Standard
 - Windows Small Business Server 2011 Essentials
-

注記:

Windows Small Business Server 2011 Standard/Essentials は、リモートデータベースでのみサポートされます。サポートされるデータベースについて詳しくは、[ソフトウェア](#)を参照してください。

- Windows Server 2012 Standard
- Windows Server 2012 Datacenter
- Windows Server 2012 R2 Standard
- Windows Server 2012 R2 Datacenter
- Microsoft Windows Server 2012
- Microsoft Hyper-V Server 2012
- Microsoft Hyper-V Server 2012 R2
- Microsoft Windows Server 2012 R2 Hyper-V
- 次の VMware システム上のゲストとして実行中の、サポートされる 64 ビット Windows オペレーティングシステム
 - ゲスト Windows を実行している VMware vSphere 6.0 Update 2
 - ゲスト Windows を実行している VMware vSphere 6.0 Update 1a
 - ゲスト Windows を実行している VMware vSphere 6.0 Update 1b
 - ゲスト Windows を実行している VMware vSphere 5.5 Update 3a
 - ゲスト Windows を実行している VMware vSphere 5.5 Update 3b
 - ゲスト Windows を実行している VMware vSphere 6.0
 - ゲスト Windows を実行している VMware vSphere 5.5
 - ゲスト Windows を実行している VMware vSphere 5.5 Update 1
 - ゲスト Windows を実行している VMware vSphere 5.5 Update 2
- 中央管理サーバーは、Microsoft Hyper-V Server 2012 International Server のフランス語版、ドイツ語版、イタリア語版、スペイン語版、韓国語、中国語、日本語版（各国語版の最新の Service Pack を入手可能）をサポートします。

ハードウェア

次のように構成されている任意の HPE ProLiant

- 最小値 : 1.5 GHz のプロセッサと 4 GB の RAM (x86 の場合) / 4 GB の RAM (x64 の場合)
- 25 GB の空きディスク容量 (推奨)
- 推奨 : 2.4 GHz のプロセッサと 6 GB の RAM (x86 の場合) / 6 GB の RAM (x64 の場合)

注記:

HPE Insight Remote Support と HPE Systems Insight Manager ではシステム要件が異なります。HPE SIM での HPE Insight Remote Support の使用、システム要件、および製品サポートについては、<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs> で HPE Insight Remote Support のドキュメントを参照してください。

注記:

Microsoft SQL Server が CMS にインストールされている場合は、追加で 512 MB の RAM をインストールする必要があります。

注記:

Hewlett Packard Enterprise Netserver プラットフォームは、Instant Toptools ソフトウェアがインストールされておらず、他のすべての要件が満たされている場合にかぎり、中央管理サーバーとして使用することができます。

ソフトウェア

データベースソフトウェア :

- Microsoft SQL Server 2016
- Microsoft SQL Server 2012 Standard SP3
- Microsoft SQL Server 2012 Enterprise SP3
- Microsoft SQL Server 2012 Business Intelligence SP3
- Microsoft SQL Server 2012 Web SP3
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP3
- Microsoft SQL Server 2014 Standard
- Microsoft SQL Server 2014 Enterprise
- Microsoft SQL Server 2014 Business Intelligence
- Microsoft SQL Server 2014 Web
- Microsoft SQL Server 2014 Express
- Microsoft SQL Server 2012 Standard SP2
- Microsoft SQL Server 2012 Enterprise SP2
- Microsoft SQL Server 2012 Business Intelligence SP2
- Microsoft SQL Server 2012 Web SP2
- Microsoft SQL Server 2012 Express SP2
- Microsoft SQL 2008 SP4 ¹
- Oracle 11g Enterprise R2

¹ Microsoft SQL 2008 SP4 を使用したインストールでは、データベースがサポートされていないという警告が返されますが、これは無視できます。インストールは正常に完了します。

注記:

Oracle 11g は、JDBC ドライバーバージョン 11.2.0.4 を使用します。

Oracle JDBC ドライバーのバージョン 11.2.0.4 をインストールする必要があります。このドライバーは、Oracle 社の Web サイト <http://www.oracle.com/technetwork/database/enterprise-edition/jdbc-112010-090769.html> からダウンロードできます。

Oracle データベースのすべてのバージョンが、JDBC ドライバーを ojdbc6.jar としてリストします。Oracle Database 11g Release 2 (11.2.0.4) JDBC Drivers セクションで正しいファイルを選択する必要があります。

ファイルは ojdbc.jar としてリストされますが、一部の Oracle デポサイトでは、ダウンロード中に拡張子が.zip に変換されます。これにより、HP-UX または Linux システムを介して CMS に FTP でファイルを転送する際に、ファイル属性が変更されることはありません。ファイルが CMS に届いたら、拡張子を.zip から.jar に変更してください。

HPE SIM をインストールする前に、AL32UTF8 の Unicode 文字セットと AL16UTF16 の各国文字セットで Oracle データベースを作成する必要があります。NLS の長さは、BYTE に設定する必要があります。また、シンクライアントの.jar ファイルの場所を指定する必要があります。HPE SIM を使用するには、システムの再起動時に Oracle データベースと TNS (Transparent Network Substrate) リスナーサービスが動作している必要があります。Oracle 自体が、Oracle データベースや TNS リスナーを自動的に起動することはありません。Oracle データベース管理者 (DBA) は、これらのサービスを設定して、サーバーのリセット時に再起動するようにしておく必要があります。これらのサービスの自動起動手順については、<http://www.oracle.com/pls/db102/homepage> からアクセスできる Oracle のドキュメントを参照してください。このリンクにアクセスするには、登録が必要です。Oracle のインストールを管理する Oracle DBA はこの作業を実行する必要があります。

-
- Oracle 12c データベースのサポート

注記:

Oracle 12c 用の Oracle JDBC ドライバー 12.1.0.2.0 をインストールしてください。このドライバーは、Oracle 社の Web サイト <http://www.oracle.com/technetwork/database/features/jdbc/jdbc-drivers-12c-download-1958347.html> からダウンロードできます。

Oracle 12c データベースのインストール後、次の構成変更が必要です。

- 以下のパスにあるファイルを更新します。C:\app\OracleHomeUser\product\12.1.0\dbhome_1\NETWORK\ADMIN

Sqlnet.ora :

このファイルに、以下のプロパティを追加する必要があります。

```
SQLNET.ALLOWED_LOGON_VERSION=8
SQLNET.ALLOWED_LOGON_VERSION_SERVER=8
SQLNET.ALLOWED_LOGON_VERSION_CLIENT=8
```

Listener.ora :

リスナーにホストの IP アドレスを追加します。

```
LISTENER =
(DESCRIPTION_LIST =
  (DESCRIPTION =
    (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = localhost)(PORT = 1521)))
    (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = <HostIPAddress>)(PORT = 1521))
    (ADDRESS = (PROTOCOL = IPC)(KEY = EXTPROC1521))
  )
)
```

Tnsnames.ora :

Localhost をホスト IP アドレスと置き換えます。
Localhost -> <ホスト IP アドレス>

- 変更を実装するために、Oracle リスナーを再起動します。

Windows CMS 上のブラウザソフトウェア :

- IE タブ拡張付き Google Chrome 50.x 以降
- Mozilla Firefox Extended Support Release 45.0 以降
- Mozilla Firefox Extended Support Release 38.0
- IE タブ拡張付き Google Chrome 40
- IE タブ拡張付き Google Chrome 43
- IE タブ拡張付き Google Chrome 47
- Microsoft Internet Explorer 11
- Microsoft Internet Explorer 10
- Microsoft Internet Explorer 9.0

ネットワーキング

- 静的または動的なホスト名解決
- TCP/IP
- SNMP

❗ 重要:

Windows サーバー上には、HPE SIM サーバーソフトウェアをインストールするために、NTFS (NT File System) 形式でフォーマットされたパーティションが少なくとも 1 つは必要です。NTFS 形式のパーティションでは、ユーザーアカウントやユーザーグループに基づいたファイルアクセス制限が可能です。NTFS 形式のパーティションでなければ、CMS は権限のないユーザーによるアクセスを適切に防止できず、機密性を要する操作やデータが権限のないユーザーに使用される危険があります。

HPE Systems Insight Manager による Windows 仮想マシンのサポート

次の要件が満たされる場合、Windows 仮想マシン (VM) で HPE SIM を実行できます。

- VM が、ESXi 5.5 初回リリース/U1/U2/U3a/U3b、および ESXi 6.0 初回リリース U1a/U1b/U2 でホストされている必要があります。
- VM の設定は HPE SIM のハードウェア要件を満たす必要があります。この VM に割り当てる CPU とメモリのリソースは、通常、(CPU とメモリのリソースを確保して) この VM に適用させる必要があります。

VM の一般的なサポート情報は、次のとおりです。

- HPE Integrity VM は、ホストと同じレベルでのアプリケーションの実行はサポートしません。
- 上記のオペレーティングシステムには必要な Windows Service Pack を適用する必要があります。
- SIM 7.4 は SQL Express 2012 SP1 上に正しくインストールされ、SIM 7.5 は SQL Express 2014 (32 ビット) 上に正しくインストールされます。SIM 7.4 から HPE SIM 7.6 へのアップグレード中に、インストーラーが

「HPE Systems Insight Manager インストーラーは、Microsoft SQL Server のサポートされていない Express Edition を検出しました。OK をクリックすると Microsoft SQL Server 2014 Express (32 ビット) データベースを自動的にアップグレードします。キャンセルをクリックするとインストーラーを終了します。」というメッセージを表示します。

第 2 部 : 管理対象システムの要件と推奨事項

オペレーティングシステム

- Windows 管理対象システム

- Windows Server 2016 Standard
- Windows Server 2016 Datacenter
- Windows Server 2016 Essential
- Windows Server 2016 Standard Core
- Windows Server 2016 Datacenter Core
- Windows Nano Server 2016 Standard
- Windows Nano Server 2016 Datacenter
- Windows Nano Server 2016 Hyper-V

注記:

Nano サーバー管理対象ノードのサポートは、Agentless Management Service モードでのみ対応しています。

- Windows Server 2016 Hyper-V
- Microsoft Hyper-V server 2016
- Windows Server 2012 R2 Hyper-V
- Windows Server 2012 Foundation
- Windows Server 2012 Essentials
- Windows Server 2012 Standard
- Windows Server 2012 Datacenter
- Windows Server 2012 Hyper-V
- Windows Server 2012 R2 Standard
- Windows Server 2012 R2 Datacenter
- Windows Web Server 2008, x86
- Windows Web Server 2008, x64
- Windows Storage Server 2016
- Windows Storage Server 2008 Standard (x64)
- Windows Storage Server 2008 Enterprise (x86)
- Windows Storage Server 2008 Enterprise (x64)
- Windows Server 2008 R2 Standard
- Windows Server 2008 R2 Standard Server Core, SP1
- Windows Server 2008 R2 Enterprise x64
- Windows Server 2008 R2 Enterprise Server Core, SP1
- Windows Server 2008 R2 Datacenter x86
- Windows Server 2008 R2 Datacenter x64
- Windows Server 2008 R2 Web Server
- Windows Server 2008 Standard Server Core, SP2
- Windows Server 2008 Enterprise Server Core, SP2
- Windows Server 2008 Standard (x64) , SP2
- Windows Server 2008 Standard (x86) , SP2
- Windows Server 2008 Standard (x64)
- Windows Server 2008 Standard (x86)
- Windows Server 2008 Enterprise (x86) , SP2
- Windows Server 2008 Enterprise (x64) , SP2
- Windows Server 2008 Datacenter, SP2, x86
- Windows Server 2008 Datacenter SP2, x64
- Windows Server 2008 for Itanium ベースシステム
- Windows Server 2008 for Itanium ベースシステム, SP2
- Windows Server 2008 R2 for Itanium ベースシステム
- Windows Storage Server Standard 2012 R2
- Windows Storage Server Standard 2012

- Windows Storage Server 2008 R2 Standard, SP1
- Windows Storage Server 2008 R2 Enterprise, SP1
- Windows Storage Server 2008 R2 Standard
- Windows Storage Server 2008 R2 Enterprise
- Windows Server 2008 Small Business Server Standard
- Windows Server 2008 Small Business Server Premium
- Windows Small Business Server 2003 R2, Standard
- Windows Small Business Server 2003 R2, Premium
- Windows Vista Business SP2, x86
- Windows Vista Business SP2, x64
- Windows Vista Enterprise SP2, x86
- Windows Vista Enterprise SP2, x64
- Windows 7 SP1, Professional および Enterprise, x86
- Windows 7 SP1, Professional および Enterprise, x64
- Windows Small Business Server 2011 Standard
- Windows Small Business Server 2011 Essentials
- Windows HPC Server 2008 R2
- Windows Server 2008 R2 Standard, SP1, x64
- Windows Server 2008 R2 Enterprise, SP1 x64
- Windows Server 2008 R2 Datacenter, SP1
- Windows Server 2008 R2 Web Server, SP1
- **Hewlett Packard Enterprise オペレーティングシステム**
 - Hewlett Packard Enterprise NonStop Kernel
 - OpenVMS 8.3
 - OpenVMS 8.4
- **HP-UX 管理対象システム**
 - HP-UX 11i v1 (11.11)
 - HP-UX 11i v2 Update 2 (11.23 PI/PA)
 - HP-UX 11i v1 (11.23 IAのみ)
 - HP-UX 11i v3 (11.31 IA/PA)
- **Linux 管理対象システム**
 - Red Hat Enterprise Linux 7.2 for AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 7.1 AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 7 for AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6.8 for x86
 - Red Hat Enterprise Linux 6.8 for AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6.7 for x86
 - Red Hat Enterprise Linux 6.7 for AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6.6 for x86
 - Red Hat Enterprise Linux 6.6 for AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6.5 for x86
 - Red Hat Enterprise Linux 6.5 for AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6.4 for x86
 - Red Hat Enterprise Linux 6.4 for AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6.3 x86
 - Red Hat Enterprise Linux 6.3 AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6.2 x86
 - Red Hat Enterprise Linux 6.2 AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6.1 x86

- Red Hat Enterprise Linux 6.1 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 6 x86
- Red Hat Enterprise Linux 6 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.11 for x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.11 for AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.10 for x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.10 for Intel Itanium
- Red Hat Enterprise Linux 5.10 for AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.9 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.9 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.9 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 6.7 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 6.8 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 7.2 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 7.1 AMD64/EM64T 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 7 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 6.6 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 6.5 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 6.4 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 6.3 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 6.2 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 6.1 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 5.10 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 5.9 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 5.8 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 上のカーネルベースの仮想マシン
- SLES11 SP2 上のカーネルベースの仮想マシン
- Red Hat Enterprise Linux 5.8 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.8 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.8 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.4 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.4 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.4 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.3 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.3 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.3 AMD64/EM64T
- SUSE Enterprise Linux 12 AMD64/EM64T
- SUSE Enterprise Linux 12 AMD64/EM64T SP1
- SUSE Enterprise Linux 10 IPF, SP4

- SUSE Enterprise Linux 10 x86, SP4
- SUSE Enterprise Linux 10 AMD64/EM64T, SP4
- SUSE Enterprise Linux 10 IPF, SP4
- SUSE Enterprise Linux 11 x86, SP4
- SUSE Enterprise Linux 11 IPF, SP2
- SUSE Enterprise Linux 11 x86, SP2
- SUSE Enterprise Linux 11 AMD64/EM64T, SP2
- SUSE Enterprise Linux 10 IPF, SP3
- SUSE Enterprise Linux 10 x86, SP3
- SUSE Enterprise Linux 10 AMD64/EM64T, SP3
- SUSE Enterprise Linux 11 IPF, SP1
- SUSE Enterprise Linux 11 x86, SP1
- SUSE Enterprise Linux 11 IPF, SP3
- SUSE Enterprise Linux 11 x86, SP3
- SUSE Enterprise Linux 11AMD64/EM64T, SP3
- SUSE Enterprise Linux 11 AMD64/EM64T, SP1
- Ubuntu 10.04 LTS
- Ubuntu 12.04 LTS
- Ubuntu 12.04.3
- Ubuntu 13.10
- Ubuntu 14.04
- Debian 7.2
- Oracle EL 5.6 x86
- Oracle EL 5.6 AMD64/EM64T
- Oracle EL 5.7 x86
- Oracle EL 5.7 AMD64/EM64T
- Oracle EL 5.8 x86
- Oracle EL 5.8 AMD64/EM64T
- Oracle EL 6.2 x86
- Oracle EL 6.2 AMD64/EM64T
- **VMware および仮想マシン管理対象システム**
 - VMware vSphere (ESXi) 6.0 Update 2
 - VMware vSphere 6.0 Update 1a
 - VMware vSphere (ESXi) 6.0 Update 1b
 - VMware vSphere (ESXi) 6.0 Update 3a
 - VMware vSphere (ESXi) 6.0 Update 3b
 - VMware vSphere (ESXi) 6.0
 - VMware vSphere (ESXi) 5.5 Update 2
 - VMware vSphere (ESXi) 5.5 Update 1
 - VMware ESXi 5.5
 - RHEL 5.8 上の Xen
 - RHEL 5.7 上の Xen
 - RHEL 5.6 上の Xen
 - RHEL 5.5 上の Xen
 - RHEL 5.4 上の Xen
 - SLES 10 SP4 上の Xen
 - SLES 10 SP3 上の Xen
 - SLES 11 SP2 上の Xen
 - SLES 11 SP1 上の Xen
 - Integrity VM Windows (ゲスト OS Windows を実行)

- Integrity VM Linux (ゲスト OS Linux を実行)
- Integrity VM HP-UX (ゲスト OS HP-UX 11i v2 を実行)
- Integrity VM HP-UX (ゲスト OS HP-UX 11i v3 を実行)
- Microsoft Virtual Server 2005 R2 SP1
- Microsoft Virtual Server 2005 R2
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Windows Server 2008 Hyper-V SP2
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Windows Server 2008 R2 Hyper-V SP1
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Windows Server 2008 R2 Hyper-V
- Microsoft Hyper-V Server 2008
- Microsoft Hyper-V Server 2008 R2
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Hyper-V Server 2008 SP2
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Hyper-V Server 2008 R2 SP1
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Hyper-V Server 2008 R2
- Microsoft Hyper-V Server 2012
- Microsoft Hyper-V Server 2012 R2
- Microsoft Hyper-V Server 2016
- Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V
- Microsoft Nano Server 2016 Hyper-V
- **Novell 管理対象システム**
 - NetWare 6.5
 - NetWare 6.0
- **SUN 管理対象システム**
 - Solaris 10 Sparc
 - Solaris 9 Sparc
 - Solaris 11 Intel Platform
 - Solaris 10 Intel Platform
 - Solaris 9 Intel Platform
 - Solaris 8 Intel Platform
- **IBM 管理対象システム**
 - AIX 6.1
 - AIX 5.3

ハードウェア

- **Windows の場合 :**
 - 任意の HPE ProLiant システム
 - 任意の HPE Itanium ベースシステム
- **HP-UX の場合 :**
 - 任意の HPE PA-RISC システム
 - 任意の HPE Itanium[®] ベースシステム
- **Linux の場合 :**
 - 任意の HPE ProLiant システム
 - 任意の HPE Itanium ベースシステム

ソフトウェア

このソフトウェアは必須ではありませんが、管理機能を強化するには、このコンポーネントをインストールすることをおすすめします。**Windows の場合 :**

- OpenSSH Services 7.2p2-1
- Service Pack for ProLiant 2016.10.0 アップデート

- WBEM/WMI
- SNMP (WBEM の代替として推奨)

Linux の場合 :

- SSH
- Service Pack for ProLiant 2016.10.0 アップデート
- SNMP (WBEM の代替として推奨)

このソフトウェアは必須ではありませんが、HPE SIM の機能を強化するには、このコンポーネントをインストールすることをおすすめします。各コンポーネントはさまざまなソフトウェアサプライヤーから購入またはダウンロードできます。

- SSH Client
- X Window Server

クライアントマシン上で必要な Web ブラウザー :

- **Windows の場合 :**
 - Microsoft Internet Explorer 9.0
 - Microsoft Internet Explorer 10
 - Microsoft Internet Explorer 11
 - Mozilla Firefox Extended Support Release 38.0
 - Mozilla Firefox Extended Support Release 45.0
 - IE タブ拡張付き Google Chrome 40
 - IE タブ拡張付き Google Chrome 43
 - IE タブ拡張付き Google Chrome 47
 - IE タブ拡張付き Google Chrome 50.x 以降

注記:

最適なパフォーマンスを得るための、ブラウザのサポートされる最小解像度は 1024×768 です。

- **HP-UX の場合 :**
 - Mozilla Firefox バージョン 3.5.09.00
 - Mozilla Firefox バージョン 2.0.0.19.02
- **Linux の場合 :**
 - Mozilla Firefox Extended Support Release 45.0

管理対象ストレージシステム

ファイバーチャネルディスクアレイ、スイッチ、テープライブラリ、ホスト（ファイバーチャネルホストバスアダプターを取り付け済み）など各ストレージシステムについての HPE SIM によるサポートに関する最新情報を確認するには、HPE SIM SMI-S プロバイダーの Web ページ <https://h20392.www2.hpe.com/portal/swdepot/displayProductsList.do?groupName=HP+Storage> を参照してください。

この Web ページでは、SMI-S プロバイダーの入手およびインストールについても説明しています。

SSH の要件

SSH は、CMS に HPE SIM をローカルでインストールする際に、ローカルで設定します。

ツールメニューの**カスタムツール**を実行するには、CMS 上に SSH が必要です。このカスタムコマンドは CMS 上で、特定のイベントまたはデバイスのコンテキストに対する環境変数を設定して実行されます。

各管理対象システム上に SSH をインストールして設定し、HPE SIM と管理対象システムの間で SSH の鍵を交換することも可能です (mxagentconfig コマンドまたは Windows の場合は Install OpenSSH タスクを使用)。鍵を交換した場合は、この管理対象システムに対して、**ツールメニューのコマンドラインツールオプション**を使用できるようになります。リモートの SSH クライアントにはこのオプションを適用しないよう設定

してある場合、このコマンドは失敗します。クライアント上で SSH が設定されていない場合、コマンドラインツール、SSH を必要とする任意の HPE SIM プラグイン、および Configure or Repair Agents は、正しく機能しません。

PSP と SSH の配備は同時に実行され、そのときのノード数は、`globalsettings.props` の `PSPandSSHParallelDeployments` で制御されます。

いずれかのノードで認証情報が正しくない場合、残りのすべてのノードで配備が失敗します。

外国語サポート

日本語、韓国語、簡体字中国語、および繁体字中国語は、[システム要件](#) (5 ページ) で示すすべてのプラットフォームでサポートされています。フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語は、Windows システムのみでサポートされています。

ブレードシステムの要件

ブレードシステムは、ブレードコンピューターシステム、データおよびストレージネットワークへの統合接続、ならびに共有電源サブシステムで構成されます。ブレードシステムを使用すると、ユーザーは、ご使用のブレードシステム環境 (サーバーブレード/デスクトップ、エンクロージャーインフラストラクチャ、ラック、統合スイッチなど) を階層型ツリービュー/ピクチャービューによって素早く操作することができます。これにより、個々のブレードシステムまたはブレードシステムグループを簡単に管理することができます。

システムサポート

Bladesystem は、ブレードインフラストラクチャを管理します。HPE Bladesystem Integrated Manager サポートマトリックスについて詳しくは、[Hewlett Packard Enterprise Information Library](#) を参照してください。

ハードウェアのサポート

表 1: サポートされる HPE c-Class プラットフォーム

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
CloudSystem c3000	2.00 以降
CloudSystem c3000 タワーモデル	2.10 以降
CloudSystem c7000	1.30 以降

表 2: サポートされる HPE e-Class プラットフォーム

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
ProLiant BL 10e エンクロージャー	なし

表 3 : サポートされる HPE p-Class プラットフォーム

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
ProLiant p-Class 1U パワーエンクロージャー	2.40
ProLiant p-Class 3U パワーエンクロージャー	2.40
ProLiant p-Class 拡張エンクロージャー	2.40
ProLiant p-Class 標準エンクロージャー	2.40

表 4 : サポートされる HPE Synergy プラットフォーム

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
HPE Synergy 10U エンクロージャー	One View 3.00.00-0250433

表 5 : サポートされる c-Class サーバー

製品モデル	必要な BIOS システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO 2 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
AiO SB600c ストレージソリューション	2008.01.24	1.43	Microsoft Windows Storage Server 2003	7.91.0.0
Hewlett Packard Enterprise Carrier Grade AMC 拡張	なし	なし	なし	なし
HPE ストレージテープブレード	なし	T61D ²	Microsoft Windows 2000	なし
HPE Storage SB40c for HPE c-Class CloudSystem	なし	2.0.0.0 ²	なし	なし
Integrity BL860c	01.01A	T 02.05 以降	Windows、Linux、および HP-UX	なし
Integrity BL870c	03.11	TO2.05 以降	Windows、Linux、および HP-UX	なし
PCI 拡張ブレード	なし	なし	なし	なし

表は続く

製品モデル	必要な BIOS システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO 2 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL260c G6	なし	1.75 以降	Windows、Linux、Solaris、および NetWare	8.20
ProLiant BL260c G5	I20 02/14/2008	1.50 以降	Windows および Linux	8.00
ProLiant BL280c G6	I22 3/11/09	1.75	Windows および Linux	8.20
ProLiant BL460c	5/1/2007	1.24 以降	Windows および Linux	7.50 以降
ProLiant BL460c G6	I24 2/24/09	1.75	Windows および Linux	8.20
ProLiant BL465c	6/1/2005	1.24 以降	Windows および Linux	7.60 以降
ProLiant BL465c G5	9/12/2008	1.70	Windows Server 2003 および 2008、Linux、Solaris、および VMware ESX Server	8.15
ProLiant BL480c	5/1/2007	1.24 以降	Windows および Linux	7.50 以降
ProLiant BL490c G6	I21 2/23/09	1.75	Windows および Linux	8.20
ProLiant BL495c G6	A14 05/07/2009	1.78	Windows 2003、Windows 2008、RHEL 5 Update 3、RHEL 4 (Update 8 以降)、VMware ESX 4.0.0 以降、XenSource、RedHat XEN、および SLES XEN	8.25
ProLiant BL495c G5	8/29/2008	1.61	Windows Server 2003 および 2008、Linux、および VMware ESX Server	8.11

表は続く

製品モデル	必要な BIOS システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO 2 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL680c G5	10/18/2007	1.35 以降	Windows および Linux	7.9 以降
ProLiant BL685c	6/1/2005	1.24 以降	Windows および Linux	7.60 以降
ProLiant BL685c G6	A17 2/14/2009	1.75	Windows および Linux	8.20
ProLiant BL2x220c G5	I19 03/03/2008	1.50 以降	Windows および Linux	8.00
ProLiant BLxw460c Blade Workstation	7/31/2007	1.30 以降	Windows XP または Vista、および Linux	7.91 以降
ProLiant xw2x220c Blade Workstation	09/16/2008	1.60	Windows XP または Vista	8.15
ProLiant BL460c G7	127 5/10/2010	iLO 3	Windows、RHEL、SLES、Oracle Solaris、VMware、および Citrix XenServer	PSP 8.7
ProLiant BL465c G7 (AMD Opteron 6100)	A19	iLO 3 バージョン 1.05	Microsoft Windows Server Red Hat Enterprise Linux (RHEL) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) Solaris VMware ESX Citrix XenServer	PSP 8.7
ProLiant BL465c G7 (AMD Opteron 6200)	A19	iLO 3 バージョン 1.05	Microsoft Windows Server Red Hat Enterprise Linux (RHEL) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) Solaris VMware ESX Citrix XenServer	PSP 8.7

表は続く

製品モデル	必要な BIOS システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO 2 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL490c G7	I28 2011/01/29	iLO3	Microsoft Windows Server Red Hat Enterprise Linux (RHEL) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) Solaris VMware Citrix XenServer	PSP 8.7
ProLiant BL620c G7	I25 7/9/2010	iLO 3	Microsoft Windows Server Red Hat Enterprise Linux (RHEL) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) Oracle Solaris VMware Server Citrix XenServer	PSP 8.7
ProLiant BL680c G7	I25 6/4/2010	iLO 3	Microsoft Windows Server Red Hat Enterprise Linux (RHEL) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) Oracle Solaris VMware Server Citrix XenServer	PSP 8.7
ProLiant BL685c G7 (AMD Opteron 6100)	A20	iLO 3 バージョン 1.05 および OA バージョン 3.10	Microsoft Windows Server Red Hat Enterprise Linux (RHEL) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) Solaris VMware Citrix XenServer	PSP 8.7
ProLiant BL685c G7 (AMD Opteron 6200)	A20	iLO 3 バージョン 1.05 および OA バージョン 3.10	Microsoft Windows Server Red Hat Enterprise Linux (RHEL) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) Solaris VMware Citrix XenServer	PSP 8.7

表は続く

製品モデル	必要な BIOS — システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO 2 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL460c Gen8	I31 2011/12/21	iLO 4 バージョン 1.01 以上および OA バージョン 3.50	Microsoft Windows Server Red Hat Enterprise Linux (RHEL) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) Oracle Solaris VMware Citrix XenServer	Service Pack for ProLiant 2013.09.0b
BL420c Gen8 (Opteron 6300 シリーズ)	130 08/20/2012	iLO4 ファームウェア 1.10 以降、OA ファームウェア 3.55	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、VMware	Service Pack for ProLiant 2012.10.0
ProLiant BL465c Gen8	A26、08/14/2012	iLO4 ファームウェア 1.10 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Oracle Solaris、VMware、Citrix XenServer	Service Pack for ProLiant 2012.10.0
ProLiant BL460c G5	I23、05/02/2011	iLO2 ファームウェア 2.12 以降	Microsoft Windows Server、Microsoft Windows Server Hyper-V、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Oracle Enterprise Linux (OEL)、Solaris 10 for x86/x64 ベースシステム、VMware、Citrix XenServer	PSP 8.0 以降

表は続く

製品モデル	必要な BIOS システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO 2 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL465c G6	A13、05/02/2011	iLO2 ファームウェア 2.12 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris 10 for x86/x64 ベースシステム、VMware ESX、Citrix XenServer	PSP 8.5 以降
ProLiant BL685c G5	A08、05/02/2011	iLO2 ファームウェア 2.12 以降	Microsoft Windows Server、Microsoft Windows Server Hyper-V、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Oracle Enterprise Linux (OEL)、Solaris 10 for x86/x64 ベースシステム、VMware、Citrix XenServer	PSP 8.0 以降
ProLiant BL2x220c G6	I26、05/05/2011	iLO2 ファームウェア 2.12 以降、OA ファームウェア 2.6 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris 10 for x86/x64 ベースシステム、VMware、Citrix XenServer	PSP 8.3 以降
ProLiant BL2x220c G7	I29、05/05/2011	iLO3 ファームウェア 1.5 以降、OA ファームウェア 3.11 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Oracle Solaris、VMware、Citrix XenServer	PSP 8.7 以降

表は続く

製品モデル	必要な BIOS - システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO 2 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
BL660c Gen8	12/20/2013、Gen8 ROM (I32) は 8/3/2014	iLO4 ファームウェア 1.10 以降、OA ファームウェア 4.30	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、VMware	Service Pack for ProLiant 2013.09.0b
BL460c Gen9	ROM-I36、7/11/2014	iLO4 ファームウェア 2.00 以降、OA ファームウェア 4.30	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、VMware	Service Pack for ProLiant 2014.09.0 Gen9 Snap 1 アップデート
BL660c Gen9	ROM-I38	iLO4 ファームウェア 2.00 以降、OA ファームウェア 4.30	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2015.06.0 Gen9 Snap 3

¹ オペレーティングシステムの具体的なバージョンについては、<http://www.hpe.com/info/os-support-matrix> (英語) に掲載されている ProLiant サポートマトリックスを参照してください。

² ファームウェア - ストレージテープ <http://www.hpe.com/downloads/librarytape-tools> (英語)

表 6 : サポートされる Gen9 サーバー

製品モデル	必要な BIOS — システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) 4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
HPE ProLiant DL160 Gen9	U20 11/03/2014	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant DL180 Gen9	U20 06/27/2015	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant ML150 Gen9	P95 v2.00 (07/09/2015)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant XL450 Gen9	U21 v2.00 (07/09/2015)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant BL460c Gen9		iLO4 ファームウェア 2.40 以降、OA ファームウェア	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0

表は続く

製品モデル	必要な BIOS システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) 4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
HPE ProLiant XL170r Gen9	U14 v2.20 (02/16/2016)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant XL190r Gen9	U14 v2.00	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant XL420 Gen9	U19 v2.00	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant ML110 Gen9	P99 v2.00 (07/24/2015)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant DL360 Gen9	P89 11/03/2014	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0

表は続く

製品モデル	必要な BIOS システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) 4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
HPE ProLiant DL380 Gen9	P89 v2.20 (06/02/2016)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant ML350 Gen9	P92 v2.00 (08/12/2015)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant XL230a Gen9	U13 v2.00 (07/09/2015)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant XL230b Gen9	U12 (07/23/2014)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant XL250a Gen9	U13 v2.00 (07/09/2015)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0

表は続く

製品モデル	必要な BIOS システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) 4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
HPE ProLiant DL60 Gen9	U15 v2.00 (07/24/2015)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant DL80 Gen9	U15 v2.00 (11/03/2015)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant DL120 Gen9	P86 v2.00 (08/12/2015)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
WS460c Gen9	I36 v2.00 (08/12/2015)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Solaris、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE ProLiant XL260a Gen9	U24 v1.00 (07/19/2016)	iLO4 ファームウェア 2.40 以降	Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)	Service Pack for ProLiant 2016.04.0

表 7 : サポートされる Synergy サーバー

製品モデル	必要な BIOS システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) 4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
HPE Synergy 480 Gen9	I37 v2.20 (05/13/2016)	iLO4 ファームウェア 2.50 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Synergy 660 Gen9	I39 v2.20 (08/28/2015)	iLO4 ファームウェア 2.50 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Synergy 620/680 Gen9	I40 v2.20 (12/17/2015)	iLO4 ファームウェア 2.50 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Synergy 480 NVIDIA テスラ M6 FIO メザニンカード	I37 v2.20 (05/13/2016)	iLO4 ファームウェア 2.50 以降	Microsoft Windows Server、Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、および VMware	Service Pack for ProLiant 2016.10.0

表 8 : サポートされるサーバー HPE Consolidated Client Infrastructure (CCI)

製品モデル	必要な BIOS — システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO 2 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL1000	2.04 A	4.01 Rev. A ² 15 Jan 2008	Windows XP	なし
ProLiant BL1500	1.02 Rev. A	4.01 Rev. A ² 15 Jan 2008	Windows XP または Vista	なし
ProLiant BL2000	2.06 Rev. A	4.01 Rev. A ² 15 Jan 2008	Windows XP または Vista	なし
ProLiant BL2500	2.06 Rev. A	4.01 Rev. A ² 15 Jan 2008	Windows XP または Vista	なし

¹ オペレーティングシステムの具体的なバージョンについては、<http://www.hpe.com/info/os-support-matrix> (英語) に掲載されている ProLiant サポートマトリックスを参照してください。

² [HPE PC BL Enclosure Integrated Administrator](#)

表 9 : サポートされる e-Class サーバー

製品モデル	必要な BIOS — システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO 2 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL 10e	2003.02.17 (C)	4.00 A ² 7 Nov 2005	Microsoft Windows 2000	なし
ProLiant BL 10e G2	2003.02.17 (C)	4.00 A ² 7 Nov 2005	Microsoft Windows 2000	なし

¹ オペレーティングシステムの具体的なバージョンについては、<http://www.hpe.com/info/os-support-matrix> (英語) に掲載されている ProLiant サポートマトリックスを参照してください。

² [HPE PC BL Enclosure Integrated Administrator](#)

表 10：サポートされる p-Class サーバー

製品モデル	必要な BIOS — システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO 2 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
Integrity BL60p	01.70	H.03.21	HP-UX	なし
ProLiant BL20p	2004.05.01 (14 May 2004)	1.70 以降	Windows および Linux	7.10 以降
ProLiant BL20p G2	4.09 (104-09/16/2004)	1.70 以降	Windows および Linux	7.10 以降
ProLiant BL20p G3	2006.02.14 (25 May 2006)	1.80 以降	Windows および Linux	7.10 以降
ProLiant BL20p G4	2007.11.13 (A) (17 Jan 2008)	1.24 以降	Windows および Linux	7.50 以降
ProLiant BL25p		1.70 以降	Windows および Linux	7.20 以降
ProLiant BL25p G2	2007.09.23 (A) (4 Dec 2007)	1.24 以降	Windows および Linux	7.60 以降
ProLiant BL25xwp		1.88 以降	Windows および Linux	
ProLiant BL30p	2005.10.27 (21 Jun 2006)	1.70 以降	Windows および Linux	7.10 以降
ProLiant BL35p		1.70 以降	Windows および Linux	7.20 以降
ProLiant BL40p	2003.07.25 (12 Aug 2003)	1.70 以降	Windows および Linux	7.10 以降
ProLiant BL45p		1.70 以降	Windows および Linux	7.20 以降
ProLiant BL45p G2	2007.09.23 (A) (4 Dec 2007)	1.24 以降	Windows および Linux	7.60 以降

¹ オペレーティングシステムの具体的なバージョンについては、<http://www.hpe.com/info/os-support-matrix> (英語) に掲載されている ProLiant サポートマトリックスを参照してください。

表 11 : サポートされる c-Class インターコネクト/スイッチ

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
Cisco Catalyst ブレードスイッチ 3020 (HPE c-Class BladeSystem 向け)	12.2(25)SEF1
Cisco Catalyst Blade Switch 3120G for Hewlett Packard Enterprise	IP Base IOS ファームウェアパッケージ ¹
Cisco Catalyst Blade Switch 3120X for Hewlett Packard Enterprise	IP Base IOS ファームウェアパッケージ ¹
Cisco MDS 9124e ファブリックスイッチ	3.3(1a)
HPE 1:10Gb Ethernet BL-c スイッチ	1.0.0
HPE 1Gb Ethernet パススルーモジュール (HP c-Class CloudSystem 向け)	なし
HPE 10Gb Ethernet BL-c スイッチ (c クラス BladeSystem 向け)	1.1.0
HPE 1/10Gb Ethernet ブレードスイッチ	1.0.0
HPE 1/10Gb Virtual Connect Ethernet モジュール	1.22
HPE 1/10Gb-F バーチャルコネクトイーサネットファイバーモジュール	1.22
HPE 1/10Gb-F VC モジュール	なし
HPE 3Gb SAS BL-c パススルーモジュール	なし
HPE 4Gb ファイバーチャネルパススルーモジュール (c-Class CloudSystem 向け)	なし
HPE 4Gb バーチャルコネクトファイバーチャネルモジュール (c-Class CloudSystem 向け)	1.22
HPE GbE2c Ethernet Blade Switch for Hewlett Packard Enterprise	2.0.4
HPE GbE2c レイヤー 2/3 Ethernet ブレードスイッチ	2.0.4
HPE Virtual Connect Flex-10 10Gb Ethernet モジュール for CloudSystem c-Class	2.25
HPE Virtual Connect 8Gb 24 ポートファイバーチャネルモジュール	なし
Brocade 8Gb SAN Switch for HP CloudSystem c-Class	なし

表は続く

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
HPE VC FlexFabric-20/40 F8 モジュール	4.30
QMH2562 8Gb FC for HPE CloudSystem c-Class	4.04.04
LPe 1205-HP 8Gb FC for c-Class	1.10a4
HPE 3G SAS BL スイッチモジュール	なし
HPE VC 16GW 24-Port FC モジュール	4.30

¹ IP Base IOS ファームウェアパッケージについて詳しくは、<http://www.hpe.com> を参照してください。

表 12 : サポートされる e-Class インターコネク ト/スイッチ

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
HPE CloudSystem PC Blade スイッチ	1.1.1.4 Rev. A
HPE ProLiant BL e-Class (C-GbE) インターコネク トスイッチ	2.1.6 A

表 13 : サポートされる p-Class インターコネク ト/スイッチ

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
Brocade 4GB SAN Switch for HPE p-class CloudSystem	v5.3.0d
Mcddata 4GB SAN Switch for HPE p-class CloudSystem	6.4.0.07.00
HPE ProLiant BL p-Class Cisco Gigabit Ethernet Switch Module	12.2(44)SE
HPE ProLiant BL p-Class GbE Interconnect Switch Module	2.1.9
HPE ProLiant BL p-Class GbE2 Interconnect Switch Module	3.2.3.0

表 14：サポートされるコントローラーおよびアダプター

製品モデル	サポートされるソフトウェア管理ファームウェアのバージョン
HPE FlexFabric 10 GB 2 ポート 556FLB アダプター	Service Pack for ProLiant 2015.10.0
4P 25G Qlogic BB SU (HPE Eth 25Gb 4 ポート 620QSFP28 アダプター)	8.7.32
HP D6020 LFF JBOD	
HPE StoreFabric CN1100R-T アダプター	7.14.59
10G FlexFabric 10 Gb 2 ポート 533FLR-T アダプター	7.14.59
HPE StoreFabric SN1100Q 16 Gb 2-port ファイバーチャネルホストバスアダプター	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE StoreFabric CN1200E 10G BASE-T 2 ポート	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
ELF HP Ethernet 10 Gb 2 ポート 557SFP+アダプター	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE StoreFabric 84Q 4-port 8 Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター	Service Pack for ProLiant 2016.04.0
HPE FlexFabric 10 Gb 4 ポート 536FLR-T アダプター (ALOM)	7.14.59
2P 10/25G Mlnx cx4lx SU	14.14.2200
2P 10/25G Mlnx cx4lx ALOM	14.14.2200
Mellanox ConnectX 4 HCA*パブリック-PCI-e 直立型カード	14.14.2200
HP Flex-10 10 Gb 2 ポート 562FLR-SFP+アダプター	f4.50.37442
HP Flex-10 10 Gb 2 ポート 562SFP+アダプター (直立型)	f4.50.37442
10G Base-T	7.14.59
HP FlexFabric 10 Gb 2 ポート 556FLR-T アダプター	Service Pack for ProLiant 2015.10.0
HPE FlexFabric 10 Gb 2 ポート 533FLR-T アダプター	7.14.59
HPE Synergy 3530C 16Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター	Service Pack for ProLiant 2016.10.0

表は続く

製品モデル	サポートされるソフトウェア管理ファームウェアのバージョン
HPE Ethernet 25Gb 2 ポート 640FLR-SFP28 アダプター	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Ethernet 25 Gb 2 ポート 640SFP28 アダプター	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Store Fabric SN1100E 4 ポート	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE SN1600Q 32 Gb 1P/2P ファイバーチャネルホストバスアダプター	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE StoreFabric SN1200E 16Gb 1P/2P ファイバーチャネルホストバスアダプター	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE StoreFabric SN1600E 32Gb 1P/2P ファイバーチャネルホストバスアダプター	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Synergy サーバー用、H240nr Smart アレイコントローラー	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Synergy サーバー用、P240nr Smart アレイコントローラー	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Synergy 用、デュアル外部 M.2 HP ハードウェア/ソフトウェア RAID	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HE Synergy サーバー用、P542d Smart アレイコントローラー	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Synergy サーバー用、QLogic 20 Gb 2 ポートメザニンカード	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Synergy サーバー用、QLogic 16 Gb FC	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE Synergy サーバー用、QLogic 20 Gb 2 ポートメザニンカード	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HE Synergy サーバー用、P542d Smart アレイコントローラー	Service Pack for ProLiant 2016.10.0
HPE NC382m 2 ポート 1GbE BL-c アダプター	ブートコードバージョン 4.4.14 および MBA バージョン 4.4.16
HPE NC532m 2 ポート 10GbE BL-c アダプター	ブートコードバージョン 4.5.10 および MBA バージョン 4.5.20
Infiniband 10 Gb および FDRN/EN 40 Gb 544+M アダプター	2.34.5000-Flex-3.4.521
Mellanox 10G ALOM CX3-Pro	2.30.8050

表は続く

製品モデル	サポートされるソフトウェア管理ファームウェアのバージョン
Mellanox 10G Stand-up CX3-Pro	2.30.8050
HPE Ethernet 10Gb 2 ポート 557SFP+アダプター	2015.06.01
Infiniband FDR 544+FLR アダプター	2.34.5000-Flex-3.4.521

HPE Insight Remote Support

HPE Insight Remote Support と HPE Systems Insight Manager ではシステム要件が異なります。HPE SIM での HPE Insight Remote Support の利用方法、システム要件、および製品サポートについては、<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs> にある Insight Remote Support のドキュメントを参照してください。

CMS への Systems Insight Manager の初期インストール

システムの準備

ここでは、HPE Systems Insight Manager を Windows システムに新規インストールする際の手順について説明します。HPE Systems Insight Manager の以前のバージョンがインストールされているシステムで、データをアップグレードしたい場合は、**HPE Systems Insight Manager のアップグレード**を参照してください。

この手順では、システムが最小要件を満たしているかどうかを検証し、インストールの準備をします。

1. CMS をインストールして設定します。詳しい作業手順については、この章を参照してください。
2. 各自の環境に合わせて HPE Systems Insight Manager を設定します。**HPE Systems Insight Manager の設定**を参照してください。
3. CMS で管理する予定のシステム上に、必要な HPE Insight マネジメントエージェントをインストールして設定します。この手順については、**管理対象システムのセットアップと設定**の最初の項を参照してください。
4. 管理対象システムのための残りのプロトコルを設定します。**管理対象システムのセットアップと設定**を参照してください。

注記:

Windows 上に CMS をインストールする場合、CMS のロケールはユーザーのデスクトップロケールを使用して決定されます。たとえば、ドイツ語版の Windows システムに CMS をインストールする場合、ユーザーのデスクトップロケールが英語だと、インストールされる CMS も英語版の CMS になってしまいます。

mxlog.txt (ログファイル) の言語は、現時点では、CMS のロケールによって決まります。インストーラーのユーザーデスクトップロケールがドイツ語であれば、mxlog.txt はドイツ語で記録されます (CMS が英語版の Windows システムにインストールされブラウザのロケールも英語の場合でも)。

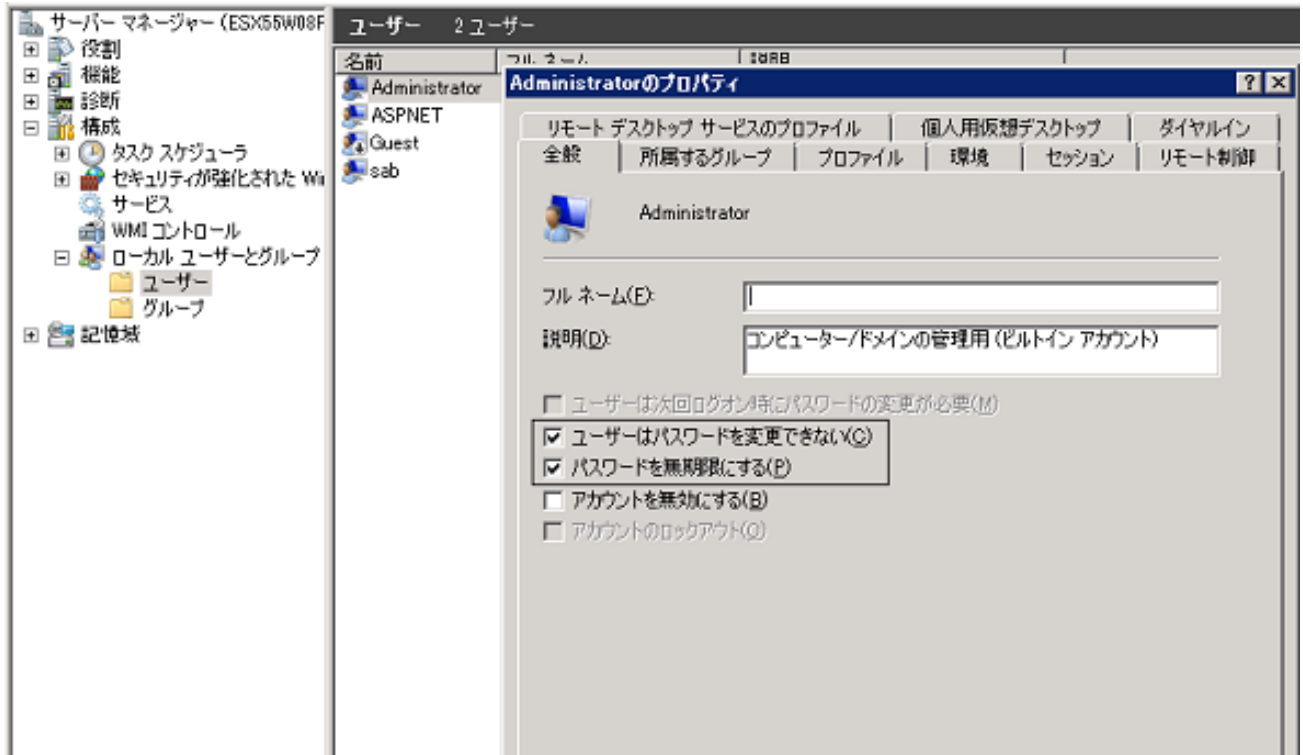
これは、HPE SIM サービスのログオンプロパティが、Local System ではなく、システム環境を指定するインストールユーザー名に設定されるため発生します。サービスがデータベースアクセスやその他の CMS 設定に必要な証明書を保有するには、アプリケーションをインストールしたユーザーの証明書を使用してサービスを実行する必要があります。

別の言語 (ドイツ語または英語) でログを記録したい場合は、以下の 3 つの方法を使用できます。

- HPE SIM サービスを停止します。HPE SIM サービスのログオンプロパティで指定されているユーザーアカウント (インストールを実行したユーザー) のデフォルトロケールを、希望の言語に変更し、サービスを再起動します。
- HPE SIM サービスを停止します。HPE SIM サービスのログオンユーザーを、ローカル管理者のアカウントに変更し、そのロケールが希望の言語に設定されていることを確認します。サービスを再起動します。
- 上記のどちらのアカウントのデフォルトロケールも変更したくない場合は、目的のデフォルトロケールを設定した管理者レベルアカウントを新しく作成します。その後、作成した新規の管理者レベルアカウントを指定して、HPE SIM をアンインストールし、再インストールします。

HPE SIM をインストールする予定の CMS のパスワードについては、次の 2 つのオプションをチェックしておく必要があります。そうしないと、データベースのインストールが失敗します。

- ユーザーはパスワードを変更できない
- パスワードを無期限にする



システムの検証と準備

1. システムが最小要件を満たしているかどうかを検証します。詳しくは、**システム要件**を参照してください。
2. 必要な Windows および Microsoft SQL Server の Service Pack をインストールします。

注記:

リモート SQL データベースを使用している場合は、デフォルトの「Master」を使用して、必要なすべてのデータベースが正しい権限で作成されるようにしてください。

3. システム上に、NTFS ファイルシステム形式でフォーマットされたパーティションが少なくとも 1 つあることを確認します。HPE Systems Insight Manager サーバーソフトウェアはこの形式のパーティションにインストールする必要があります。
この形式のパーティションがない場合は、HPE Systems Insight Manager で使用するための NTFS パーティションを作成またはフォーマットしてください。
4. MDAC (Microsoft Data Access Components) 2.7 Service Pack 1 以上がインストールされていることを確認します。Windows 2008 を使用している場合、C: \Program Files\Common Files\System\Ado に移動して、msado15.dll ファイルのアイコンを右クリックします。**プロパティ > 詳細タブ**を選択してファイルバージョンを表示します。上記のパス内にこのファイルが見つからなければ、Windows の検索エンジンを使用してファイルを探してください。MDAC をダウンロードする必要がある場合は <http://www.microsoft.com/downloads/> にアクセスし、MDAC Service Pack を検索してください。
5. System Management Homepage のカスタムインストールを行う場合は、インストールを開始する前に、<http://www.hpe.com/jp/servers/smh> に掲載されている HPE System Management Homepage インストール/コンフィギュレーションガイドを参照して、製品管理者、サービスアカウント、およびデータベース管理者の固有のユーザー名要件を確認してください。

HPE Systems Insight Manager は、以下に示す 3 つの方法でインストールできます。

- 標準インストール - 最小限のユーザー操作が必要です。詳しくは、**標準インストール**を参照してください。
 - カスタムインストール - インストールするコンポーネントを選択できます。また、各コンポーネントについてデフォルト以外の値を使用できます。詳しくは、「カスタムインストール」を参照してください。
 - サイレントインストール - ユーザー操作は不要です。管理者は、コマンドラインオプションを使用して HPE Systems Insight Manager をターゲットシステムにインストールできます。詳しくは、「サイレントインストール」を参照してください。
6. ソフトウェアをダウンロードするか、または HPE Insight Management DVD からインストールします。

ソフトウェアをダウンロードするには <http://www.hpe.com/info/hpesim> (英語) にアクセスし、ページ左上の HPE Systems Insight Manager の下で、ダウンロードをクリックしてください。HPE Systems Insight Manager のダウンロードページが表示されます。Systems Insight Manager ダウンロードの下で、SIM - Windows (英語サイト) を選択します。最新バージョンを選択して、製品全体をインストールします。

HPE Insight Management DVD からインストールする場合は、DVD を DVD-ROM ドライブに挿入してください。DVD のオートラン機能により使用許諾契約書が自動的に表示されます。使用許諾契約に同意し、インストーラーを起動する以下の手順のいずれかを実行します。

- **製品**タブをクリックします。HPE Systems Insight Manager の下の**インストール**をクリックします。
- **製品**タブをクリックします。サイドバーの **Foundation Management 製品**の下にある **HPE Systems Insight Manager** を選択してから、HPE Systems Insight Manager の下の**インストール**をクリックします。
- **DVD の内容**をクリックしてから、\HPSIM\win_ia32\にある `setup.exe` を実行します。

注記:

インストールで使用するアカウントと HPE Systems Insight Manager サービスアカウントは、同じ local admins グループに所属している必要があります。初期ログインアカウントとなります。

HPE Systems Insight Manager へようこそウィンドウが表示されます。HPE Systems Insight Manager により、サポートされているバージョンの SQL Server や Oracle がシステムにインストールされているかどうかを確認されます。

注記:

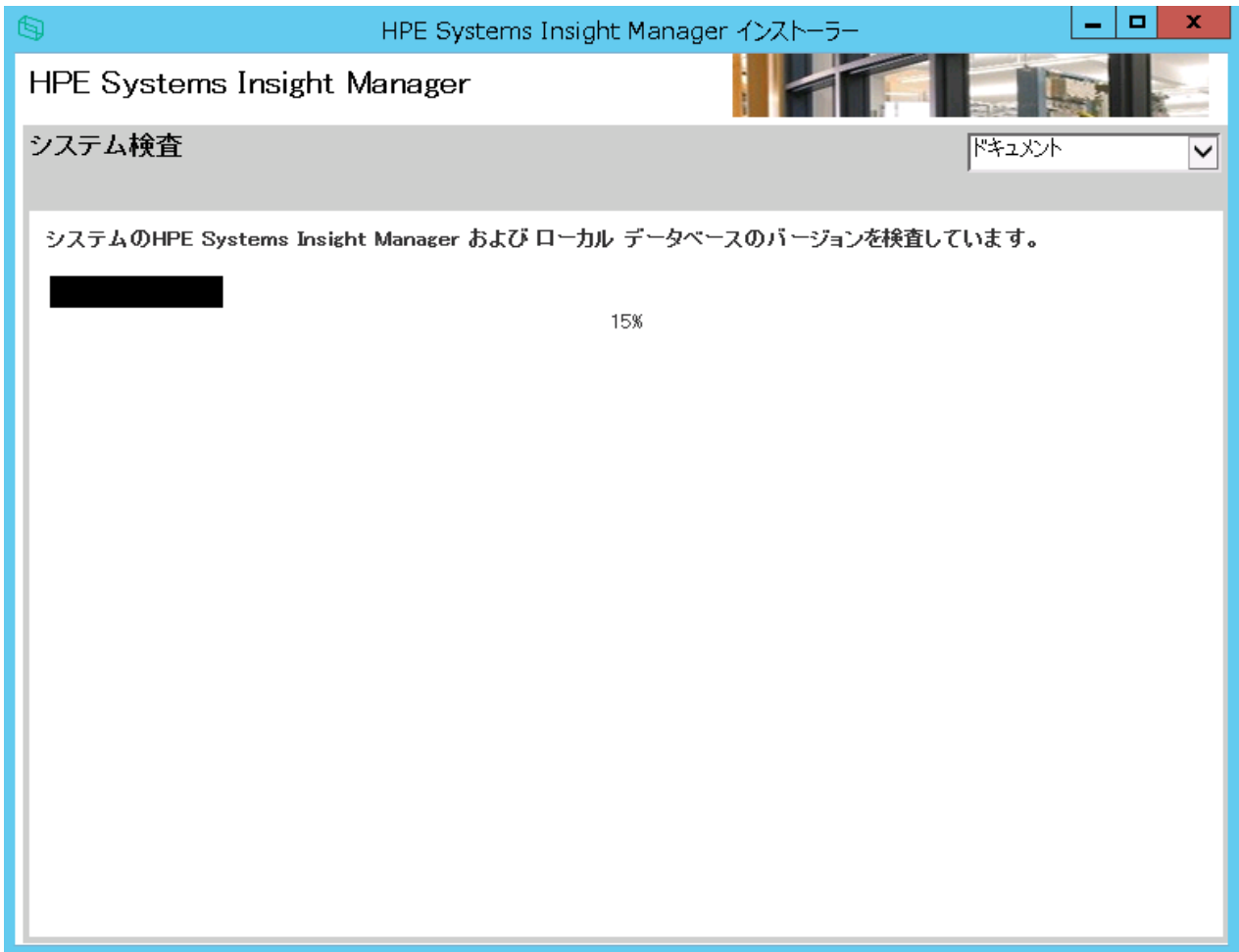
1 台のサーバーに MSDE (Microsoft Data Engine) と HPE Systems Insight Manager および SQL Express をインストールして、サーバー配備を実行することはおすすめしません。

注記:

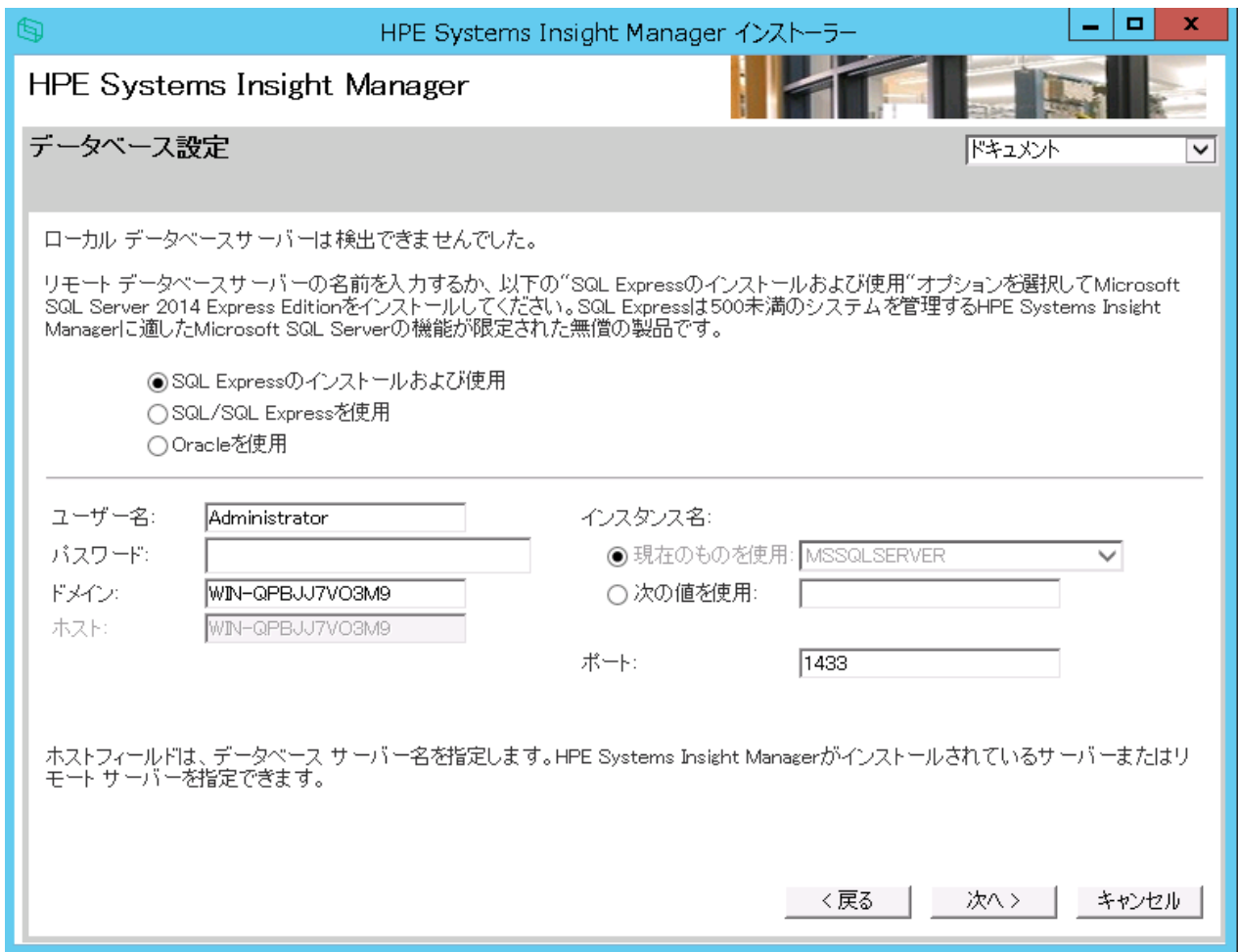
どのダイアログボックスでも、右上隅の選択ボックスをクリックすると、*HPE Systems Insight Manager インストール/コンフィギュレーションガイド*、*ReadMe*、またはリリースノートを参照することができます。



7. **次へ**をクリックします。**システム検査**ウィンドウが表示されます。システムが検査され、HPE Systems Insight Manager の以前のバージョンおよびローカルデータベースの確認が行われます。



システム検査が完了すると、データベース設定ウィンドウが表示されます。



注記:

HPE Systems Insight Manager は、Windows プラットフォーム上の SQL Server と Oracle データベースをサポートします。この機能により、IPV6 対応マシンでホストされるローカルまたはリモートのデータベースをサポートできます。ただし、HPE Systems Insight Manager はリモートデータベースがホストされているホストに接続する目的で IPV6 アドレスをサポートしていません。このため、ホストフィールドにはホスト名または IPV4 アドレスを入力する必要があります。

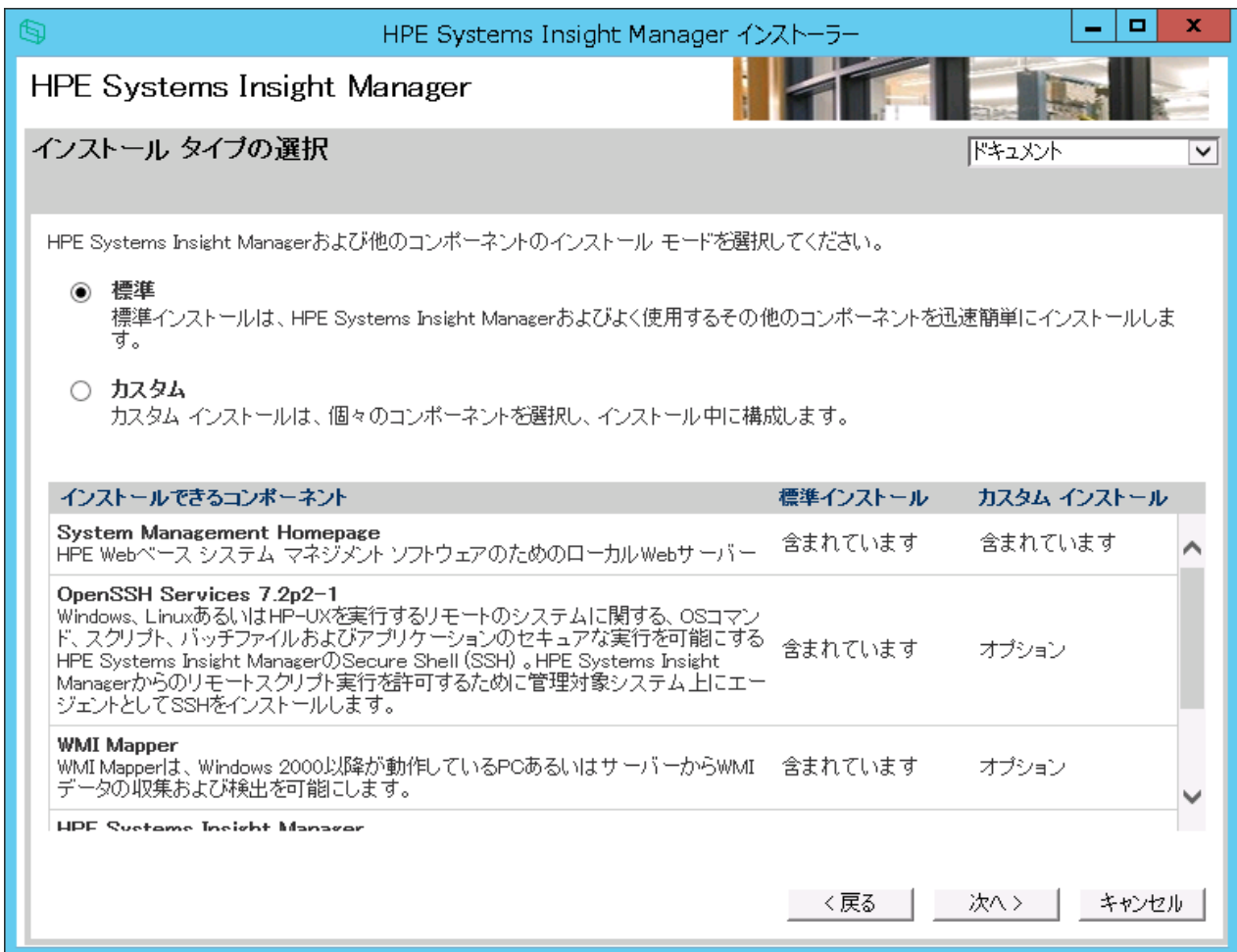
次のデータベースオプションから選択します。

- **SQL Express のインストールおよび使用** — HPE SIM と同じバンドルに含まれている SQL Express データベースをインストールして設定できます。
- **SQL/SQL Express を使用** — ローカルデータベースやリモートデータベースを使用できます。
- **Oracle を使用** — ローカルデータベースやリモートデータベースを使用できます。

注記:

データベースを設定するときに、ユーザー名とパスワードが無効でないことを確認します。無効なパスワードを入力すると、SQL Express 2014 のインストールが失敗して、The specified credentials for the SQL Server service are not valid. (SQL Server サービス用に指定された認証情報は有効ではありません) というメッセージが表示されます。

8. **インストールタイプの選択**では、希望するインストールタイプを選択できます。



使用できるインストールオプションは次のとおりです。

- 標準インストール**— インストールできるコンポーネントにリストされるコンポーネントをユーザーがほとんど操作することなくインストールしたい場合は、このオプションを選択します。

あるコンポーネントが、CMS にインストールできないコンポーネントの一覧に含まれている場合は、HPE Systems Insight Manager のインストールシェルにより、以下のどちらかと判断されたことが原因です。

 - コンポーネントのインストールに必要な前提条件が満たされていない。
 - バンドルされているものより新しいコンポーネントのバージョンが、すでにインストールされている。

CMS にインストールされているコンポーネントのバージョンが、HPE Systems Insight Manager のインストールシェルにバンドルされているバージョンよりも古く、かつインプレースアップグレードがサポートされている場合には、そのコンポーネントは一覧内に示されます。
- カスタムインストール**— インストール時にインストールできるコンポーネントにリストされている各コンポーネントを選んで設定したい場合は、このオプションを選択します。

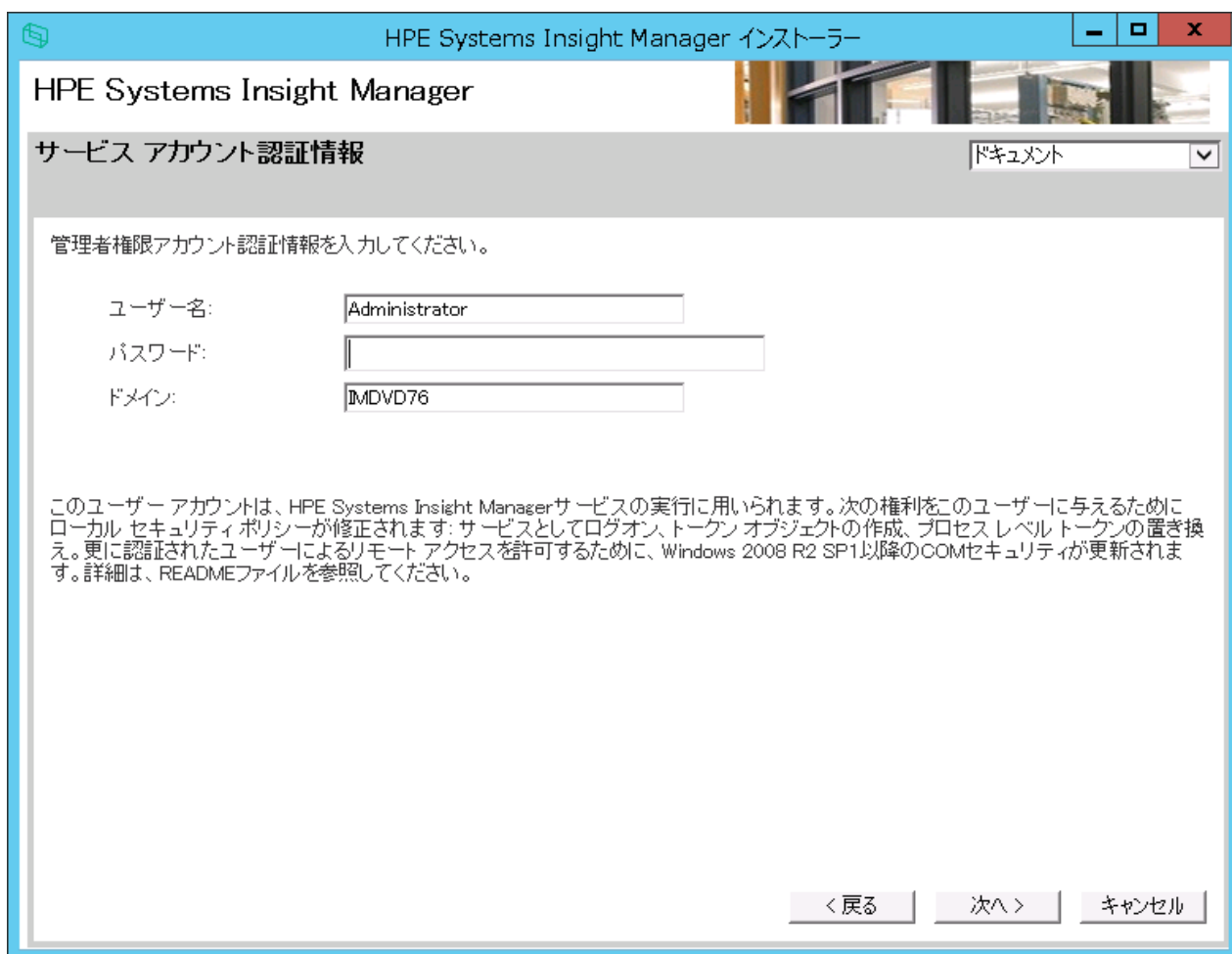
標準インストール

手順

1. 標準インストール
1. 次へをクリックすると、サービスアカウント認証情報ウィンドウが表示されます。ドメインフィールドとユーザー名フィールドは、デフォルトで、インストールを行ったアカウントの認証情報に設定されていますが、変更できます。

注記:

このユーザーアカウントは、Systems Insight Manager サービスを実行するために使用されます。



The screenshot shows a window titled "HPE Systems Insight Manager インストーラー". The main content area is titled "サービス アカウント 認証情報" (Service Account Authentication) and contains the following text and fields:

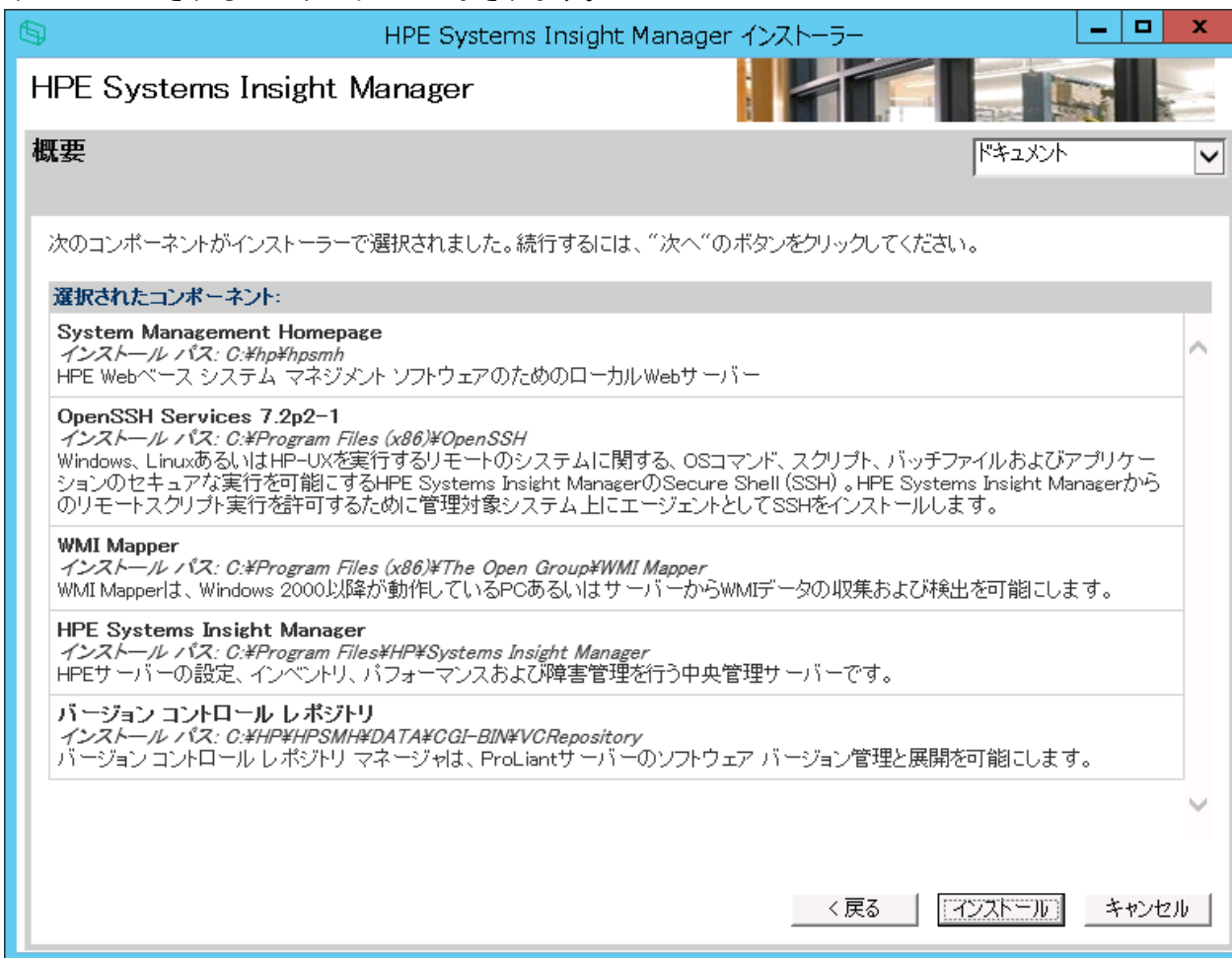
管理者権限アカウント認証情報を入力してください。

ユーザー名: Administrator
パスワード: [Redacted]
ドメイン: IMDVD76

このユーザー アカウントは、HPE Systems Insight Manager サービスの実行に用いられます。次の権利をこのユーザーに与えるためにローカル セキュリティ ポリシーが修正されます: サービスとしてログオン、トークン オブジェクトの作成、プロセス レベル トークンの置き換え。更に認証されたユーザーによるリモート アクセスを許可するために、Windows 2008 R2 SP1以降のCOMセキュリティが更新されます。詳細は、READMEファイルを参照してください。

Navigation buttons at the bottom: < 戻る, 次へ >, キャンセル

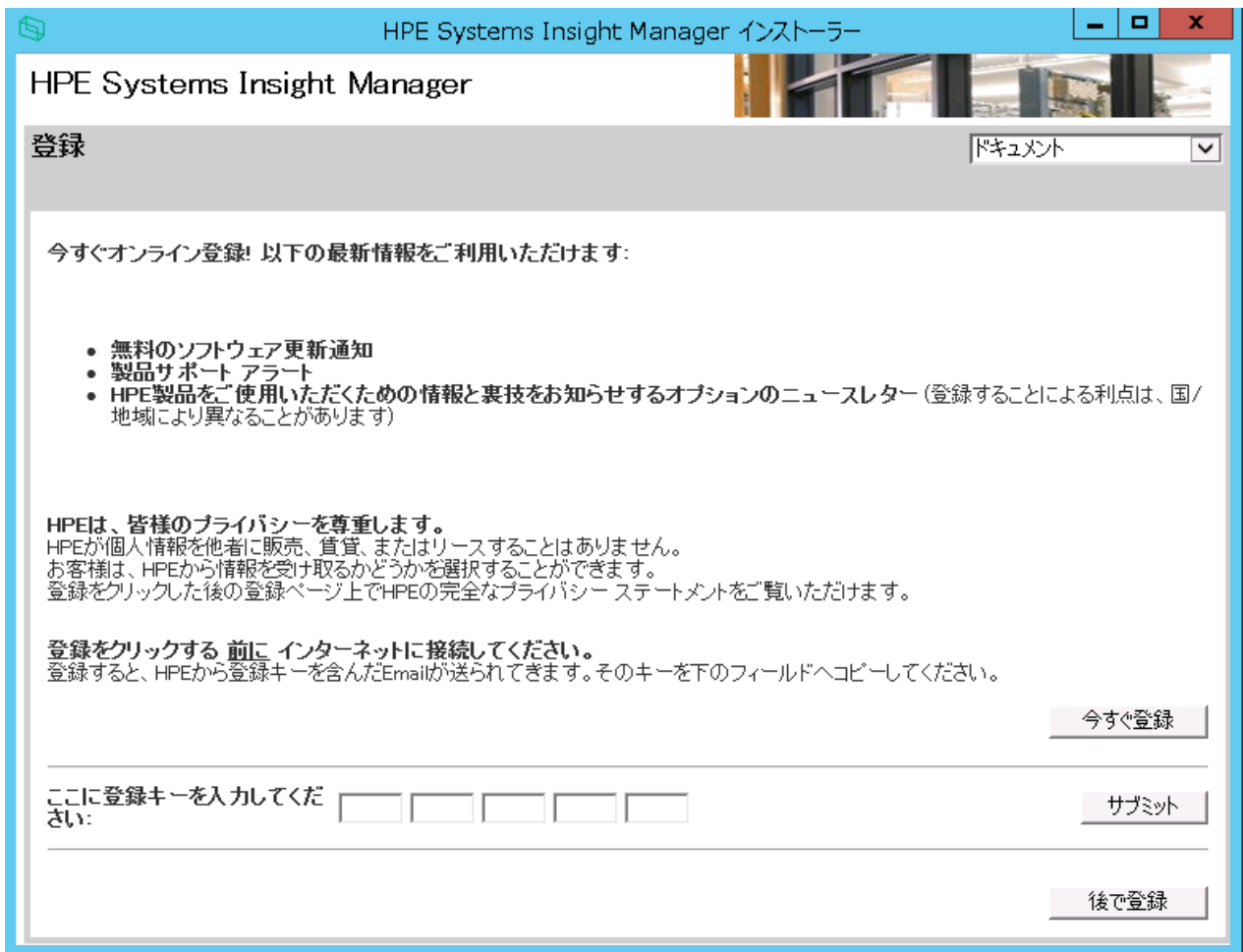
- このアカウントのパスワードを入力してください。次へをクリックすると、概要ウィンドウが表示され、インストールされるコンポーネントが示されます。



- インストールをクリックすると、インストールが開始され選択されたコンポーネントテーブルにリストされたすべての製品がインストールされます。ステータスウィンドウが表示されます。各コンポーネントのインストール中、このウィンドウのコンポーネント名の横には進行中というステータスが表示されます。コンポーネントのインストールが完了すると、ステータス表示は正常にインストールされましたに変わります。
- すべてのコンポーネントがインストールされたら、次へをクリックします。登録ウィンドウが表示されます。Systems Insight Manager を登録するか、後で登録をクリックします。

注記:

完全な設定権限があるユーザーが最初に HPE Systems Insight Manager にログインすると、ファーストタイムウィザードの登録ウィンドウとファーストタイムウィザードが表示されます。画面上の指示に従って、HPE SIM を登録します。あるいは、後で登録をクリックして、後で登録することもできます。ご使用の HPE SIM システムがインターネットに接続されていない場合は、インターネットにアクセスできるシステムに移動して <http://www.hpe.com/info/swdepot/HPSIM-Registration> にアクセスして、登録を行いコードを入手できます。これにより登録を確認でき、以降に登録の指示が表示されなくなります。ファーストタイムウィザードは、HPE SIM の初期セットアップの基本設定のみを行います。詳しくは、**Hewlett Packard Enterprise Information Library** にある *HPE Systems Insight Manager ユーザーガイド* を参照してください。



5. 登録するか、**後で登録**をクリックすると、**インストール完了**ウィンドウが表示されます。新規インストールの場合、「この新しいインストールのためにオペレーティングシステムアカウントを作成し、このコンピュータの HPE System Management Homepage で設定する必要があります。そして、新しいアカウントを使うために個々のバージョンコントロールエージェントが設定されなければなりません。詳しくは、バージョンコントロールインストールガイド: http://h17007.www1.hp.com/us/en/enterprise/servers/solutions/info-library/index.aspx?cat=insightmanagement&subcat=sim#.VZEPa0b0_5 を

参照してください。」という内容のメッセージが表示されます。



6. 画面にリブートオプションが表示されます。デフォルトでは、**はい、今すぐシステムを再起動します**。オプションが選択されています。**完了**をクリックして、システムを再起動します。以上で、標準インストールは完了です。詳しくは、**次のステップ**を参照してください。

注記:

標準インストール中に、HPE System Management Homepage のデフォルト設定が保存される位置および設定の変更方法について詳しくは、<http://www.hp.com/jp/servers/smh> に掲載されている *HPE System Management Homepage インストール/コンフィギュレーションガイド* を参照してください。

次のステップ

Windows および HPE Systems Insight Manager と System Management Homepage の任意のバージョンを実行するシステムや、Windows を実行しサポートされる任意のオペレーティングシステム上で実行される HPE Systems Insight Manager にブラウザ経由でアクセスする任意のシステムでは、以下の手順を完了する必要があります。

- **System Management Homepage へのアクセスを許可するための、Windows ファイアウォールの設定**
 1. Windows システムで、**スタート > 設定 > コントロールパネル > セキュリティセンター > Windows ファイアウォール**を選択して、ファイアウォールを設定を変更します。
 2. **例外タブ**を選択し、**ポートの追加**をクリックします。
 3. ファイアウォール保護に、次の例外を追加します。製品名およびポート番号をそれぞれ入力してください。

表 15 : ファイアウォール保護の例外

説明	ポート	プロトコル
HPE SMH Web サーバー ¹	2301	TCP
HPE SMH セキュア Web サーバー ¹	2381	TCP
WBEM/WMI Mapper	5988	TCP
WBEM/WMI Mapper セキュアポート ²	5989	TCP
SSH ポート	22	SSH
SNMP エージェント	161	SNMP
ping 検出 (ICMP) ³	7	ICMP
ping 検出 (TCP) ³	80	TCP

¹ システムが HPE Systems Insight Manager から管理されていない場合は、ブラウザーが System Management Homepage にアクセスできるように、ポート 2301 および 2381 のみを設定してください。

² HPE SIM は、wbemportlist.xml ファイルの編集による WBEM の代替ポートをサポートします。wbemportlist.xml ファイルの編集について詳しくは、[サイレントインストール](#)の項を参照してください。

³ 使用方法は HPE Systems Insight Manager で設定できます。

4. ポートの追加ウィンドウで、**OK** をクリックします。
5. **Windows** ファイアウォールウィンドウで、**OK** をクリックします。

この設定により、Windows のセキュリティ強化はそのまま、ポートのトラフィックが許可されます。

注記:

この設定により、Windows のセキュリティ強化はそのまま、ポートのトラフィックが許可されます。

• **WMI Mapper がインストールされている CMS の設定**

ファイアウォールが「オン」になっている場合、以下の手順に従ってください。

1. コントロールパネルから、**Windows** ファイアウォールをクリックします。
2. **Windows** ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可するをクリックします。
3. 別のプログラムの許可をクリックします。
4. <Mapper ディレクトリ>/bin に移動します。
5. Wbemcons.exe をパスに含めて、実行します。

• **WMI Mapper がインストールされている管理対象ノードの設定**

当該の管理対象ホストのローカルグループポリシー内部の Administrators ユーザーグループに含まれる認証情報で管理対象ノードにアクセスする場合は、変更は不要です。ただし、管理対象ノード上のユーザーアカウント制御が「オフ」でなければなりません（ローカルおよびドメインコントローラーのポリシーで）。

ユーザーアカウント制御が「オン」の場合は、Administrators グループのメンバーであるかどうかに関わらず、次のタスクを実行してください。

WMI 経由でユーザーに権限を付与するために、dcomconfig で次の操作を実行します。

1. **スタート > ファイル名を指定して実行**の順に選択します。dcomcnfg と入力します。
2. **OK** をクリックします。
3. **コンポーネントサービス**をダブルクリックし、**コンピューター**をダブルクリックし、**マイコンピューター**をダブルクリックし、**DCOM の構成**をクリックします。
4. 詳細ペインで、**Windows Management Instrumentation**を探してこのプログラムを右クリックし、**プロパティ**をクリックします。
5. **Security** タブを選択します。
6. **起動とアクティブ化のアクセス許可**エリアで、**カスタマイズ**をクリックし、**編集**をクリックします。
7. リストから **Everyone** を選択します。

注記:

ユーザー名がリストに掲載されていない場合は、まず名前を追加する必要があります。

8. ユーザーを選択した状態で、次の項目の**許可**チェックボックスをクリックします。
 - ローカルからの起動
 - ローカルからのアクティブ化
 - リモートからのアクティブ化
9. **OK** をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

WMI にリモートからアクセスする権限を設定するには、次の手順を実行します。

1. **コントロールパネル**で、**管理ツール**をダブルクリックします。
2. **管理ツール**ページで、**コンピューターの管理**をダブルクリックします。
3. **コンピューターの管理**ページで、**サービスとアプリケーションツリー**を展開して、**WMI コントロール**をダブルクリックします。
4. **プロパティ**を選択します。
5. **セキュリティ**タブで、**名前空間**を選択して、**セキュリティ**をクリックします。
6. 該当するアカウントを見つけるか追加して、**アクセス許可**リストで、**リモートの有効化**にチェックを入れます。
7. root 内部のすべての副名前空間にアクセス権を付与する場合は、手順 6 で**詳細設定**を選択します。ユーザーの**追加**を選択します。

注記:

ユーザーがすでに存在し、そのアクセス許可を継承する場合またはそのユーザーが**リモートの有効化**アクセス許可を持っていない場合は、**編集**を選択します。

8. **適用先**リストボックスで、この**名前空間と副名前空間**を選択して、**リモートの有効化**を選択します。
9. WMI Mapper 経由でホストに要求を行うときに使用できる認証情報を持つユーザーに、権限を付与します。

注記:

管理対象ノードにアクセスするには、イベントのサブスクリプションの作成に使用する認証情報が Administrators グループに含まれていなければなりません。

ドメインコントローラーが課しているセキュリティポリシーなどの理由で、管理対象ノードでユーザーアカウント制御をオフにできない場合は、イベントのサブスクリプションの作成に使用する認証情報がローカルの Administrator に所属する必要があります。ユーザーアカウントの制御が「オン」の場合は、ユーザーが Administrators グループのメンバーであっても、リモート要求に使用する認証情報は Administrator の認証情報とは見なされません。

• **ファイルとプリンターの共有およびリモート管理の例外的有効化**

1. 次の手順を実行して、ファイルとプリンターの共有を有効にします。
 - a. **スタート > 設定 >** の順に選択し、**コントロールパネル**を選択します。
 - b. **セキュリティセンター**を選択します。

- c. **Windows ファイアウォール**をクリックします。ファイアウォールの設定ウィンドウが開きます。
 - d. **例外タブ**をクリックします。
 - e. **ファイルとプリンターの共有**チェックボックスを選択します。
 - f. **OK**をクリックします。
2. 次の手順を実行して、リモート管理の例外を有効にします。
- a. コントロールパネルで、**グループポリシーエディター**を開きます。
 - b. **コンピューターの構成**を選択します。
 - c. **管理用テンプレート**を選択します。
 - d. **ネットワーク**を選択します。
 - e. **ネットワーク接続**を選択します。
 - f. **Windows ファイアウォール**を選択します。
 - g. **ドメインプロファイル**を選択します。
 - h. **Windows ファイアウォール：着信リモート管理の例外を許可する：有効**を選択します。
- **Windows 2008 を設定して、Windows 2008 および HPE SIM を実行するシステムで HPE SIM にアクセスできるようにする**
 - 1. Windows 2008 システムで、**コントロールパネル**に移動してファイアウォールを設定を変更します。**スタート > 設定 > コントロールパネル > セキュリティセンター > Windows ファイアウォール > 詳細設定**を選択してください。
 - 2. **受信の規則**タブをクリックします。
 - 3. **新しい規則**タブを選択し、**ポートの追加**をクリックします。
 - 4. 製品名およびポート番号をそれぞれ入力してください。

製品	ポート	プロトコル
SNMP Trap Listener	162	SNMP トラップ (UDP)
HPE Systems Insight Manager Web Server	280	TCP
RMI レジストリ	2367	TCP
JBoss RMI/JRMP Invoker ¹	4444	TCP
JBoss Pooled Invoker ¹	4445	TCP
JBoss Web Service ポート ¹	8083	TCP
HPE Systems Insight Manager Secure Web Server	50000	TCP
HPE Systems Insight Manager SOAP ²	50001	TCP
HPE Systems Insight Manager SOAP、クライアント証明書認証 ²	50002	TCP
HPE Systems Insight Manager SOAP ²	50003	TCP
HPE Systems Insight Manager WBEM Event Receiver ²	50004	TCP ²

表は続く

製品	ポート	プロトコル
WBEM イベント	50005	TCP
PostgreSQL	50006	TCP
JBoss Naming Service RMI ポート ¹	50008	TCP
JBoss Naming Service ポート ¹	50009	TCP
HPE Systems Insight Manager VMM Essentials v 1.1.2.0	5010	TCP
Web サービス RMI クラスローダー	5013	TCP
JRMP invoker	5014	TCP
Pooled invoker	5015	TCP

¹ SIM/jboss/server/hpim/conf/jboss-service.xml 記述子で設定できます。

¹ HPE Systems Insight Manager で設定できます。

この設定により、Windows 2008 のセキュリティ強化はそのまま、この表に示されたポートのトラフィックが許可されます。

CMS での、HPE Systems Insight Manager のインストールと初期化が完了しました。HPE Systems Insight Manager にアクセスするには、インストール後デスクトップに表示されるアイコンを使用するか、または Internet Explorer や Firefox を使用して、http://<IP_Address>:280/にアクセスし HPE Systems Insight Manager の GUI を起動します。

ファーストタイムウィザードを使用して HPE Systems Insight Manager を設定するには、**ファーストタイムウィザードによる HPE Systems Insight Manager の設定**を参照してください。

CMS で管理する予定のシステム上に必要なマネジメントエージェントをインストールして設定する方法の詳細については、**管理対象システムのセットアップと設定**を参照してください。次に、HPE Systems Insight Manager の初期セットアップ手順を実行します。初期セットアップ手順では、管理対象システムの追加、ユーザーの追加、権限のセットアップ、イベント処理の設定などを行います。

注記:

HPE Systems Insight Manager の登録がまだ済んでいない場合、管理者権限があるユーザーが最初に HPE Systems Insight Manager にログインすると、HPE Systems Insight Manager の登録ウィンドウとファーストタイムウィザードが表示されます。画面上の指示に従って、HPE Systems Insight Manager を登録します。あるいは、後で登録をクリックして、後で登録することもできます。

ファーストタイムウィザードは、HPE Systems Insight Manager の初期セットアップの基本設定のみを行います。HPE Systems Insight Manager のグラフィカルユーザーインターフェイスでは追加の設定オプションを利用できます。詳しくは、**オプションメニューによる HPE Systems Insight Manager の設定**または **Hewlett Packard Enterprise Information Library の HPE Systems Insight Manager ユーザーガイド**を参照してください。

HPE Systems Insight Manager の設定

この時点で、以下の手順 1 は完了しています。ステップ 2 を実行し、ファーストタイムウィザードを使用して各自の環境に合わせて HPE Systems Insight Manager を設定するか、[オプションメニューによる HPE Systems Insight Manager の設定](#) (54 ページ) に進んでください。

1. CMS をインストールして設定します。詳細な作業手順については、[CMS への Systems Insight Manager の初期インストール](#) (36 ページ) を参照してください。
2. 各自の環境に合わせて HPE Systems Insight Manager を設定します。ファーストタイムウィザードの詳細な手順については、この章を参照してください。
3. CMS で管理する予定のシステム上に、必要な管理ソフトウェアをインストールして設定します。この手順について詳しくは、[管理対象システムのセットアップと設定](#) (56 ページ) を参照してください。
4. 管理対象システムのための残りのプロトコルを設定します。詳しくは、[管理対象システムのセットアップと設定](#) (56 ページ) を参照してください。

ファーストタイムウィザードによる HPE Systems Insight Manager の設定

HPE SIM の初期セットアップでは、HPE SIM CMS の初期設定、ならびに[管理対象システムのセットアップ、検出の設定](#)、イベント処理の設定、ユーザーの追加、認証の定義などを正しい順序で行うために、ファーストタイムウィザードを使用します。初回セットアップを行うには、[CMS への HPE Systems Insight Manager の初期インストール](#)に従って CMS のインストールを実行する必要があります。

ファーストタイムウィザードは、管理者権限があるユーザーが最初に HPE SIM にサインインするときに、自動的に起動します。HPE SIM のインストールに使用された管理者アカウントが、管理者の初期アカウントです。ウィザードを完了する前にキャンセルすると、管理者権限があるユーザーがサインインするたびにウィザードが再度起動します。**今後自動的にこのウィザードを表示しない**。チェックボックスを選択してキャンセルをクリックすると、ウィザードを取り消して自動的に起動しないようにすることができます。**オプション > ファーストタイムウィザード**を選択すると、ウィザードを手動で起動できます。

ファーストタイムウィザードは、CMS で設定を行う際に役立ちます。設定が完了したら、**次へ**をクリックして、ファーストタイムウィザードの設定手順を続けます。ファーストタイムウィザードでは、ユーザーが**概要**ページで**完了**をクリックするまでは、変更は適用されません。

注記:

Firefox のデフォルト設定では、ファーストタイムウィザードをブロックします。ファーストタイムウィザードを表示するには、Firefox では、ポップアップブロッカーを無効にする必要があります。

次に、ファーストタイムウィザードの設定画面について簡単に説明します。

• イントロダクション

ファーストタイムウィザードの目的を説明します。ファーストタイムウィザードをキャンセルすることや、管理者権限があるユーザーがサインインしたときにウィザードが自動的に起動しないようにすることができます。

• 管理環境

CMS により管理されるすべてのオペレーティングシステムを示します。ここでの選択により、選択される管理環境だけを対象に HPE Systems Insight Manager が収集、ツール、およびレポートを表示するように設定できます。

このページは、Ignite サーバーの IP アドレス、サインイン認証情報など、各 TDEF (Tools Definition) 選択に関する必要な詳細情報も表示します。

• 検出

検出を有効化し、検出スケジュールを設定し、検出したいシステムの IP アドレス範囲またはホスト名を入力します。検出とは、HPE SIM がネットワーク上のシステム検出およびシステム識別を実行し、その情報に基づいてデータベースを作成するプロセスを指します。データの収集およびシステムヘルスステータスの追跡を行うには、システムを検出する必要があります。

- **認証情報**

オプション > セキュリティ > 認証情報。検出タスクのサインイン認証および SNMP/SNMP v3 認証を設定します。

- **管理対象システムの設定**

設定 > エージェントの設定および修復。管理対象システムの検出時に、WBEM および WMI、SNMP、SSH アクセスと信頼関係を設定して、管理対象システムを設定します。

- **WBEM/WMI Mapper プロキシ**

オプション > プロトコル設定 > WMI Mapper プロキシ。Windows システムの管理対象システム情報を入力し、Mapper プロキシシステムのホスト名とポート番号を入力します。

注記:

このページは、Windows オペレーティングシステムの管理を選択した場合にのみ表示されます。

- **権限の昇格**

オプション > セキュリティ > 権限の昇格。HP-UX、Linux、および ESX 管理対象システムで、非 root ユーザーでサインインした後、root レベルのツールを実行するために権限の昇格を要求する必要がある場合、権限の昇格を有効にします。

- **電子メール**

オプション > イベント > 自動イベント処理 > Email。Email 通知を送信するために CMS が使用する Email 設定を入力します。CMS が特定のイベントを受信したときに HPE Systems Insight Manager に Email を送信するよう指示する自動イベント処理タスクを設定できます。

- **概要**

すべてのファーストタイムウィザード設定と、設定変更またはファーストタイムウィザード終了のためのオプションを表示します。

ファーストタイムウィザードは、HPE SIM の基本設定のみを行います。HPE SIM ファーストタイムウィザードへの情報入力完了したら、**概要**で選択項目を確認し、**終了**をクリックして、設定を保存します。ファーストタイムウィザードについて詳しくは、HPE SIM のヘルプシステムを参照してください。

オペレーティングシステム固有の収集

ファーストタイムウィザードの**管理環境**ページで関連するオペレーティングシステムが選択されていない場合、または HPE Systems Insight Manager UI の**管理環境**ページ (**オプション > 管理環境**を選択) から関連するオペレーティングシステムが選択されていない場合、以下の収集が削除されます。以下の収集は、**タイプ別システム**の下にある**すべての VSE リソース**を除き、**オペレーティングシステム別システム**および**タイプ別クラスター**の下にシステムおよびイベント収集にあります。

表 16 : オペレーティングシステムごとの収集

Windows	Linux	HP-UX	その他
Microsoft Windows Server 2003	Red Hat Linux	HP-UX	SCO Unix
Microsoft Windows Server 2008	SUSE Linux	HP Serviceguard (タイプ別クラスター の下)	HP Tru64 UNIX

表は続く

Windows	Linux	HP-UX	その他
Microsoft Windows NT	Linux	すべての HP Integrity VM ホスト ¹	HP OpenVMS
Microsoft Windows XP	すべての HP Serviceguard クラスタ ¹	すべての Virtual Partition サーバー ¹	Hewlett Packard Enterprise NonStop Server
Microsoft Windows 95、98、ME		すべてのリソースパーティション ¹	HP TruCluster
MSCS クラスタ		すべての共有リソースドメイン ¹	OpenVMS クラスタ
Microsoft Vista		すべての HP Serviceguard クラスタ ¹	Novell Netware
Microsoft Windows 2000		すべての Virtual Partition ¹	AIX
Microsoft Windows Server 2012		HP Serviceguard (タイプ別クラスタの下)	Solaris
Microsoft Windows Server 2016		すべての HP Integrity VM ホスト ¹	デプロイなし

¹ すべての VSE リソースの下にあります。

オペレーティングシステム固有のレポート

次のレポートは、HP-UX 専用であり、HP-UX が選択されるかどうかにより追加または削除されます。Windows や Linux には、固有のレポートはありません。

- セルラシステム - サーバー
- HP-UX ファイルシステム - HP-UX
- HP-UX カーネルパラメーター - HP-UX
- HP-UX 論理ボリューム - HP-UX
- HP-UX ネットワーク詳細 - HP-UX
- HP-UX 物理ボリューム - HP-UX
- HP-UX ソフトウェアバンドル - HP-UX
- HP-UX ソフトウェア製品 - HP-UX
- HP-UX ボリュームグループ - HP-UX
- I-O デバイス - HP-UX
- 論理メモリ詳細 - HP-UX
- オペレーティングシステム詳細 - HP-UX
- IP 経路 - HP-UX

以下のレポートは、HP-UX のデータがないために、HP-UX だけが選択対象になっていると、削除されます。

- システムライセンス情報
- 論理ディスクドライブ
- インストール済みコントローラー
- 物理ディスクドライブ

オプションメニューによる HPE Systems Insight Manager の設定

手順

1. オプションメニューによる管理対象システムの設定

1. プロトコル設定の指定

プロトコル設定により、HPE Systems Insight Manager が管理対象システムと通信する方法が定義されます。プロトコル設定を行うには、**オプション > プロトコル設定 > グローバルプロトコル設定**を選択します。

2. ユーザーとユーザーグループの追加

注記:

CMS に追加されたユーザーは、認証がそのユーザーに対して設定されるまでは、システムの表示や管理を実行できません。

HP-UX および Linux のコマンドラインツール (ls、df など) は、デフォルトで root として実行されます。セキュリティ上の理由により、意図しない機能がユーザーに許可されないように、これらのツールを特定のユーザーとして実行するようにしてください。

ユーザーを追加するには、**オプション > セキュリティ > ユーザーおよび認証 > ユーザー**を選択し、続いて**新規**をクリックします。

ユーザーグループを追加するには、**オプション > セキュリティ > ユーザーおよび認証 > ユーザー**を選択し、続いて**新規**をクリックします。

3. ツールボックスの追加

ツールボックスは、ユーザーがアクセスできるツールのセットを定義します。ツールボックスを追加するには、**オプション > セキュリティ > ユーザーおよび認証 > ツールボックス**を選択し、続いて**新規**をクリックします。

4. 認証の追加

認証により、ユーザーは、システムを表示および管理するためのアクセスが可能になります。各認証は、ユーザーまたはユーザーグループ、ツールボックス、およびシステムまたはシステムグループを指定します。システムに対してどのツールを実行できるかは、割り当てられるツールボックスで指定されます。

それぞれのユーザーがどのシステムを管理するか、およびユーザーが管理対象システムに対して実行する権限があるツールのセットはどれかを、慎重に計画する必要があります。システムに対してツールボックス認証を持たないユーザーは、そのシステムを表示または管理することができません。

認証は追加式です。ユーザーがシステムに対して Toolbox1 を認証されており、同じシステムに対して Toolbox2 も認証されている場合、そのユーザーには、そのシステムに対して Toolbox1 と Toolbox2 両方のすべてのツールが認証されます。同様に、**すべてのツール**ツールボックスについて認証されているユーザーには、そのシステムに対する他のツールボックス認証は不要です。これは、**すべてのツール**ツールボックスには、常にすべてのツールが含まれるためです。

認証を追加するには、**オプション > セキュリティ > ユーザーおよび認証 > 認証**を選択し、続いて**新規**をクリックします。

5. Email 設定の指定

Email 設定により、ユーザーは、特定イベントの発生時に Email による通知を受信できます。Email 設定を指定するには、**オプション > イベント > 自動イベント処理 > Email の設定**を選択します。

6. 自動イベント処理の設定

自動イベント処理の設定では、イベントを受信したときに HPE SIM で自動実行するアクションを定義します。自動イベント処理をセットアップするには、**オプション > イベント > 自動イベント処理 > 新規タスク**を選択します。

7. 検出の設定および実行

検出とは、HPE Systems Insight Manager がネットワーク上のシステム検出およびシステム識別を実行し、その情報に基づいてデータベースを作成するプロセスを指します。検出を設定して実行するには、検出タスクを作成する必要があります。HPE SIM には、1つのデフォルト検出タスク（システム自動検出）が組み込まれています。ただし、特定のシステムを検出するために新しい検出タスクを作成できます。

検出を設定するには、**オプション > 検出**を選択します。

オプションメニューの項目について詳しくは、HPE Systems Insight Manager のヘルプシステムを参照してください。

管理対象システムのセットアップと設定

この時点で、以下の手順 1 と手順 2 は完了しています。ステップ 3 を実行して、必要な管理ソフトウェアをインストールし、設定してください。

1. CMS をインストールして設定します。[CMS への Systems Insight Manager の初期インストール](#) (36 ページ) を参照してください。
2. 各自の環境に合わせて HPE Systems Insight Manager を設定します。[HPE Systems Insight Manager の設定](#) (51 ページ) を参照してください。



重要:

管理対象システムのセットアップを開始する前に、検出を実行しておく必要があります。[HPE Systems Insight Manager の設定](#) (51 ページ) を参照してください。自動検出の設定は、ファーストタイムウィザードに含まれています。

3. CMS で管理する予定のシステム上に、必要な管理ソフトウェアをインストールして設定します。詳しい作業手順については、この章を参照してください。
4. 管理対象システムのための残りのプロトコルを設定します。詳しい作業手順については、この章を参照してください。

概要

管理対象システムのセットアップには、必要な管理ソフトウェアのインストールが含まれます。インストールする管理ソフトウェアは、管理対象システムのタイプによって異なります。

- ストレージシステム
- Windows システム ([Hewlett Packard Enterprise Information Library](#) にある *HPE Systems Insight Manager for Microsoft Windows インストール/コンフィギュレーションガイド* を参照)
- HP-UX ([Hewlett Packard Enterprise Information Library](#) にある *HPE Systems Insight Manager for HP-UX インストール/コンフィギュレーションガイド* を参照)
- Linux ([Hewlett Packard Enterprise Information Library](#) にある *HPE Systems Insight Manager Linux 用 インストール/コンフィギュレーションガイド* を参照)

HPE Systems Insight Manager のインターフェイスを使用した管理対象システムのセットアップ

ユーザーは、HPE Insight managed system setup wizard および Configure or Repair Agents ツールを使用して、エージェントのインストール、ライセンス適用、システム設定の手順を実行し、管理対象システムを設定します。managed system setup wizard および Configure or Repair Agents ツールを複数のシステムに対して同時に実行するためには、これらのツールの実行権限が必要です。また、ノードセキュリティファイルの HPE Systems Insight Manager コミュニティ名を変更するには、CMS の完全な設定権が必要です。さらに、ターゲットシステムに対する root または管理者レベルのユーザー認証情報を入力する必要があります。

管理対象システムに対して Insight Management コンポーネントを使用するには何らかの設定が必要ですが、この設定を簡単にする Systems Insight Manager のプラグインツールが Insight managed system setup wizard です。このウィザードが特に威力を発揮するのは、Matrix Operating Environment コンポーネントで使用するために管理対象システムを設定する場合ですが、Insight Control および Systems Insight Manager の管理対象システムのセットアップにも使用できます。

注記:

HPE SIM をインストールするとき、Insight managed system setup wizard をインストールするための選択をしておく必要があります。

Insight managed system setup wizard を使用するには、HPE SIM でシステムセットアップツールボックスの権限が必要です。

managed system setup wizard を使用できるようにするには、CMS でシステムセットアップツールボックスを許可します。managed system setup wizard を使用して設定する各管理対象システムで、このツールボックスを認証します。

- エージェントの設定または修復を実行するには、**設定 > エージェントの設定および修復** を選択します。
- Insight managed system setup wizard を実行するには、**設定 > Managed System Setup Wizard** の順に選択します。

HPE Insight managed system setup wizard について詳しくは、<http://www.hpe.com/info/insightmanagement/docs> にある *HPE Insight Managed System Setup Wizard スタートガイド* を参照してください。

Configure or Repair Agents について詳しくは、**Hewlett Packard Enterprise Information Library** に掲載されている *HPE Systems Insight Manager ユーザーガイド* および *HPE Systems Insight Manager のヘルプシステム* を参照してください。

管理対象ストレージシステムのセットアップ

Storage Management Initiative Specification (SMI-S) は、ストレージネットワークとストレージデバイスの相互運用可能な管理を実現する SNIA (Storage Networking Industry Association) 規格です。HPE Systems Insight Manager はこの規格を使用して、サポートするストレージシステムの検出や管理を行います。

HPE Systems Insight Manager が SAN ストレージを検出するには、そのストレージシステムの WBEM SMI-S プロバイダーを管理対象ノードにインストールして、設定しておく必要があります。プロバイダーをインストールしておく必要のあるストレージデバイスには、ファイバーチャネルディスクアレイ、スイッチ、テープライブラリ、ホスト（ファイバーチャネルホストバスアダプターを取り付け済み）などがあります。

次のリンクには、HPE SIM でサポートされるさまざまなストレージデバイスの SMI-S プロバイダーの詳細が含まれています (<https://h20392.www2.hpe.com/portal/swdepot/displayProductsList.do?groupName=HP+Storage>)。この Web ページでは、SMI-S プロバイダーの入手、インストール、および設定に関する情報も提供します。

SMI-S プロバイダーのインストール

各ストレージベンダーは、提供するストレージシステムの SMI-S プロバイダーおよびインストール手順を用意しています。上記の Web ページでは、SMI-S プロバイダーの入手方法に関する情報を提供しています。SMI-S プロバイダーについて詳しくは、ストレージベンダーの Web サイトを参照するかまたはベンダーの担当者に問い合わせてください。各ストレージシステムについて、次の操作を行います。

1. 該当する SMI-S プロバイダーがインストールされていることを確認します。
2. インストールされていない場合は、入手し、ベンダーのインストール手順に従ってインストールしてください。

SSL の確認

HPE SIM では、SMI-S プロバイダーがサポートするストレージシステムを検出および管理するために、各 SMI-S プロバイダーに対して SSL (Secure Sockets Layer) が有効になっていなければなりません。各 SMI-S プロバイダーについて、SSL が有効になっていることを確認します。

SMI-S プロバイダーの設定

SMI-S プロバイダーのポート番号やパスワードを変更しなければならない場合があります。プロバイダーのドキュメントを参照して、変更してください。

たとえば、同じホスト上に2つの CIMOM がある場合、これらの CIMOM を設定して、CMS との通信に別々のポートを使用するようにしなければなりません。

ストレージシステム検出のための Systems Insight Manager の設定

各ストレージシステムの SMI-S プロバイダーのインストールと設定を確認したら、ストレージシステムを検出できるように HPE Systems Insight Manager を設定します。

ストレージシステム検出のための HPE Systems Insight Manager の設定

手順

1. グローバルプロトコル設定ページのデフォルト WBEM 設定セクションに、各プロバイダーの SMI CIMOM のユーザー名とパスワードを入力します。
2. 検出タスクまたは新規検出の作成タスクに各 SMI CIMOM の IP アドレスを追加します。詳しくは、[Hewlett Packard Enterprise Information Library](#) にある *HPE Systems Insight Manager ユーザーガイド* を参照してください。

HPE Systems Insight Manager は、次の自動検出タスクの後で、ストレージシステムを検出します。すぐにストレージシステムを検出する場合は、[Hewlett Packard Enterprise Information Library](#) に掲載されている *HPE Systems Insight Manager ユーザーガイド* の説明に従って、検出タスクを実行してください。

Agentless Management 機能を使用した iLO4 を搭載するホストシステムの管理

ProLiant Gen8/Gen9 サーバーの iLO4 アーキテクチャーでは、オペレーティングシステムをベースとしたエージェントがなくても、サーバーハードウェアを監視し、アラートを管理できます。ProLiant Gen8/Gen9 サーバーには iLO Management Engine が含まれ、これによって Hewlett Packard Enterprise Agentless Management が可能です。Hewlett Packard Enterprise Agentless Management は OS からは独立して動作し、サーバーのコアコンポーネントのデータを収集します。iLO Management Engine が収集したデータは、Web ベースの iLO 4 の GUI（グラフィカルユーザーインターフェイス）またはリモート管理アプリケーション（HPE SIM など）を通して確認できます。詳しくは、[HPE iLo によるサーバーのリモート管理](#) を参照してください。

Hewlett Packard Enterprise Agentless Management Service のインストール

ProLiant Gen8/Gen9 サーバーでは、iLO Management Engine を介して Hewlett Packard Enterprise Agentless Management を実行できます。Hewlett Packard Enterprise Management Service では、ハードウェアのコアコンポーネントから、アプリケーションやオペレーティングシステムも含めて監視します。Hewlett Packard Enterprise Agentless Management Service のインストールには、次の3つのオプションがあります。

- HPE Intelligent Provisioning
- HPE SIM のエージェントの設定および修復オプション
- HPE SIM Managed System Setup Wizard

Hewlett Packard Enterprise Agentless Management の設定

SIM 7.5 で Hewlett Packard Enterprise Agentless Management を使用して ProLiant Gen8/Gen9 サーバーを管理するには、サーバーで特定の SNMP パラメーターを設定する必要があります。SNMP を設定するには、iLO 4 GUI の管理ブラウザーメニューから、マネジメントを選択します。

ProLiant Gen8/Gen9 サーバー上で SNMP を設定するには、以下の手順に従います。次の図は、マネジメント画面と設定に必要な SNMP パラメーターを示しています。

手順

1. Agentless Management を有効にします。
2. HPE SIM 7.6 および ProLiant Gen8/Gen9 サーバーの共通読み込みコミュニティ名を入力します。
3. HPE SIM 7.6 および ProLiant Gen8/Gen9 サーバーの共通トラップコミュニティ名を入力します。
4. SNMP アラートの送信先フィールドに HPE SIM 7.6 の IP アドレスを入力します。
5. すべての SNMP アラート (iLO SNMP アラート、Insight マネジメントエージェント SNMP アラートの転送 (SNMP エージェントが OS にインストールされている場合)、およびコールドスタートトラップブロードキャスト) を有効にします。

すべてを展開

マネジメント - SNMP設定

SNMP設定 アラートメール リモート Syslog

SNMPの設定

有効 1 Agentless Management SNMPバースルー

システムの位置:

システムコンタクト:

システムの役割:

システムの役割詳細:

読み取りコミュニティ: 2 public

トラップコミュニティ: 3

SNMPアラートの送信先 4 172.24.112.183

電源: オン UID: オフ JA (言語)

すべてを展開

マネジメント - SNMP設定

SNMP設定 アラートメール リモート Syslog

SNMPアラート

 5

トラップソース識別子: iLOホスト名 OSホスト名

iLO SNMPアラート 有効

InsightマネジメントエージェントSNMPアラートの転送 有効

コールドスタートトラップブロードキャスト 有効

SNMP v1トラップ 有効

テストアラートの送信 適用

Insight Manager統合

HP System Management Homepage (HP SMH) FQDN / IPアドレス: https:// nanoserverpr :2381

返されたデータのレベル: 有効 (iLO+サーバー関連データ)

XML応答の参照 適用

電源: オン UID: オフ JA (言語)

HPE Systems Insight Manager のアップグレード

手順

1. この章では、Systems Insight Manager 7.4 以降をアップグレードする手順について説明します。HPE Systems Insight Manager のアップグレードを開始する前に、データベースへのアクセスに使うユーザー名とパスワードが有効であることを確認します。ユーザーがアップグレードを開始すると、HPE Systems Insight Manager が以前にインストールされている HPE Systems Insight Manager をチェックし、HPE Systems Insight Manager と関連するすべてのサービスおよびデーモンを停止します。次に、CMS 上のファイルを上書きするかまたはファイルを HPE Systems Insight Manager 上の適切な位置にコピーし、最後に、HPE Systems Insight Manager および関連付けられたすべてのサービスを再開します。

注記:

現在使用している HPE Systems Insight Manager のバージョンが 7.4 より古い場合は、まずバージョン 7.4 以上のバージョンにアップグレードしてください。

すべての HPE SIM 証明書が、HPE SIM のアップグレード完了後も、復旧/維持されます。証明書ファイルの内容がアップグレードプロセスで変更されることはありません。このため、システムの以前の IP アドレスおよびホスト名の詳細が維持されます。HPE SIM のアップグレードにより、証明書ファイルの内容が変更されることはありません。そのため、以前の IP/ホスト名が維持されます。

HPE SIM の以前のインストール後に、システムの IP/ホスト名の詳細を変更した場合は、ユーザーが HPE SIM 証明書を再生成する必要があります。

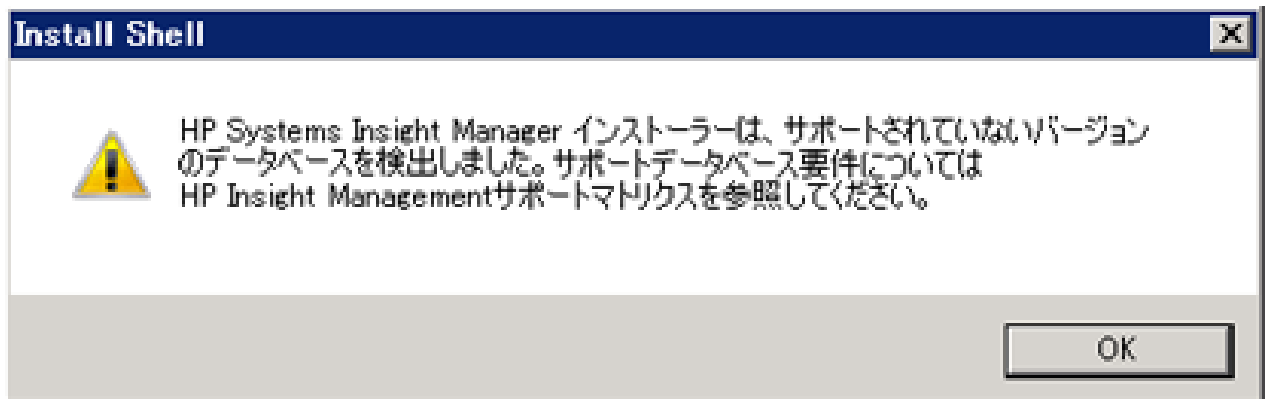
1. システムで Systems Insight Manager 7.4 以上が動作していることを確認します。
2. Oracle データベースを使用している場合は、HPE Systems Insight Manager のアップグレード前に、次の操作を行います。
 - a. HPE Systems Insight Manager を停止します。
 - b. `[installdir]/lib` ディレクトリおよび `[installdir]/jboss/server/hpsim/lib` ディレクトリで `ojdbc6.jar` というファイルを探し、見つかった場合はすべて削除します。
 - c. Oracle の Web サイト <http://www.oracle.com/technetwork/database/features/jdbc/index-091264.html> から新しいドライバーをダウンロードします。
 - d. JDBC ドライバーファイル (`ojdbc6.jar`) を `[installdir]/lib` ディレクトリおよび `[installdir]/jboss/server/hpsim/lib` ディレクトリにコピーします。
3. HPE Systems Insight Manager ソフトウェアをダウンロードするか、HPE Insight Management DVD からインストールします。

ソフトウェアをダウンロードするには HPE Systems Insight Manager の Web サイトにアクセスし、Hewlett Packard Enterprise management software の下で、ダウンロードをクリックしてください。HPE Systems Insight Manager のダウンロードページが表示されます。HPE Systems Insight Manager ダウンロードの下で **HPE SIM - Windows > HP SIM 7.5 - MS Windows のダウンロード** を選択して製品全部をインストールします。

Insight Management DVD からインストールする場合は、DVD を DVD-ROM ドライブに挿入してください。DVD のオートラン機能により使用許諾契約書が自動的に表示されます。使用許諾契約書に同意のうえ、製品タブをクリックしてください。HPE Systems Insight Manager の下で、インストールをクリックして、インストーラーを起動します。または、製品タブをクリックし、DVD の内容をクリックしたあとで、`\HPE Systems Insight Manager\win_ia32\`にある `setup.exe` を実行して、インストーラーを起動します。

HPE Systems Insight Manager インストーラーへようこそウィンドウが表示されます。HPE Systems Insight Manager により、Oracle、MSDE、または SQL/SQL Express のローカルインスタンスがシステム

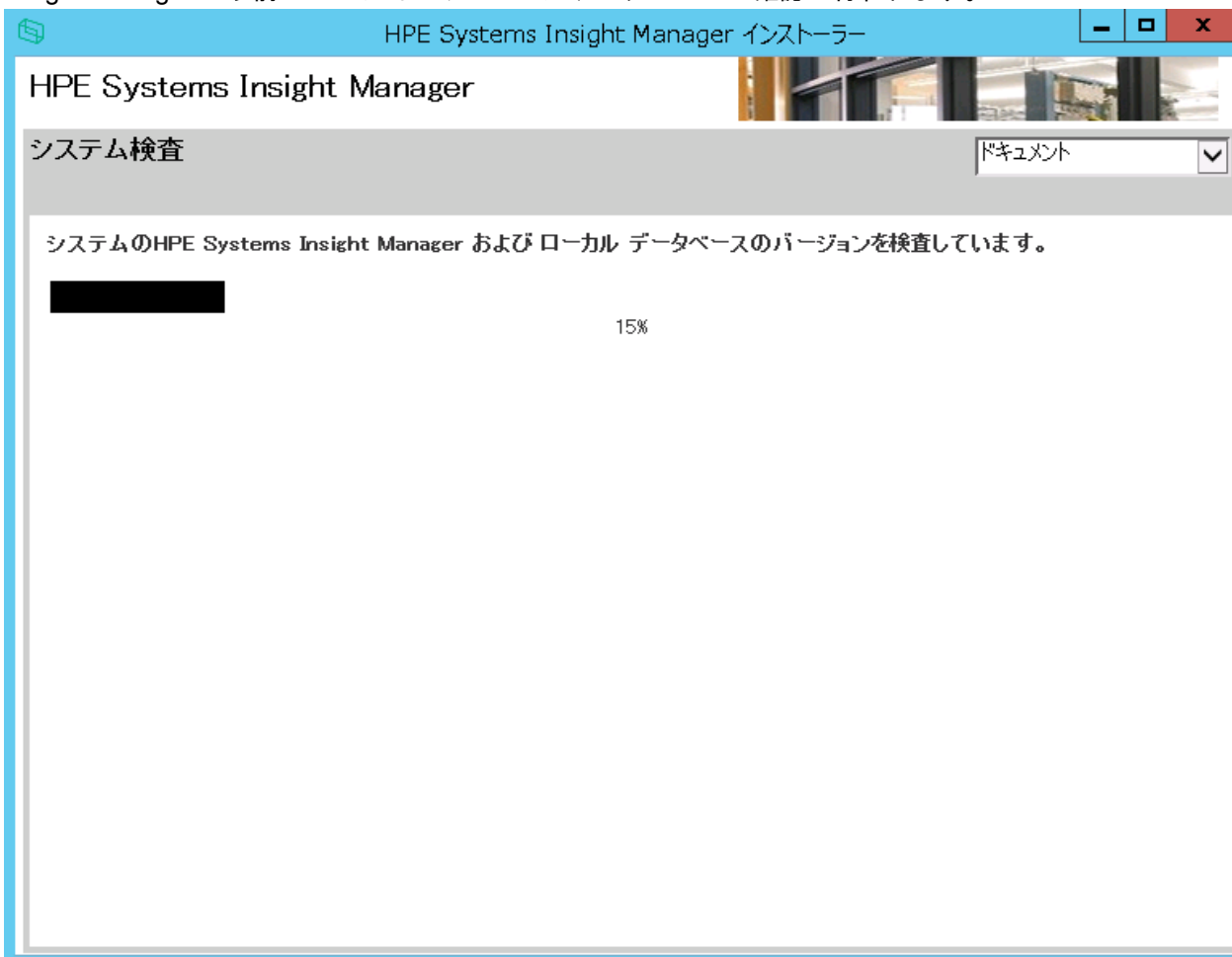
にあるかどうかを確認されます。アップグレードしているシステムでサポートされていない SQL データベースが使用されている場合、エラーメッセージが表示されます。



インストール手順を先に進める前に、データベースをアップグレードするかまたはサポートされるデータベースをインストールする必要があります。



4. **次へ**をクリックします。**システム検査**ウィンドウが表示されます。システムが検査され、HPE Systems Insight Manager の以前のバージョンやローカルデータベースの確認が行われます。

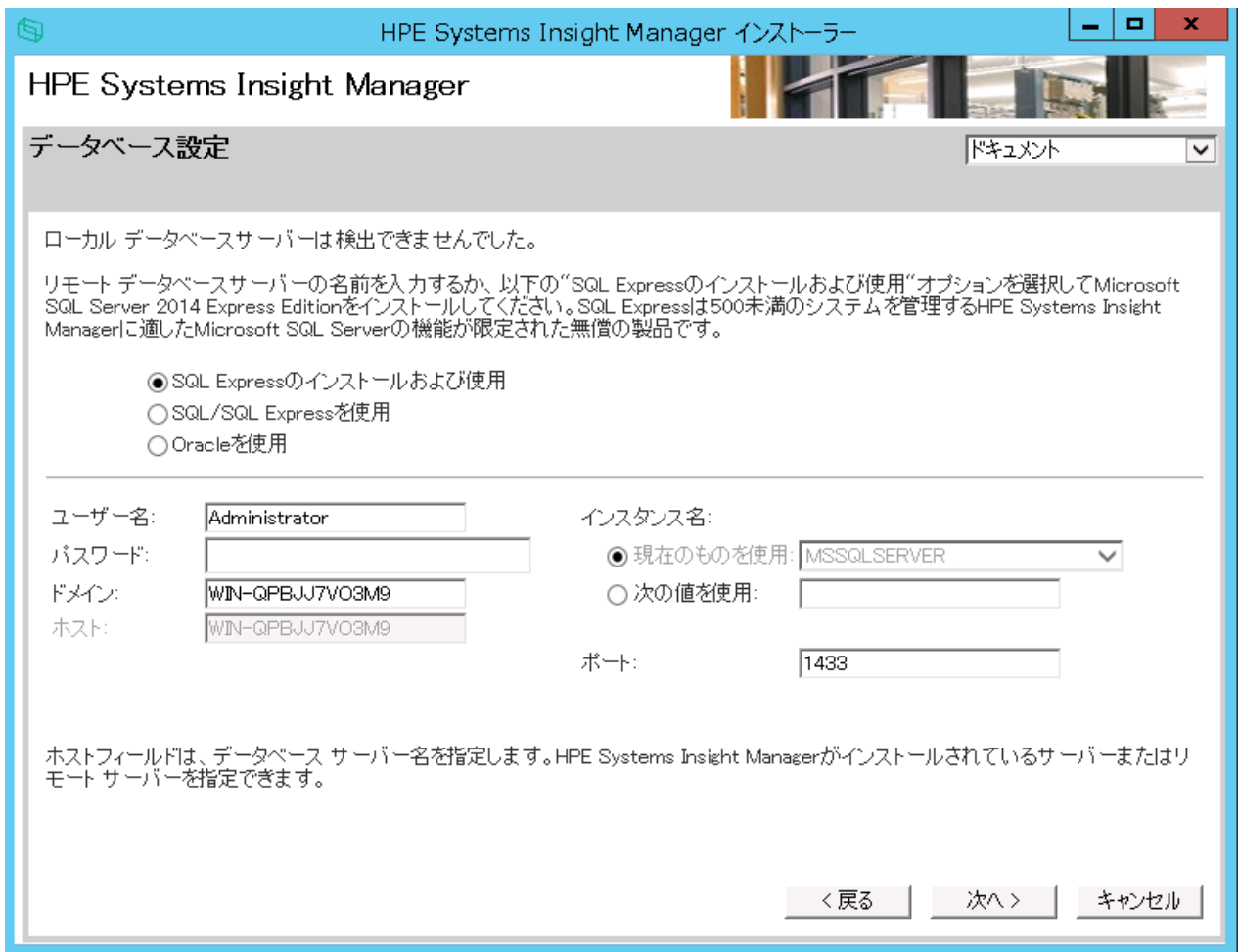


検査中に、HPE Systems Insight Manager が互換性のないプラグインを検出する場合は、アドバイザリが表示されます。システム検査が完了すると、データベース設定ウィンドウが表示されます。

5. HPE Systems Insight Manager 7.6 の場合、SQL Express 2014 はサポートされない SQL Express を置き換えます。HPE Systems Insight Manager の以前のバージョンまたは HPE Systems Insight Manager パートナーによってインストールされた、サポートされない SQL Express データベースを搭載するシステムで HPE Systems Insight Manager がアップグレードされると、サポートされない SQL Express データベースが検出され、7.6、SQL Express 2014 Express データベースに移行されます。

サポートされない元の SQL Express データベースは変更されず、システムにそのまま残ります。

リモートでインストールされたデータベースを使用するシステムで HPE Systems Insight Manager をアップグレードすると、次に示すようにデータベース設定ウィンドウが表示されます。



このページには、インストールされている HPE Systems Insight Manager のデータベース情報があらかじめ入力されています。ユーザーアカウント以外の情報はどの情報も編集できません。既存のアカウントの正しいパスワードを入力するか、管理者権限とデータベースへのアクセス権限がある別のユーザーアカウントの認証情報を入力してください。インストーラーは、管理者権限があるかどうかをテストします。次へをクリックして作業を続行します。

- **SQL/SQL Express を使用** このオプションは、SQL 2014/SQL 2012 SP2 または SQL Express がインストールされており、どちらかを使うように HPE Systems Insight Manager を設定したい場合に選択できます。

SQL/SQL Express を使用

- データベース設定** ウィンドウで、**SQL/SQL Express を使用** を選択します。
- ユーザー名フィールドには、インストールを行ったユーザーのアカウントが表示されますが、変更できません。指定するアカウントは、データベースサーバーのユーザー名でなければなりません。
- パスワードフィールドに、データベースサーバーのパスワードを入力します。HPE Systems Insight Manager は、ユーザー名とパスワードで以下をサポートしません。
 - 空白のパスワード
 - スペース、次に二重引用符
 - バックスラッシュ (\)

注記:

ユーザー名またはパスワードで上記の文字を使用すると、HPE Systems Insight Manager データベースの初期化が失敗します。

- d. ドメインおよびホストフィールドに、データベースサーバーのドメイン名を入力します。
- e. 次へをクリックします。インストールタイプの選択ウィンドウが表示されます。
- **Oracle を使用** このオプションは、Oracle がインストールされており、Oracle を使うように HPE Systems Insight Manager を設定したい場合に選択できます。
 - a. データベース設定ウィンドウで、Oracle を使用を選択します。データベースを使用する前に、データベースについて以下を確認する必要があります。
 - AL32UTF8 の Unicode 文字セットと AL16UTF16 の各国文字セットを使用している。
 - NLS の長さが BYTE に設定されている。
 - HPE Systems Insight Manager 専用のデータベース管理者 (DBA) 権限を持つ Oracle ユーザーが作成されている。
 - Oracle データベーススキーマが空である。HPE Systems Insight Manager は、空の Oracle データベーススキーマにインストールする必要があります。
 - thin クライアントの.jar (ojdbc6.jar) が、システムの C:\oracle\ora92\jdbc\lib とインストール中に指定した位置にコピーされている。
 - b. パスワードフィールドに、指定したユーザー名のパスワードを入力します。
 - c. Jar ファイルフィールドに、ojdbc6.jar ファイルのフルパスを入力するかまたは参照をクリックして正しい位置 (C:\oracle\ora92\jdbc\lib) に移動します。このパスは、CMS のファイルシステムを介してアクセスできなければなりません。インストーラーは、.jar ファイルを正しい位置にコピーします。
 - d. 次へをクリックします。インストールタイプの選択ウィンドウが表示されます。

注記:

(HPE Systems Insight Manager データベースインスタンス内または VPM によって作成されたデータベースインスタンス上に) HP Insight Vulnerability and Patch Manager ソフトウェア MSDE データベースが存在する場合は、SQL Express にアップグレードされます。VPM データベースのアップグレードが失敗すると、Failed to Upgrade VPM Database to SQL Express (VPM データベースの SQL Express へのアップグレードが失敗しました) という内容のメッセージが表示されますが、HPE Systems Insight Manager のインストールは続行されます。

6. インストールタイプの選択ウィンドウが表示されます。標準を選択すると、インストールできるコンポーネントの下に示されるコンポーネントをすべて最小限のユーザー操作でインストールできます。また、カスタムを選択して、インストールできるコンポーネントの下にあるコンポーネントを選択し、インストール時に設定することもできます。

注記:

あるコンポーネントが、CMS にインストールできないコンポーネントの一覧に含まれている場合は、HPE Systems Insight Manager のインストールシェルにより、以下のどちらかと判断されたことが原因です。

- コンポーネントのインストールに必要な前提条件が満たされていない。
- バンドルされているものと同じかより新しいコンポーネントのバージョンが、すでにインストールされている。

CMS にインストールされているコンポーネントのバージョンが、HPE Systems Insight Manager のインストールシェルにバンドルされているバージョンよりも古く、かつインプレースアップグレードがサポートされている場合には、そのコンポーネントは一覧内に示されます。

標準アップグレード

標準アップグレードでは、インストールできるコンポーネントでインストールに含まれることが示されているコンポーネントがすべてアップグレードされます。

標準アップグレード

手順

1. **次へ**をクリックすると、**サービスアカウント認証情報**ウィンドウが表示されます。管理者権限があるアカウントの認証情報を使用する必要があります。
2. このアカウントのパスワードを入力してください。**次へ**をクリックすると、**概要**ウィンドウが表示され、インストールされるコンポーネントが示されます。
3. **インストール**をクリックしてインストールプロセスを開始します。このプロセスにより、**選択されたコンポーネント**テーブルに表示されているすべての製品がインストールされます。**ステータス**ウィンドウが表示されます。各コンポーネントのインストール中、このウィンドウのコンポーネント名の横には進行中というステータスが表示されます。コンポーネントのインストールが完了すると、ステータス表示は**正常にインストールされました**に変わります。
4. すべてのコンポーネントがインストールされたら、**次へ**をクリックします。
5. **登録**ウィンドウが表示されます。HPE Systems Insight Manager を登録するか、**後で登録**をクリックします。

注記:

インターネットにアクセスできない場合は、**後で登録**をクリックします。<http://www.hpe.com/info/swdepot/HPSIM-Registration> から登録することもできます。

インストール完了ウィンドウが表示されます。ここでシステムを再起動することもできます。次のメッセージが表示されます。「このアップグレードインストールで、HPE バージョンコントロールエージェントがバージョンコントロールレポジトリマネージャーへアクセスする際にオペレーティングシステム認証を使うように System Management Homepage を設定し、新しいアカウントを使うようにバージョンコントロールエージェントを実行するサーバーを再設定することを Hewlett Packard Enterprise はおすすめします。これらの設定を行わない場合、7.20 以前のバージョンコントロールエージェントは、レガシ HTTP サーバーアカウントアクセスを通じてアップグレードされたバージョンコントロールレポジトリへアクセスします。詳しくは、バージョンコントロールインストールガイド: <http://www.hpe.com/info/enterprise/docs> を参照してください。」

6. **完了**をクリックして、システムを再起動します。以上で、標準アップグレードは完了です。詳しくは、「次のステップ」を参照してください。

注記:

標準インストール中に、System Management Homepage のデフォルト設定が保存される位置および設定の変更方法について詳しくは、<http://www.hpe.com/info/insightmanagement/sim/docs> に掲載されている *HPE System Management Homepage インストール/コンフィギュレーションガイド* を参照してください。

カスタムアップグレード

手順

1. カスタムアップグレード
1. **次へ**をクリックして、**ソフトウェア選択**ウィンドウを表示します。このウィンドウには、使用できるコンポーネントの完全な一覧が表示されます。また、各コンポーネントの横にチェックボックスが付いています。チェックボックスが選択された状態で無効になっている場合は、そのコンポーネントが必須コンポー

メントであり選択解除できないことを意味します。コンポーネントごとに、必要なディスク容量も示されます。インストールするコンポーネントを選択します。

2. **次へ**をクリックして、選択したコンポーネントをインストールできるだけの十分な空きディスク容量があるかどうかを確認します。十分な空き容量がある場合、**サービスアカウント認証情報**ウィンドウが表示されます。ドメインおよびユーザー名フィールドには、インストールで使用されたアカウントの認証情報がデフォルトで入力されます。このアカウントのパスワードを入力してください。管理者権限がある別のアカウントの認証情報を入力することもできます。
3. **次へ**をクリックします。**概要**ウィンドウが表示されます。

注記:

このユーザーアカウントは、HPE Systems Insight Manager サービスを実行するために使用されません。

4. **インストール**をクリックしてアップグレードプロセスを開始します。このプロセスにより、**選択されたコンポーネント**テーブルに表示されているすべての製品がインストールされます。**ステータス**ウィンドウが表示されます。各コンポーネントのインストール中、コンポーネント名の横には進行中というステータスが表示されます。コンポーネントのインストールが完了すると、ステータス表示は**正常にインストールされました**に変わります。

WMI Mapper を、次の環境でアップグレードする場合は、以下の説明に従ってください。

- Windows 2008 上

ダイアログボックスが表示され、「Pegasus WMI Mapper」および「Pegasus WMI Mapper Indications」サービスを停止するかどうかを尋ねます。**Ignore** をクリックしてインストールを続行するか、またはサービスを停止してインストールを再度試みる必要があります。

注記:

HPE Systems Insight Manager のインストール時、15 文字を超える CMS のホスト名は短縮されます。インストールを完了するには、短縮された名前を使う必要があります。インストール後、2つの管理者アカウントが作成されます。1つのアカウントには、「元のホスト名\管理者名」、もう一方のアカウントには、「短縮されたホスト名\管理者名」が含まれます。ログインするには、サインインページのドメインフィールドに元のホスト名を入力してください。

サイレントアップグレード

.xml ファイルを使用した、コマンドラインからの HPE Systems Insight Manager のアップグレード

silent.xml ファイルは、setup.exe と同じディレクトリに保存されています。このテキストファイルは、任意のテキストエディターで編集できます。DVD から HPE Systems Insight Manager をアップグレードする場合は、silent.xml を、ファイルを編集できる位置にコピーしてください。Web から HPE Systems Insight Manager をアップグレードする場合は、インストールプログラムを抽出したあと、silent.xml ファイルを編集してセットアッププログラムをサイレントモードで起動してください。silent.xml ファイルには、アップグレードプロセスで使用する以下のパラメーターが記述されています。

サイレントアップグレードを実行するためのオプションは、コマンドラインからのインストールで使用できません。サイレントインストールを実行するには、setup.exe を、サイレントインストール用のコマンドラインオプションを指定して起動します。

次のコマンドを実行します。

```
setup.exe -s <サイレントファイルへのパス> -svcpw <サービスパスワード> -dbpw <データベースパスワード>
```

注記:

アップグレードモードでは、入力する `svcpw` パスワードおよび `dbpw` パスワードは、それぞれ、インストールされている HPE Systems Insight Manager のサーバーアカウントとデータベースアカウントのパスワードでなければなりません。インストールプログラムは、HPE Systems Insight Manager とパートナーコンポーネントの既存のインストール位置を抽出します。

データベース情報 : `<installSQLEXP>` を設定します。

アップグレードモードでは、このオプションは無視されます。インストーラーは、「true」と設定されている場合でも、ローカルサーバーに SQL Express をインストールしません。インストールされている SIM のデータベース情報が使用されます。

注記:

`<installSQLEXP>` タグが「True」または「False」に設定されている場合でも、HPE Systems Insight Manager は自動的に MSDE を SQL Express 2014 SP1 にアップグレードします。

`<dbUserName>`

インストールされている HPE Systems Insight Manager のデータベースユーザーアカウント情報を記述します。

`<dbDomain>`

ユーザーアカウントのドメインを記述します。

`<dbHost>`

インストールされている HPE Systems Insight Manager の、データベースサーバーの名前または IP アドレスを記述します。

注記:

`silent.xml` を使用した HPE Systems Insight Manager のアップグレードでは、Oracle データベース用に設定された HPE Systems Insight Manager からのアップグレードはサポートされません。

`<dbInstance>`

インストールされている HPE Systems Insight Manager の有効なインスタンス名を記述します。

`<dbName>`

インストールされている HPE Systems Insight Manager の有効なデータベース名を記述します。

`<dbPort>`

デフォルトの 1433 を使用するか、または有効なポート番号を記述します。

HPE Systems Insight Manager サービス情報 :

`<svcuserName>`

インストールされている HPE Systems Insight Manager のユーザーアカウントを記述します。

`<svcDomain>`

ユーザーアカウントのドメインを記述します。インストールの場所 :

`<baseInstallLocation>`

および

`<hpsimInstallLocation>`

サイレントインストールでは、ターゲットシステム上の既存の HPE Systems Insight Manager のインストール位置が使用されます。

<allowReboot>

必要に応じて、「true」または「false」に設定します。HPE Systems Insight Manager とパートナーコンポーネントのアップグレード後、サーバーを再起動することをおすすめします。silent.xml には、インストール対象のすべてのコンポーネントとその製品 ID が一覧で示されます。次のように設定してください。

<install>

の値は、コンポーネントをアップグレードする場合に「true」に設定します。

注記:

HPE Systems Insight Manager と System Management Homepage は、その<install>が「false」に設定されていても、必ずアップグレードされます。

❗ 重要:

サイレントアップグレードの場合、<、&、<、>、'、"などの特殊文字を含むサービスまたはデータベースのユーザー名は、silent.xml ファイルで、以下のように適切にエスケープさせる必要があります。

& &

< <

> >

' '

" "

たとえば、user&l というユーザー名の場合、silent.xml でのエントリは user&l になります。

サイレントインストール/アップグレードでは、引用文字 (") を含むサービスまたはデータベースパスワードはサポートされていません。

HPE Systems Insight Manager および選択されたコンポーネントのインストールまたはアップグレードステータスは、hpsim.log ファイルと silentstatus.xml ファイルに記録されます。これらのファイルは、システムドライブのルートに作成されます。

データの移行

データ移行ツールは、インストールされている HPE Systems Insight Manager 7.4 以降から別の CMS 上に新しくインストールされ稼働している HPE SIM 7.6 に設定データを移行する作業に使用できるコマンドラインインターフェイスです。このプロセスでは、エクスポートおよびインポートツールの機能を活かしてデータが移行されます。たとえば、このツールを使用して 64 ビットオペレーティングシステム上の HPE Systems Insight Manager 7.4 システムを 64 ビット Windows オペレーティングシステム上にインストールされ稼働する HPE SIM 7.6 に移行できます。設定データには、ユーザーの設定、検出されたシステムとその認証情報など、HPE Systems Insight Manager に対して行われたカスタマイズが含まれます。移行ツールを使用して、インストールされ稼働中の HPE Systems Insight Manager のデータを新しいシステムに移行することや、インストールされている HPE Systems Insight Manager のバックアップを取ってあとで復元することもできます。また、「インプレース」アップグレードを避けるために使用されることもよくあります。この操作では、HPE Systems Insight Manager の古いバージョンをソースシステムとして利用および稼働できる状態に保ち、新しいバージョンを別のサーバーにインストールしてデータをインポートできます。このツールがサポートするのは、ローカルまたはリモートの Microsoft SQL Server データベースと接続されている Windows オペレーティングシステムだけです。また、オペレーティングシステムの管理者以外が実行することはできません。

❗ 重要:

ソースとターゲットの HPE Systems Insight Manager サーバーの同時実行はおすすめできません。検出、配備などのタスクは、両方の CMS から実行できます。

設定データを移行するには、次のように操作します。

CMS からのデータのエクスポート

1. データをエクスポートするには、操作の前に次の要件が満たされていなくてはなりません。
 - CMS 上に十分な空きディスクスペースがある。これは、データベースに保存されているデータの量に左右されます。
 - ソースサーバーに HPE Systems Insight Manager 7.4 以降がインストールされている。
 - `mxexport` コマンドは、検出タスク、スケジュールされたタスクなどすべてのタスクとジョブが完了するまでは実行しないでください。
2. データをエクスポートするには、次の CLI コマンドを入力します。

```
mxexport
```

パスワードはコマンド行に含めて指定してください。含めない場合は、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。パスワードは 8 文字以上で設定してください。このパスワードは、エクスポートするファイルを安全のために暗号化するのに使われます。ここで入力したパスワードは、データのインポートで要求されます。

- `-f` は、オプションです。ファイル名を渡さない場合、`[HPSIM]\data\configdata-export` に `Products.zip` ファイルが作成されます。
- パスワードを安全な形式で入力するように求められます。このパスワードは、エクスポートされるファイル `Products.zip` の暗号化に使用されます。

1 つのコンポーネント（別名、Essentials またはプラグイン）がデータのエクスポートに失敗しても、エクスポート操作は中止されません。データ移行ツールは、残りのコンポーネントのデータ移行を続行します。

コンポーネント固有の設定 XML ファイルで指定されたデータベーステーブルおよびファイルは、エクスポートされます。

CMS からのデータのインポート

1. データをインポートするには、操作の前に次の要件が満たされていなくてはなりません。
 - ソース CMS 上のオペレーティングシステムおよびデータベースレベルのすべてのユーザー認証情報が、ターゲット CMS で作成されている。
 - ターゲット CMS に、HPE Insight Software 7.6 がインストールされている。
 - CMS にクリーンインストールが行われ以前の設定がない。

注記:

インポートプロセスでは、その進行に伴い、ターゲット CMS から既存のデータが削除されます。

❗ 重要:

あるコンポーネントのデータインポートが失敗すると、コンポーネントのデータベースはそのデータを失いコンポーネント自体も不安定になることがあります。インポート作業に移る前に、すべてのデータベースのスナップショットを取っておくことをおすすめします。スナップショットは、ターゲット CMS でエクスポート操作を実行するかまたはお使いのバックアップ方法を実行することで取ることができます。インポートが失敗しても、スナップショットからデータベースを復元できます。インポート中に 1 つのコンポーネントが停止すると、インポート操作全体が停止します。インポートプロセスでは、その進行に伴い、ターゲット CMS から既存のデータが削除されます。

2. エクスポートした zip ファイルをターゲット CMS にコピーします。たとえば、ソースシステムから `[HPSIM]\data\configdata-export\Products.zip` をターゲット CMS の `[HPSIM]\data\configdata-import\Products.zip` ディレクトリにコピーします。
3. データベースがリモートデータベースの場合は、リモートの SQL サーバーがローカルの共有にアクセスできなければなりません。

- a. ターゲット CMS およびリモート SQL は、同じドメイン内にあります。
 - b. ターゲット CMS では、[SIM]\data\configdata-import フォルダは共有されます。
 - c. リモートの DB サーバーでは、SQL サービスが、Administrator と同じユーザーで実行されます。
 - d. SQL Server で xp_cmdshell を有効にします。
4. データをインポートするには、次の CLI コマンドを入力します。

```
mximport -f<filename.zip>
```

- `-f` は、オプションです。ファイル名を渡さない場合、[HPSIM]\data\configdata-import から Products.zip が読み込まれます。
- パスワードを安全な形式で入力するように求められます。このパスワードは、エクスポートされるファイル Products.zip の暗号化に使用されます。

移行後のステップ

検出されたシステムに対してターゲット CMS でエージェントの設定および修復を実行することをおすすめします。SNMP トラップ、WBEM イベントの送信先の再設定、System Management Homepage、iLO、または OA でシングルサインオンに使う証明書の再設定などのオプションを選択する必要があります。

サポートされる設定には、WBEM および SNMP の設定値、SSH の認証モード、信頼関係の設定などがあります。これらのオプションは、HPE Systems Insight Manager CLI の `mxQuery` および `mxTask` コマンドを使用して設定できます。

HPE Systems Insight Manager には、エージェントの設定および修復 (CRA) ツールが含まれており、このツールを使用して各システムで SNMP、WBEM、SSH、および信頼関係を設定できます。インポートツールは、収集およびタスク XML ファイルを作成します。このファイルは、HPE SIM CMS に追加して、環境の再構成に役立てることができます。これらのファイルは、[HPSIM]\config\migration\CRA にあります。CRA の収集とタスクに対応する XML ファイルは、それぞれ、HPSIMCRAQuery.xml、HPSIMCRATask.xml と呼ばれます。

この CRA タスクは、ターゲット CMS の修正に使われますが、スケジュールされるタスクではありません。CRA タスクは、移行が完了して HPE SIM サーバーが起動した後で、ロードできます。このタスクはデフォルトでは無効になっており、必要な認証情報を使用して有効にし適切に設定したあとで手動で一度だけ実行します。デフォルトでは、CRA のタスク XML で指定される設定は、検出されるすべての管理対象ノードに適用できます。CRA タスクの実行対象になる CRA 収集を作成することもできます。

HPSIMCRATask XML ファイルの各値は、必要に応じて変更できます。次の表に、サポートされる設定 (CRA タスク)、デフォルト値、および設定できる値を示します。また、このタスクをインポートして、タスクウィザードでこれらのオプションを編集することもできます、

表 17：編集可能なオプション

CRA タスクのデフォルト設定値	XML ファイル内のプロパティ名	デフォルト値	設定できる他の値
WBEM イベント用のサブスクリプションの作成	argument_wbem	Yes	No
SNMP の設定 読み込みコミュニティ名を設定します。 注記: これは、HPE SIM CMS と管理対象システム上の SNMP エージェントとの SNMP 通信も有効にします。	argument_snmpread	Public	有効な任意の文字列
SNMP の設定 問題などが発生した場合に Systems Insight Manager のこのインスタンスに解決を依頼するためにトラップを設定します。 注記: Windows システムでは、読み込み/書き込みコミュニティ名が自動で作成されません。	argument_snmptrap	Yes	No
セキュアシェル (SSH) アクセス認証の設定 ホストベースの認証 注記: HPE SIM のこのインスタンスからのすべてのユーザーが、管理対象システム上で認証されます。 ユーザーベースの認証：各ユーザーは管理対象システム上での認証が必要です。	argument_ssh	Host	User

表は続く

CRA タスクのデフォルト設定値	XML ファイル内のプロパティ名	デフォルト値	設定できる他の値
信頼関係の設定 証明書による信頼 — HPE SIM のユーザーが認証用に HPE SIM の証明書を使用して System Management Homepage、Onboard Administrator、Integrated Lights-Out (バージョン 2 以降)、および HPE VCA に接続できるようになります。この操作では、HPE SIM の証明書が管理対象システムに配備されます。	argument_trust	Certificate	Empty
サインイン認証の使用	usesignincred	True	False — このプロパティを false に設定すると、ユーザーは認証情報を別々に設定しなければなりません。このオプションを使用して設定された認証情報は、すべてのシステムに適用されます。

CRA Query XML には、検出済みのすべての管理対象ノードの完全な DNS 名が含まれます。次のタグは削除、追加、または変更できます。

```
<value>fulldnsname</value>
```

注記:

あるデバイスのフル DNS 名がない場合、そのシステム名が許可されます。

CRA タスクおよび収集を追加するには、HPSIMCRAQuery.xml および HPSIMCRATask.xml ファイルを <HPE SIM のインストール先>/setup ディレクトリにコピーし、次のコマンドを入力します。

```
mxconfigrefreshmxconfigrefresh
```

次のステップ

インポートが完了したら、HPE Systems Insight Manager にサインインし、日単位デバイス識別タスクを実行して、すべての関連付けが正しく更新されているかどうか確認します。

識別（毎日）タスクの実行

手順

1. タスク→ログ→スケジュールされたすべてのタスクの表示の順に選択します。スケジュールされたすべてのタスクページが表示されます。
2. システム識別（毎日）タスクを選択します。
3. 実行をクリックします。

HPE Systems Insight Manager のアンインストール

HPE Systems Insight Manager とその依存ソフトウェアやファイルを削除するには、Windows のコントロールパネルから **プログラムの追加と削除** 機能を使用して以下の手順で作業を行います。

注記:

HPE Systems Insight Manager に依存する登録済みプラグインがインストールされている場合、HPE SIM はそれをアンインストールしません。

Systems Insight Manager のアンインストール

手順

1. **Systems Insight Manager** を選択して、**削除** をクリックします。HPE Systems Insight Manager をアンインストールする場合は、**はい** をクリックします。アンインストールを取り消す場合は **いいえ** をクリックします。

注記:

HPE Systems Insight Manager を削除しても Systems Insight Manager のデータベースファイルは削除されません。HPE Systems Insight Manager の再インストールを予定している場合は、古いデータベースの名前変更や削除は不要です。

2. **次へ** をクリックします。アンインストールを取り消す場合は、**キャンセル** をクリックしてください。

注記:

Systems Insight Manager コンポーネントアンインストール ウィンドウに示されるコンポーネントは、**プログラムの追加と削除** 機能を使用して個別にアンインストールすることもできます。ただし、System Management Homepage、バージョンコントロールレポジトリマネージャー、Pegasus WMI Mapper、MSDE、または他のローカルデータベースのアンインストールは、コントロールパネルの **プログラムの追加と削除** 以外からは実行できません。

3. **OK** をクリックして、アンインストールを開始します。HPE Systems Insight Manager ステータスチェックが完了します。
4. 選択したコンポーネントのアンインストールが完了すると、**Systems Insight Manager コンポーネントアンインストール** ウィンドウが表示されます。次に、HPE Systems Insight Manager をアンインストールします。HPE Systems Insight Manager のアンインストールの進捗状況を示す画面が表示されます。HPE Systems Insight Manager のアンインストールが完了すると、ウィンドウが表示され、システムの再起動が指示されます。ここで、システムを再起動してアンインストールを完了することをおすすめします。

構成オプション

HPE Systems Insight Manager の設定可能ないくつかのパラメーターは、GUI からは使用できません。これらのパラメーターは、CMS の設定ファイルを編集することで設定できます。

注記:

すべての HPE Systems Insight Manager パラメーターは、大半の状況に適した事前に定義済みの値に設定されています。デフォルト値を使用して問題が発生した場合にだけ、これらのパラメーターを変更する必要があります。

デフォルトでは、設定ファイルの主な格納場所は 2 つあります。

- C:\Program Files\HP\System Insight Manager\config\
- C:\Program Files\HP\System Insight Manager\hpwebadmin\lib

HPE Systems Insight Manager がデフォルトの場所にインストールされていない場合、Windows のディレクトリパスは上記とは異なります。これらのファイルのフォーマットは、Java プロパティファイルのフォーマットです。そのため、これらのファイルのキーは大文字と小文字を区別します。また、バックスラッシュ (\) は二重バックスラッシュ (\\) で指定する必要があります。Java プロパティファイルのフォーマットについては、Web サイト <http://java.sun.com/> を参照してください。

この章では、次の設定オプションについて説明します。

- [データ収集時の CPU 使用率](#) (74 ページ)
- [GUI のタイムアウトポリシー](#) (74 ページ)
- [HPE Systems Insight Manager の監査ログ設定](#) (75 ページ)
- [タスクの結果の設定](#) (76 ページ)

データ収集時の CPU 使用率

概要

データ収集タスクは、管理対象システムの応答を待機する複数の計算およびデータベース操作を処理するために、多数のスレッドを並列して実行します。低速なシステムでは、CMS システムのプロセッサ速度や収集対象のシステム数に応じて、CPU が一時的に飽和状態になってしまうことがあります。そのため、HPE Systems Insight Manager では CPU の使用量を減少させるためのいくつかの戦略が提供されています。

実装

CMS でのデータ収集時に CPU 使用量を減少させるために、次のように対処しています。

- 一度に収集対象とするシステム数を制限します。たとえば、システムのグループごとに個別のデータ収集タスクを作成し、それらが異なる時刻に実行されるようにスケジュールします。
- CMS 以外のシステム上のリモートデータベースを使用するように、CMS を設定します。データ収集中、CPU 負荷のかなりの部分がデータベースによって消費されます。このオプションは、Windows CMS だけでサポートされています。
- `globalsettings.props` ファイルの `DataCollectionThreadCount` パラメーターの値を小さくします。このパラメーターはデフォルトでは 3 に設定されています。この値を 2 または 1 に設定すると、データ収集タスクによって生じる CPU 負荷が低減しますが、タスクを完了するためにより長い時間が必要となります。

GUI のタイムアウトポリシー

概要

HPE Systems Insight Manager には 2 つのタイムアウトポリシーがあり、どちらかを選んで使用できます。第 1 のタイムアウトポリシーは、HPE Systems Insight Manager を使用してシステムステータスを監視している環境向けで、監視タイムアウトポリシーと呼ばれます。第 2 のタイムアウトポリシーはより厳密で、非アクティブなユーザーをタイムアウトとして処理します。これは、アクティブタイムアウトポリシーと呼ばれ、Servicecontrol Manager で使用されているポリシーに似ています。

監視タイムアウトポリシー

監視タイムアウトポリシーは、ユーザーが HPE Systems Insight Manager GUI を表示している Web ブラウザーウィンドウを開いている限り、そのセッションを存続させます。ブラウザを閉じるか、別の Web ページに移動すると、タイムアウト期間のタイマーが始動します。デフォルトのタイムアウト期間は 20 分間です。離席などでユーザーがいない間にセッションが違法に使用されないように、パスワード保護されたスクリーンセーバーなどのその他の手段を用いてセッションを保護する必要があります。

アクティブタイムアウトポリシー

アクティブタイムアウトポリシーは、リンクやボタンのクリックなど、ユーザーが GUI をアクティブに使用している間だけセッションを存続させます。バナーの表示や更新だけでは、セッションを存続させるには不十分です。非アクティブな場合、またはブラウザを閉じたか、別のサイトへ移動した場合には、そのユーザーはタイムアウトになります。デフォルトのタイムアウト期間は 20 分間です。

実装

- タイムアウトポリシーを設定するには、`globalsettings.props` ファイルを編集します。2 つのモード間を切り替えたり、タイムアウト期間を変更したりできます。デフォルトのタイムアウトポリシーは監視タイムアウトポリシーです。次のように指定されている場合は、監視タイムアウトポリシーが有効です。

```
EnableSessionKeepAlive=true
```

アクティブタイムアウトポリシーを有効にするには、この値を `false` に変更します。

```
EnableSessionKeepAlive=false
```

- デフォルトのタイムアウト期間を変更するには、`web.xml` ファイルを編集します。この Windows ファイルのデフォルトの格納場所は、次のとおりです。

```
C:\Program Files\HP\System Insight Manager\jboss\server\hpsim\deploy\Jboss-web.deployer\config\web.xml
```

`session-timeout` 要素を新しい値（分単位）に設定します。

```
<session-timeout>20</session-timeout>
```

HPE Systems Insight Manager の監査ログ設定

概要

Systems Insight Manager の監査ログでは、複数の機能を設定できます。たとえば、データをログに記録するツール、および最大監査ログファイルサイズを指定できます。Systems Insight Manager の監査ログは `log.properties` ファイルで設定し、ログに記録するツールを有効または無効に設定する場合は、XML ツール定義ファイルで行います。

ツールの動作

XML ツール定義ファイルには、単一システム対応（SSA）コマンドツールとマルチシステム対応（MSA）コマンドツールのログを無効にするオプションがあります。コマンド要素のログ属性では、コマンドの結果を Systems Insight Manager ログファイルに出力するかどうかを指定します。コマンド出力はデフォルトでログに記録されます。

監査ログパラメーター

log.properties ファイルでは、次の監査ログパラメーターを設定できます。

- ファイル名。
- ファイルの拡張子。
- 最大ファイルサイズ (MB)。
- ロールオーバー名のファイル拡張子。
- 監査ログに書き込む項目をキューに入れるために割り当てるメモリ量。

監査ログの場所

監査ログの場所は、path.properties ファイルで設定できます。

実装

log.properties ファイルに加えた変更は、ログマネージャーデーモンまたはサービスを再起動するまでは有効になりません。HPE Systems Insight Manager サービスを再び開始します。

△ 注意:

キューサイズを変更するときは、十分に注意する必要があります。キューサイズの設定値が大きすぎると、ログマネージャーにより大量のシステムメモリが消費される可能性があります。

注記:

監査ログファイルが最大サイズに達すると、ログファイルの拡張子が `MX_LOGROLLFILEEXT` に変更されて、新しいファイルへの書き込みが開始されます。前バージョンのファイルがすでに `MX_LOG_ROLLFILEEXT` 拡張子に変更されていた場合は、そのファイルは、監査ログファイルの自動ロールオーバーになります。ロールオーバーは、タスクの実行が完了するまで行われません。ただし、最大ファイルサイズを超えてから 1 時間が経過してもタスクが完了しない場合は、監査ログファイルは別のファイルにロールオーバーされます。

Systems Insight Manager 監査ログファイルの位置の設定

手順

1. path.properties という名前のファイルを `C:\Program Files\HP\System Insight Manager\config` に作成します。
2. path.properties ファイルに次のエントリーを追加します。LOG=`\\Auditlog\Logs` or LOG=`C:/Auditlog/Logs`

注記:

`C:\\Auditlog\\Log` は、例として挙げたものです。このパスは、ユーザーによって定義されます。

3. HPE Systems Insight Manager サービスを再開し、HPE Systems Insight Manager デーモンを再起動します (mxstop および mxstart)。サービスを再起動すると、path.properties ファイルで指定したディレクトリに、mx.log という名前の新しいログファイルが作成されます。

タスクの結果の設定

HPE Systems Insight Manager では、タスクが完了した後に、タスクの結果ページでエントリーを保持しておく期間を設定できます。

タスクライフタイムの長短

タスクの結果の中には、短期間しか保持されないものもあれば、長期間保持されるものもあります。タスクは、関連付けられたツールのタイプによって、1 つまたはその他のカテゴリに分類されます。次のツールのタスクは、短期間しか保持されません。

- Web により起動されるツール
- コマンド出力を保存するために `-o` または `-o` オプションを使用して、`mxexec` コマンドラインから実行されたツール
- X-Window コマンドを実行するツール
- ツール定義で `job-log` フラグが無効として指定されているツール。次のものが含まれます。
 - ハードウェアステータスポーリング
 - データ収集
 - システムの識別
 - ソフトウェアステータスポーリング
 - イベントの削除
 - システムプロトコル設定
 - 自動検出

このカテゴリのツールは、タスクの結果を出力しないか、タスクの結果が HPE Systems Insight Manager の外部に保存されるか、またはタスクの結果に長期間留意する必要がないものです。その他のすべてのツールのタスクは、長期間タスクと見なされます。

頻繁にスケジュールされるタスク スケジュールされたタスクのタスク結果の累計が一定数に達すると、タスク結果もタスクの結果ページから削除できます。この設定は、デフォルトではタスクあたり 10 インスタンスです。結果ページ上の累計数が 10 を超えると、このスケジュールされたタスクのもっとも古いタスク結果が削除されます。

最終結果のタスク タスク結果がスケジュールされたタスクの最終結果である場合、そのタスク結果は無期限に保持されます。たとえば、スケジュールされたタスクが無効になると、その最終結果が無期限に保持されず、そのタスクが有効になっても、追加のタスク結果が累計されるまでは、この最終結果が保持されます。

HPE Systems Insight Manager インターフェイスを使用してタスク結果を設定するには、**オプション > タスク結果設定** を選択します。詳しくは、*HPE Systems Insight Manager のヘルプシステム* を参照してください。

短期間および長期間のタスクを手動で設定するには、`globalsettings.props` ファイルを編集します。

- 長いライフタイムのデフォルト値は 30 日間です。これを変更するには、次のパラメーターを編集します。
`MX_JOB_MAX_COMPLETED_JOB_AGE=30`
- 頻繁にスケジュールされるタスクのタスク結果は、10 インスタンスを超えると廃棄され始めます。これを変更するには、次のパラメーターを編集します。`MX_JOB_MAX_COMPLETED_JOBS_PER_TASK=10`

注記:

タスク結果の 10 インスタンスまでの制限は、ツール定義で「`job-log`」フラグが有効なスケジュールされたタスクに適用されます。「`job-log`」フラグが無効なツールのスケジュールされたタスクは、タスク結果が 1 インスタンスまでに制限されます。この値は設定できません。

- スケジュールされたタスクの場合、デフォルトでは、最終タスク結果が無期限に保持されます。
複数のジョブの保持

手順

1. HPE Systems Insight Manager を停止します。
2. `globalsettings.props` を編集して、次を追加します。`MX_JOB_MIN_COMPLETED_JOBS_PER_TASK = n`
ここで、`n` は、保持するタスク結果の数字です。
3. HPE Systems Insight Manager サービスを起動して、変更を反映します。

データベースインストール

SQL Express のインストールおよび使用

このオプションにより、Systems Insight Manager をインストールして、SQL Express を使用するように設定できます。

SQL Express のインストールおよび使用

手順

1. データベース設定ウィンドウで、**SQL Express のインストールおよび使用**を選択します。
2. ユーザー名フィールドには、インストールを行ったユーザーのアカウントが表示されますが、変更できません。指定するアカウントは、データベースサーバーのユーザー名でなければなりません。
3. パスワードフィールドに、データベースサーバーのパスワードを入力します。
4. HPE Systems Insight Manager は、ユーザー名とパスワードで以下をサポートしません。
 - a. 空白のパスワード
 - b. スペース、次に二重引用符
 - c. バックスラッシュ (\)

ユーザー名またはパスワードで上記の文字を使用すると、HPE Systems Insight Manager データベースの初期化が失敗します。

5. ドメインおよびホストフィールドに、データベースサーバーのドメイン名を入力します。
6. **次へ**をクリックします。ダイアログボックスが表示され、ファイルが抽出されることを示します。ファイルが抽出されたら、新しいダイアログボックスが表示され SQL Express がインストールされることを示します。SQL Express がインストールされると、**インストールタイプの選択**ウィンドウが表示されます。

注記:

SQL DB および Oracle DB 用のポート番号は、それぞれ 1433 と 1521 です。

SQL/SQL Express を使用

このオプションは、SQL 2014/SQL 2012 SP2 または SQL Express がインストールされており、どちらかを使うように HPE Systems Insight Manager を設定したい場合に選択できます。

SQL 2014/SQL 2012 SP2

手順

1. データベース設定ウィンドウで、**SQL/SQL Express を使用**を選択します。
2. ユーザー名フィールドには、インストールを行ったユーザーのアカウントが表示されますが、変更できません。指定するアカウントは、データベースサーバーのユーザー名でなければなりません。
3. パスワードフィールドに、データベースサーバーのパスワードを入力します。

HPE Systems Insight Manager は、ユーザー名とパスワードで以下をサポートしません。

- a. 空白のパスワード
- b. スペース、次に二重引用符
- c. バックスラッシュ (\)

ユーザー名またはパスワードで上記の文字を使用すると、Systems Insight Manager データベースの初期化が失敗します。

- ドメインおよびホストフィールドに、データベースサーバーのドメイン名を入力します。
- 次へをクリックします。インストールタイプの選択ウィンドウが表示されます。

Oracle を使用

このオプションは、Oracle がインストールされており、Oracle を使うように HPE Systems Insight Manager を設定したい場合に選択できます。

Oracle の設定

手順

- Oracle をインストールするか、Oracle がインストールされていることを確認します。
- Oracle Database Configuration Assistant** を使用して、データベーススキームを作成します。Assistant を使用するには、**プログラム > Oracle-OraHome92 > Configuration and Migration Tool** を選択します。
- データベースの作成を選択して、次へをクリックします。
- 汎用目的を選択して、次へを選択します。
- グローバルデータベース名に名前（たとえば、HPE SIM）を入力し、次へを選択します。
- 専用サーバーモードを選択して、次へを選択します。
- メモリー > カスタムを選択して、次へを選択します。
- キャラクターセットを選択します。
- Unicode を使用 (AL32UTF8) を選択して、次へを選択します。
- 次へを選択します。
- 終了を選択し、オプションを確認して、OK を選択します。スキーマの作成には、約 10~15 分かかります。
- Oracle によるデータベースの作成が完了したら、SYS と SYSTEM 用のパスワードを入力します。
- ユーザーを作成し、スキーマへのアクセスを許可します。
 - コマンドプロンプトを開きます。
 - プロンプトで、`sqlplus` と入力します。
 - `>login:` で、`conn sys as sysdba` と入力します。
 - `>Password:` で、パスワードを入力します。
 - SQL> で、`create user sim_manager identified by quake` と入力します。
 - SQL> で、`grant connect, resource, dba to sim_manager` と入力します。
 - `exit` コマンドを使用して、コマンドプロンプトユーティリティを終了します。
- データベーススキーマ用のリスナーを作成します。
 - プログラム > Oracle-OraHome92 > Configuration and Migration Tool > NetConfiguration Assistant** を選択します。
 - リスナー構成を選択します。
 - 追加を選択します。
 - デフォルト名の LISTENER を使用し、次へを選択します。
 - TCP を選択して、次へを選択します。
 - 標準ポート 1521 を入力します。
 - 他のリスナーを構成しますか？ダイアログが表示されたら、いいえを選択します。
 - サービスで OracleOraHome92TNSListener を自動に設定し、サービスを開始します。

Oracle を使用

- データベース設定ウィンドウで、Oracle を使用を選択します。データベースを使用する前に、データベースについて以下を確認する必要があります。
 - AL32UTF8 の Unicode 文字セットと AL16UTF16 の各国文字セットを使用している。
 - NLS の長さが BYTE に設定されている。

- III. HPE Systems Insight Manager 専用のデータベース管理者 (DBA) 権限を持つ Oracle ユーザーが作成されている。
 - IV. Oracle データベーススキーマが空である。HPE Systems Insight Manager は、空の Oracle データベーススキーマにインストールする必要があります。
 - V. thin クライアントの.jar (ojdbc6.jar) が、システムの C:\oracle\ora92\jdbc\lib とインストール中に指定した位置にコピーされている。
- b. ユーザー名フィールドに、DBA ロールを割り当てられた Oracle ユーザー名を入力します。

注記:

Oracle ユーザー名には、バックslash (\) やフォワードslash (/) を含むことはできません。

-
- c. パスワードフィールドに、指定したユーザー名のパスワードを入力します。
 - d. ホストフィールドに、Oracle をインストールしたリモートまたはローカルサーバーの名前を入力します。IP アドレスを使用することもできます。
 - e. インスタンス名の下データベースフィールドに、Oracle 上で HPE Systems Insight Manager が使用するために作成したデータベースの名前を入力します。
 - f. ポートフィールドには、デフォルトの **1521** が表示されますが変更できます。
 - g. Jar ファイルフィールドに、ojdbc6.jar ファイルのフルパスを入力するかまたは参照をクリックして正しい位置 (C:\oracle\ora92\jdbc\lib) に移動します。このパスは、CMS のファイルシステムを介してアクセスできなければなりません。インストーラーは、.jar ファイルを正しい位置にコピーします。
 - h. ホストフィールドには、ローカルホスト名が表示されます。この値は、新規インストールの場合のみ、変更できます。
 - i. 次へをクリックします。インストールタイプの選択ウィンドウが表示されます。

注記:

(HPE Systems Insight Manager データベースインスタンス内または VPM によって作成されたデータベースインスタンス上に) HP Insight Vulnerability and Patch Manager ソフトウェア MSDE データベースが存在する場合は、SQL Express にアップグレードされます。VPM データベースのアップグレードが失敗すると、Failed to Upgrade VPM Database to SQL Express (VPM データベースの SQL Express へのアップグレードが失敗しました) という内容のメッセージが表示されますが、HPE Systems Insight Manager のインストールは続行されます。

カスタムインストール

カスタムインストール

手順

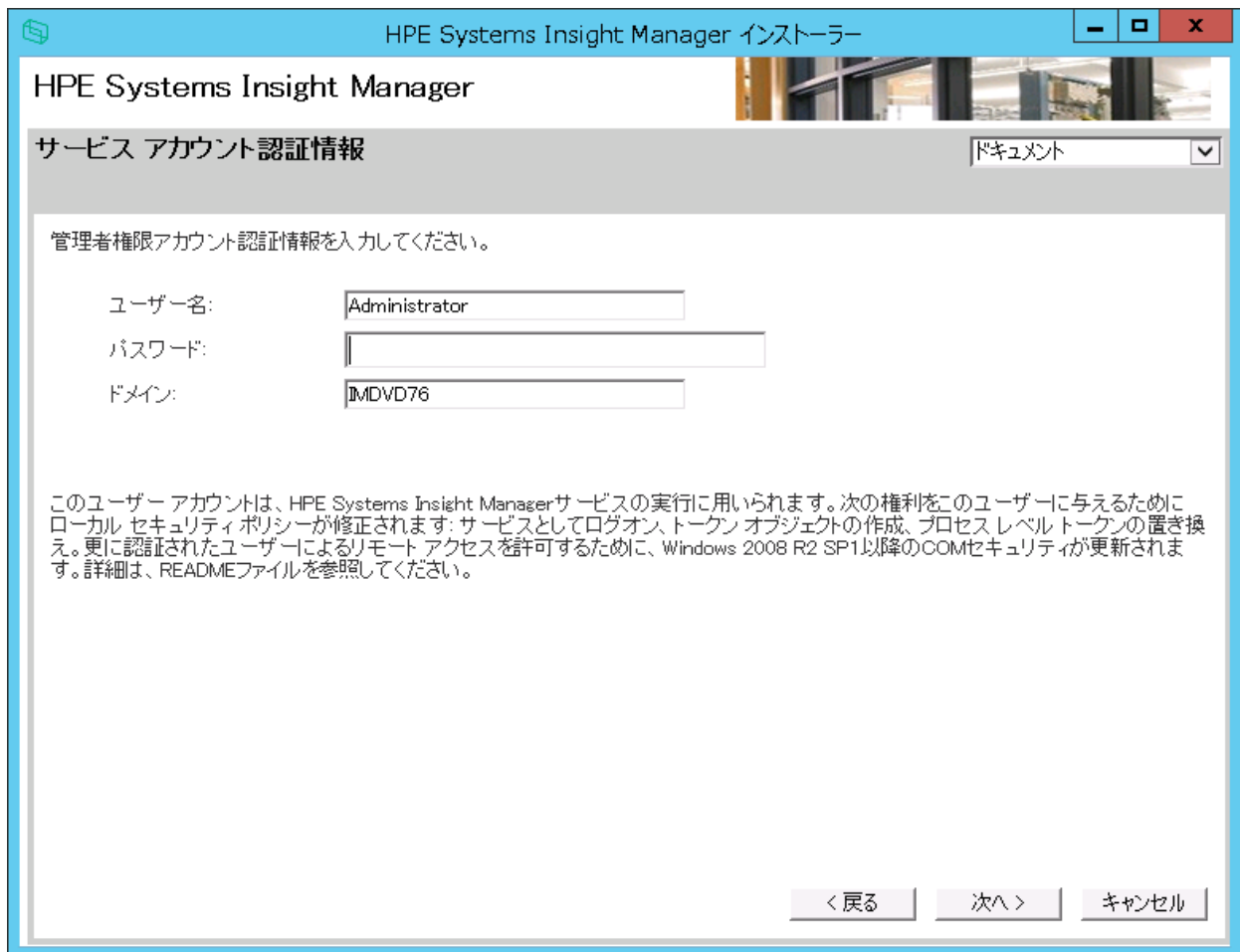
1. 次へをクリックします。ソフトウェア選択ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、使用できるコンポーネントの完全な一覧が表示されます。また、各コンポーネントの横にチェックボックスが付いています。チェックボックスが選択された状態で無効になっている場合は、そのコンポーネントが必須コンポーネントであり選択解除できないことを意味します。コンポーネントごとに、必要なディスク容量も示されます。インストールするコンポーネントを選択します。



注記:

WMI Mapper をインストールする場合は、ポート値を入力できます。WMI Mapper がすでにインストールされている場合は、ポート値は変更できません。

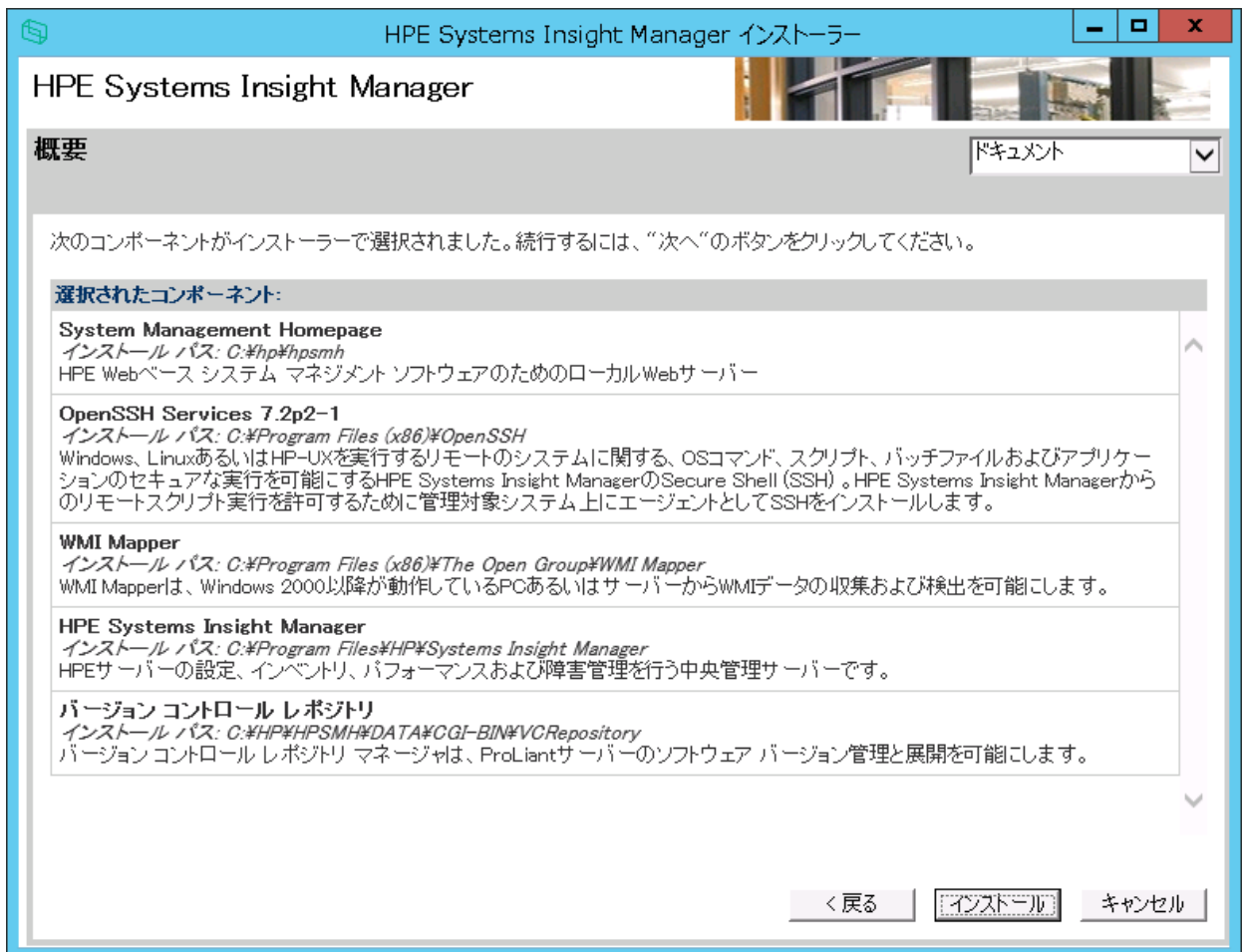
2. 次へをクリックして、選択したコンポーネントをインストールできるだけの十分な空きディスク容量があるかどうかを確認します。十分な空き容量がある場合、サービスアカウント認証情報ウィンドウが表示されます。ドメインフィールドとユーザー名フィールドは、デフォルトで、インストールを行ったアカウントの認証情報に設定されています。新規インストールの場合は、この値を変更できます。このアカウントのパスワードを入力してください。



注記:

このユーザーアカウントは、HPE Systems Insight Manager サービスを実行するために使用されません。

3. **次へ**をクリックします。**概要**ウィンドウが表示されます。



4. インストールをクリックしてインストールプロセスを開始します。このプロセスにより、**選択されたコンポーネント**テーブルに表示されているすべての製品がインストールされます。ステータスウィンドウが表示されます。各コンポーネントのインストール中、コンポーネント名の横には**進行中**というステータスが表示されます。コンポーネントがインストールされると、ステータス表示は**正常にインストール**されましたに変わります。
5. 次のように操作して、HPE System Management Homepage をインストールします。
 - a. **HPE System Management Homepage セットアップ**ウィンドウが表示されます。この InstallShield ウィザードに従うことにより、HPE System Management Homepage のインストールをスムーズに行うことができます。**次へ**をクリックします。**オペレーティングシステムグループ**ウィンドウが表示されます。

注記:

HPE System Management Homepage のインストール中に、**キャンセル**をクリックすると、HPE System Management Homepage のインストールとセットアップが中止されます。

- b. **オペレーティングシステムグループ名**フィールドから**管理者**、**オペレーター**、または**ユーザー**を選択します。
- c. **オペレーティングシステムグループ**のグループ名を**グループ名**フィールドに入力します。**追加**をクリックします。グループ名が追加されます。グループレベルごとに最大5つのエントリを追加できます。**次へ**をクリックして作業を続行します。

注記:

グループ名を削除するには、グループ名を選択して、**削除**をクリックしてください。

d. ユーザーアクセスウィンドウで、HPE System Management Homepage のアクセスタイプを、以下のいずれかに設定します。

- **匿名アクセス**を選択すると、セキュリティ保護されていないページへの匿名アクセスが可能になります。
- **ローカルアクセス - 匿名またはローカルアクセス - 管理者**を選択すると、選択されたアクセスレベルでローカル IP アドレスのアクセスを自動的に許可するように HPE System Management Homepage を設定できます。

△ 注意:

管理者権限を持つ**ローカルアクセス**を選択すると、任意のユーザーが、ユーザー名やパスワードの入力を求められることなく、ローカルコンソールにフルアクセスできるようになります。

e. **次へ**をクリックします。**信頼モード**ウィンドウが表示されます。

f. 提供したいセキュリティレベルを、次の3つの信頼モードのいずれかから選択します。

- **証明書による信頼**
- **名前による信頼**
- **すべて信頼**

証明書による信頼

次のいずれかのオプションを選択して、信頼証明書を追加します。

方法 1

- I. **証明書による信頼**を選択して、**次へ**をクリックします。**信頼された証明書**ウィンドウが表示されます。**信頼された証明書**ウィンドウでは、信頼済み証明書ファイルを**信頼された証明書**リストに追加できます。
- II. **ファイルを追加**をクリックして、**信頼された証明書**リストに追加する証明書を表示し、選択します。**ファイルの選択**ウィンドウが表示されます。不適切なファイル名がファイル名フィールドに入力されると、ファイルが存在しないことを示すエラーメッセージが表示されます。**OK**をクリックして別のファイルを選択するか、または**開く**をクリックしてファイルを**信頼された証明書**リストに追加します。**信頼された証明書**リストが表示されます。**次へ**をクリックします。

注記:

証明書をリストに追加せずに**次へ**をクリックすると、前のインストールから証明書が存在しない場合には、信頼済み証明書を指定しないと Systems Insight Manager がこのシステムの Insight Management Advisor にアクセスできないことを示すメッセージが表示されます。Systems Insight Manager をこのシステムの Insight マネジメントエージェントにアクセスさせたくない場合は **OK** をクリックします。アクセスさせたい場合は、**キャンセル**をクリックしてウィンドウを閉じて、信頼済み証明書をリストに追加してください。

注記:

証明書による信頼オプションにより、HPE System Management Homepage システムと Systems Insight Manager システムは、証明書によって信頼関係を確立できるようになります。このモードは最もセキュリティの高い方法になります。証明書のデータを必要とし、デジタル署名を確認してからアクセスを許可するからです。

III. **クリックして、ファイルのコピー開始に移ります。**

オプション 2

- I. **インポート**をクリックします。**サーバー証明書のインポート**ウィンドウが表示されます。
- II. インポートしたい証明書を持つサーバーの名前または IP アドレスを入力します。
- III. **証明書の取得**をクリックします。証明書情報が表示されます。

- IV. 証明書情報を確認します。この証明書を信頼された証明書リストに追加したい場合は、承認をクリックして証明書を信頼された証明書リストに追加します。この証明書を信頼された証明書リストに追加したくない場合は、キャンセルをクリックしてください。信頼された証明書リストが表示されます。次へをクリックします。

注記:

追加できる信頼済み証明書の数に制限はありません。

注記:

証明書を削除するには、証明書を選択して、削除をクリックしてください。選択した証明書が削除されます。

- V. 特定のサブネットおよびマスクに対応する IP アドレスにバインドする場合は、IP バインドウィンドウで、IP バインドを有効チェックボックスをオンにします。次へをクリックします。
- VI. 特定の IP アドレスまたは IP アドレス範囲を包含または除外する場合は、IP 限定ログインウィンドウで、IP 限定ログインを有効チェックボックスをオンにします。次へをクリックして、ファイルのコピー開始を表示します。
- VII. クリックして、ファイルのコピー開始に移ります。

名前による信頼

- I. 名前による信頼を選択します。次へをクリックします。信頼されたサーバーウィンドウが表示されます。信頼するサーバーの名前を入力します。

名前による信頼モードはすべて信頼モードよりも多少強力なセキュリティを提供しますが、システムにはセキュリティ攻撃に対する脆弱性が残ります。名前による信頼モードでは、HPE Systems Insight Manager の名前が名前による信頼フィールドに指定されているサーバーからの特定の要求だけを受け入れるように HPE System Management Homepage が設定されます。名前による信頼オプションは、設定が容易で、悪意のない不正アクセスを防止できます。たとえば、セキュリティ保護されたネットワーク内に 2 つの独立した部門があり、それぞれ異なる管理者グループがある場合は、名前による信頼オプションが役立ちます。この場合、名前による信頼オプションにより、一方のグループが間違ったシステムにソフトウェアをインストールすることを防止できます。このオプションでは、提出された HPE Systems Insight Manager サーバー名以外は確認されません。

注記:

サーバー名には次の記号は使用できません。

~!`@#\$%^&*()+=":'<>?,|;

- II. 追加をクリックして信頼するサーバー名を追加します。次へをクリックします。

注記:

サーバー名をリストに追加せずに次へをクリックすると、信頼するサーバー名を指定しないと Systems Insight Manager がこのシステムの Insight マネジメントエージェントにアクセスできないことを示すメッセージが表示されます。OK をクリックして、信頼するシステムを指定せずに作業を進めるか、キャンセルをクリックしてウィンドウを閉じて、サーバー名をリストに追加します。HPE SMH インターフェイスで、Systems Insight Manager の名前（ホスト名）を入力しない場合、適用ボタンは有効になりませんが、HPE SMH のインストール中にエラーメッセージが表示された後でもインストールを続行します。

注記:

証明書を削除するには、証明書を選択して、**削除**をクリックしてください。選択した証明書が削除されます。

- III. 特定のサブネットおよびマスクに対応する IP アドレスにバインドする場合は、**IP バインド**ウィンドウで、**IP バインド**を有効チェックボックスをオンにします。**次へ**をクリックします。
- IV. 特定の IP アドレスまたは IP アドレス範囲を包含または除外する場合は、**IP 限定ログイン**ウィンドウで、**IP 限定ログイン**を有効チェックボックスをオンにします。**次へ**をクリックして、**ファイルのコピー開始**を表示します。
- V. **クリックして、ファイルのコピー開始に移ります。**

すべて信頼

- I. **すべて信頼**を選択します。**次へ**をクリックします。**IP バインド**ウィンドウが表示されます。
- II. 特定のサブネットおよびマスクに対応する IP アドレスにバインドする場合は、**IP バインド**を有効チェックボックスをオンにします。**次へ**をクリックします。

注記:

すべて信頼オプションでは、セキュリティ攻撃に対する脆弱性がシステムに残り、HPE System Management Homepage は、すべてのサーバーからの特定の要求を受け入れるように設定されます。たとえば、セキュリティ保護されたネットワークで、ネットワーク内のすべてのシステムやユーザーを信頼できる場合は、**すべて信頼**が役立ちます。

注記:

最大 5 つのサブネット IP アドレスとネットマスクのペアを追加できます。

注記:

IP バインドをクリックした場合、IP アドレス/ネットマスクを指定しないと、HPE System Management Homepage に接続できないことがあります。

IP 限定ログインウィンドウが表示されます。**IP 限定ログイン**ウィンドウでは、IP アドレスまたは IP アドレス範囲を選択します。選択した IP アドレスは、ログインアクセスの許可対象に含めたり、許可対象から排除したりすることができます。HPE System Management Homepage のオプション機能には、アクセスを試みるマシンの IP アドレスに基づいてログインアクセスを制限する機能があります。

- III. **IP 限定ログイン**を有効を選択して、**次へ**をクリックします。**内包する IP アドレス**ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、ログインアクセスを許可する IP アドレスまたは IP アドレス範囲を指定できます。**内包**リストに IP アドレスが含まれる場合、含まれている IP アドレスからのログインだけが有効になります。内包リストに IP アドレスが含まれていない場合は、**除外**リストに含まれていないすべての IP アドレスにログイン権限が付与されます。

注記:

IP 限定ログインウィンドウではアドレスおよびアドレス範囲が 1 つだけ受け入れられません。最初のボックスにアドレスを 1 つ入力してください。

- IV. **内包**フィールドに、ログインアクセスを許可したい IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを入力します。**To** フィールドに、ログインアクセスを許可したい IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを入力します。開始 IP アドレスと終了 IP アドレスの間のすべての IP アドレスがログインアクセスを許可されます。**追加**をクリックします。IP アドレスまたは IP アドレス範囲が**除外**リストに追加されます。必要に応じて、IP アドレスまたは IP アドレス範囲を選択して**削除**をクリックし、アドレスを**除外**リストから削除してください。**次へ**をクリックします。

注記:

無効な IP アドレスまたは IP アドレス範囲を入力すると、IP アドレスが無効であることを示すエラーメッセージが表示されます。**OK** をクリックします。有効な IP アドレスまたは IP アドレス範囲を入力して、もう一度**追加**をクリックしてください。**除外する IP アドレス**ウィンドウが表示されます。

除外フィールドに、ログインアクセスを拒否したい IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを入力します。

- V. **To** フィールドに、ログインアクセスを拒否したい IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを入力します。開始 IP アドレスと終了 IP アドレスの間のすべての IP アドレスがログインアクセスを拒否されます。
 - VI. **追加**をクリックします。IP アドレスまたは IP アドレス範囲が**内包**リストに追加されます。必要に応じて、IP アドレスまたは IP アドレス範囲を選択して**削除**をクリックし、アドレスを**内包**リストから削除してください。**次へ**をクリックします。
-

注記:

無効な IP アドレスまたは IP アドレス範囲を入力すると、IP アドレスが無効であることを示すエラーメッセージが表示されます。**OK** をクリックします。有効な IP アドレスまたは IP アドレス範囲を入力して、もう一度**追加**をクリックしてください。

注記:

内包または**除外**リストに IP アドレスを追加せずに**次へ**を選択すると、次の警告メッセージが表示されます。もし、いかなる包括または除外する IP アドレスを指定しない場合には、限定された IP ログインのチェックボックスは無効になります。いかなる IP アドレスの限定を追加することなしに続行しますか?。**OK** をクリックすると、**IP 限定ログイン**ウィンドウの**IP 限定ログイン**オプションの選択が解除されます。

ファイルのコピー開始が表示されます。**ファイルのコピー開始**には、HPE System Management Homepage がインストールされる場所、インストールに必要な総容量、およびインストール時に指定したオプションの概要のリストが表示されます。

- g. **次へ**をクリックします。インストールプロセスが開始されます。**完了**をクリックしてウィザードを終了します。
-

注記:

HPE System Management Homepage をインストールした後に HPE Systems Insight Manager をインストールすると、HPE System Management Homepage の 2048 ビットの暗号鍵ペアが Systems Insight Manager の 1024 ビット暗号鍵ペアに置き換えられます。

- 6. 次のように操作して、OpenSSH をインストールします。
 - a. **OpenSSH Services セットアップウィザードの開始**で、**次へ**をクリックします。**インストール先の指定**ウィンドウが表示されます。セットアッププログラムは、OpenSSH を C:\Program Files \OpenSSH フォルダーにインストールします。インストール先ディレクトリを変更するには、**参照**ボタンをクリックします。**次へ**をクリックします。**OpenSSH サービスログオンユーザー**ウィンドウが表示されます。
 - b. アカウントパスワードを入力します。ユーザー名フィールドとドメインフィールドには値が入力されていますが、値を変更して選択したユーザーを指定することもできます。ただし、選択するアカウントに、ローカルの管理者権限がなければなりません（ローカルの Administrators グループのメンバー）。**次へ**をクリックします。**インストールの準備**ウィンドウが表示されます。

注記:

HPЕ SIM のすべての Microsoft Windows 版で、**OpenSSH サービスログオンユーザー**ウィンドウが表示されます。

- c. **インストール**をクリックします。
- d. OpenSSH のインストール終了後、プロンプトが表示されたら、**いいえ、後でコンピューターを再起動**します。を選択します。
- e. **完了**をクリックします。

注記:

ローカルセキュリティポリシーが変更され、サービスとしてログオン、トークンオブジェクトの作成、およびプロセスレベルトークンの交換権限がユーザーに付与されます。詳細については、**Hewlett Packard Enterprise Information Library** を参照してください。

7. 次のように操作して、WMI Mapper をインストールします。
 - a. **Welcome to the Pegasus WMI Mapper Setup Wizard** で、**Next** をクリックします。**End-User License Agreement** ウィンドウが表示されます。
 - b. 使用許諾契約書を読んでから、**I accept the terms in the License Agreement** をクリックします。**Next** をクリックします。**Choose Setup Type** ウィンドウが表示されます。
 - c. セットアップのタイプを選択します (Systems Insight Manager の基本要件は標準インストールです。標準を選択する場合は、ステップ d は省略してください)。

注記:

- WMI Mapper の https ポートを設定する場合は、必ず、**Custom** を選択してください。
- WMI Mapper のインストーラーは、ユーザーの入力を検証しません。必ず、正しいポート値を入力してください。別のアプリケーションが動作するポートの番号を入力すると、WMI Mapper サービスは開始できず、イベントログと C:\Program Files\The Open Group\WMI Mapper\logs\PegasusError.log ファイルにエラーが記録されます。
- 既存の WMI Mapper を更新または修正するとき、WMI Mapper のポートを変更することはできません。ただし、WMI Mapper の更新または修正後、C:\Program Files\The Open Group\WMI Mapper\cimserver_planned.conf ファイルを編集して、ポートの設定を手動で変更することはできます。

- d. デフォルト位置の C:\Program Files\The Open Group\WMI Mapper を選択するか、**Browse** を使用してインストール先を変更します。**OK** をクリックします。**次へ**をクリックします。**インストールの準備**ウィンドウが表示されます。
- e. **インストール**をクリックします。
- f. **完了**をクリックします。
8. 次のように操作して、HPE Systems Insight Manager をインストールします。
 - a. **Systems Insight Manager セットアップウィザードの開始**が表示されたら、**次へ**をクリックします。
 - b. **スタートメニュー**を選択し、**参照**を使用して別の場所を選択します。**次へ**をクリックします。**インストールの準備**ウィンドウが表示されます。
 - c. **インストール**をクリックします。**インストール状況**ウィンドウが表示されます。
 - d. インストールが終了したら**完了**をクリックして、**Systems Insight Manager インストーラー**ウィンドウを閉じます。
 - e. HPE Systems Insight Manager のインストールが完了すると、デスクトップ上に Hewlett Packard Enterprise Software Depot サイトへのショートカットが配置されます。このショートカットから Hewlett Packard Enterprise Insight Remote Support をダウンロードできます。HPE SIM での HPE Insight Remote Support の使用、システム要件、および製品サポートについては、<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs> で Insight Remote Support のドキュメントを参照してください。
9. 次のように操作して、バージョンコントロールエージェントをインストールします。

- a. HP バージョンコントロールレポジトリマネージャーウィンドウが表示されたら、インストールをクリックします。HPE バージョンコントロールレポジトリマネージャーレポジトリディレクトリウィンドウが表示されます。
- b. 参照ボタンを使用して、バージョンコントロールレポジトリマネージャーがサポートパック情報を取得するディレクトリを選択します。指定したディレクトリが存在していない場合は、後からディレクトリを手動で作成する必要があります。OK をクリックします。次へをクリックします。バージョンコントロールレポジトリマネージャー 自動アップデートウィンドウが表示されます。
- c. ProLiant Support Pack とコンポーネントを指定した間隔および時間に自動ダウンロードするには、自動アップデートの有効チェックボックスをオンにします。
- d. 完了をクリックします。バージョンコントロールレポジトリマネージャーのインストール処理が最後まで続行されます。

注記:

バージョンコントロールレポジトリマネージャーを使用するようにバージョンコントロールエージェントが設定されている場合、「1 つ以上のバージョンコントロールエージェントを、バージョンコントロールレポジトリマネージャーを使用するように設定する必要があります。」という警告が表示されます。設定されているエージェントがない場合は、バージョンコントロールエージェントの設定を調べて、自動アップデート機能が正しく動作しているかどうかを確認してくださいという内容の警告メッセージが表示されます。OK をクリックします。

- e. 閉じるをクリックします。
10. すべてのコンポーネントがインストールされると、ステータスウィンドウが再度表示されます。ステータスはインストール済みとなります。次へをクリックします。
11. 登録ウィンドウが表示されます。HPE Systems Insight Manager を登録するか、後で登録をクリックします。
12. 登録するか、後で登録をクリックすると、インストール完了ウィンドウが表示されます。
13. 完了をクリックすると、インストールが終わります。いずれかのコンポーネントにより再起動が要求された場合は、完了をクリックしたあとで、システムが自動的に再起動します。

注記:

HPE Systems Insight Manager のインストール時、15 文字を超える CMS のホスト名は短縮されます。インストールを完了するには、短縮された名前を使う必要があります。インストール後、2 つの管理者アカウントが作成されます。1 つのアカウントには、「元のホスト名\管理者名」、もう一方のアカウントには、「短縮されたホスト名\管理者名」が含まれます。ログインするには、サインインページのドメインフィールドに元のホスト名を入力してください。

詳しくは、[次のステップ](#)を参照してください。

サイレントインストール

サイレントインストール

.xml ファイルを使用した、コマンドラインからの HPE Systems Insight Manager のインストール

サイレントインストールを実行するためのオプションは、コマンドラインからのインストールで使用できません。サイレントインストールを実行するには、`setup.exe` を、サイレントインストール用のコマンドラインオプションを指定して起動します。

次のコマンドを実行します。`setup.exe -s <サイレントファイルへのパス> -svcpw <サービスパスワード> -dbpw <データベースパスワード>`

`silent.xml` ファイルは、`setup.exe` と同じディレクトリに保存されています。このテキストファイルは、任意のテキストエディターで編集できます。DVD から HPE Systems Insight Manager をインストールする場合は、`silent.xml` を、ファイルを編集できる位置にコピーしてください。Web から HPE Systems Insight Manager をインストールする場合は、インストールプログラムを抽出したあと、`silent.xml` ファイルを編集してセットアッププログラムをサイレントモードで起動してください。

エラー、警告、または情報メッセージは、すべて `Systems Insight Manager.log` に記録されます。HPE Systems Insight Manager とインストールされたコンポーネントのインストールステータスは、`silentstatus.xml` ファイルに表示されます。これらのファイルは、システムドライブのルートに作成されます。

`silent.xml` ファイルには、インストールプロセスで使用する以下のパラメーターが記述されています。

データベース情報 : `<installSQLEXPRESS>`を設定します

TRUE | FALSE

サイレントインストールの実行中に SQL Express をインストールするかしないかの決定には次のタグが使われます。

TRUE SQL Express をインストールする場合に指定します。

FALSE SQL Express をインストールしない場合に指定します。

例 : `<installSQLEXPRESS>false</installSQLEXPRESS>`

`<dbUserName>` データベースサーバーの local admins グループに所属する有効なユーザーアカウントを記述します。

`<dbDomain>` ユーザーアカウントのドメインを記述します。

`<dbHost>` SQL Server または SQL Express を実行するローカルサーバーかまたはリモートシステムを指定できます。データベースサーバーのホスト名または IP アドレスを記述します。

`<dbInstance>` データベースサーバー上ですでに実行されている有効なインスタンス名を記述します。また、ローカルサーバーに SQL Express をインストールする場合は、新しいインスタンス名を指定します。

`<dbName>` デフォルトの「master」を使用します。

`<dbPort>` デフォルトの 1433 を使用するか、または有効なポート番号を記述します。

HPE Systems Insight Manager サービス情報 :

TRUE | FALSE

次のフラグは、サイレントインストールの実行中の Oracle データベースの設定に使用します。dbOracle

TRUE Oracle データベースを使用する場合に指定します。

FALSE Oracle データベースを使用しない場合に指定します。

注記:

dbOracle を TRUE に設定する場合は、installSQLEXPR を False に設定する必要があります。

installSQLEXPR を TRUE に設定する場合は、dbOracle を False に設定する必要があります。

dbDomain および dbInstance パラメーターは設定しないでください (ブランクのままにしておく)。

dbOracleJARFile - Oracle データベースを使用する場合は、指定する必要があります。このフラグは、Oracle データベースへの接続に使用する JDBC ドライバーの位置を指定するために使います。

たとえば、<dbOracleJARfile>c:\ojdbc6.jar</dbOracleJARfile>と指定します。

<svcuserName> local admins グループに所属する、有効なローカルユーザーアカウントかドメインユーザーアカウントを記述します。

<svcDomain> ユーザーアカウントのドメインを記述します。

インストールの場所 : <baseInstallLocation>および<hpsimInstallLocation>

HPE Systems Insight Manager およびパートナーコンポーネントのインストール位置を定義します。この基本インストール位置は、HPE Systems Insight Manager およびパートナーコンポーネントのインストール先のメインディレクトリです。OpenSSH、HPE Insight Control 仮想マシン管理は、silent.xml で指定される <baseInstallLocation>にインストールされます。HPE Systems Insight Manager は、silent.xml で指定される<hpsimInstallLocation>にインストールされます。サイレントインストールプログラムが、ターゲットシステム上でインストール済みの HPE Systems Insight Manager を見つけると、(システムのルートドライブ) \program Files\The open group\WMI Mapper で、(システムのルートドライブ) \hpsmh.WMI Mapper の代わりにその位置が使用されます。

<allowReboot> 必要に応じて、「true」または「false」に設定します。HPE Systems Insight Manager とパートナーコンポーネントのインストール後、サーバーを再起動することをおすすめします。silent.xml には、インストール対象のすべてのコンポーネントとその製品 ID が一覧で示されます。インストールする場合は、<install>値を「true」に設定します。

注記:

HPE Systems Insight Manager と HPE System Management Homepage は、<install>が「false」に設定されていても、必ずインストールされます。

使用する WMI Mapper コンポーネントの https ポートのポート値を設定します。このポートのデフォルト値は 5989 です。wbemportlist.xml ファイルを編集すると、WBEM の代替ポートを設定できます。wbemportlist.xml ファイルの編集について詳しくは、「サイレントインストール」を参照してください。

<httpsport.full.name>は、WMI Mapper の https ポートの値に設定されます。

注記:

サイレントインストールの場合、&、<、>、'、"などの特殊文字を含むサービスまたはデータベースのユーザー名やドメイン名は、silent.xml ファイルで、以下のように適切にエスケープさせる必要があります。

```
&amp; &  
&lt; <  
&gt; >  
&apos; '  
&quot; "
```

たとえば、user&l というユーザー名の場合、silent.xml でのエントリは user&l になります。

サイレントインストールでは、引用文字 (") を含むサービスパスワードまたはデータベースパスワードはサポートされていません。

詳しくは、[次のステップ](#)を参照してください。

wbemportlist.xml ファイルの編集

HPE SIM は、wbemportlist.xml ファイルを編集して、WBEM で代替ポートをサポートできるようにします。wbemportlist.xml ファイルを編集するには、次の操作を実行する必要があります。

1. 次の位置にある wbemportlist.xml ファイルを確認します。C:\Program Files\HP\System Insight Manager\Config\Identification
2. wbemportlist.xml ファイルに以下の行を追加します。

```
</port>  
<port id="<PORT_NUMBER>" protocol = "https">  
<cimnamespacelist>  
<cimnamespace name="root/cimv2"/>  
</cimnamespacelist>  
</port>
```

3. HPE SIM サービスを再起動します。
4. Windows サービス API で、HPE Systems Insight Manager サービスを右クリックして、ドロップダウンメニューから再開を選択します。

トラブルシューティング

インストール

HPE Systems Insight Manager をインストールする際、データベース設定ページのポートの値が、Oracle ではグレー表示される。

アクション

手順

- 解決するには一度 SQL/SQL Express を使用を選択してから、再度 Oracle を使用を選択してください。ポートの値が有効になります。

HPE Matrix Operating Environment (Matrix Operating Environment) スタンドアロンサーバー収集で、HPE Systems Insight Manager をインストールする際、データベースを初期化した後のすべてのサーバー収集と同じ結果が表示される。

原因

Matrix Operating Environment 収集は、Systems Insight Manager 6.x ではデフォルトでは利用できません。この収集は、Matrix Operating Environment プラグインがインストールされた場合のみ使用できます。

アクション

手順

1. 解決するには、HPE Systems Insight Manager をインストールした後に収集が予期しない結果を返した場合に、HPE Systems Insight Manager サーバーを再起動してください。

Microsoft Windows Server 2008 システムに HPE Systems Insight Manager をインストールした後、mxstop および mxstart コマンドが動作しない。

原因

この問題はファイアウォールが原因となっています。

アクション

手順

1. この問題を解決するには、ファイアウォールで HPE Systems Insight Manager サービスの実行が許可されていることを確認してください。

デフォルトのセキュリティ設定の Microsoft Windows Server 2008 に HPE Systems Insight Manager をインストールできない。

アクション

手順

1. デフォルト設定の Microsoft Windows Server 2008 への HPE Systems Insight Manager のインストール
1. スタート > すべてのプログラム > 管理ツール > サーバマネージャの順にクリックするか、コントロールパネル > 管理ツール > サーバマネージャの順にクリックします。
2. 右側のパネルから、セキュリティ情報 > IE ESC の構成の順に下方向にスクロールして、管理者およびユーザーの Internet Explorer セキュリティ強化の構成 (IE ESC) をオフに設定します。
3. OK をクリックして、HPE Systems Insight Manager のインストールを再開します。

Windows NT 3.51 または Windows NT 4.0 で HPE Systems Insight Manager をロードできない。

原因

Windows NT 3.51 および Windows NT 4.0 は、サポートされているプラットフォームではありません。

Windows のインストール時に、データベース認証情報画面で、無効な認証情報についてのエラーが表示されインストーラーが停止し、パスワードを入力できなくなる。

原因

ユーザー名およびパスワードで、スペースに続けて二重引用符を用いることはできません。Oracle ユーザー名には、バックスラッシュ (\) やフォワードスラッシュ (/) を含むことはできません。

アクション

手順

1. ユーザー名やパスワードで上記の文字を使用すると、"Invalid character"エラーが表示され、サインインが拒否されます。

HPE Systems Insight Manager インストールの Java ベースデータベースのインストール中に、「データベース接続エラー」が表示される。

アクション

手順

1. ターゲットの Microsoft SQL Server サービス (MSSQL) が実行されていることを確認してください (マイコンピューター > 管理 > サービスとアプリケーション > サービス > MSSQLSERVER を選択)。

インストール中にシステムが再起動すると、インストールによってブラウザーが起動される。Internet Explorer に、ローカルホストとの接続を確立できなかったこと

を知らせるメッセージが表示される。ブラウザがサービスの開始以前に起動される。

アクション

手順

1. URL フィールドにカーソルを置いて *Enter* キーを押し、再度 URL にアクセスしてください。アプリケーションがブラウザにロードされるまで続けてください。

サーバーでディスクイメージソフトウェアを使用すると、グローバルユニーク識別子がすべてのシステムで同じになる。

解決方法 1

原因

ディスクイメージが取得されていない場合の操作

アクション

手順

1. いずれかのシステムから、すべての HPE Insight マネジメントエージェントをアンインストールします。
2. ディスクイメージソフトウェアを使用して、HPE Insight マネジメントエージェントをインストールしていないシステムから構成をコピーします。
3. ディスクイメージを使用して、ターゲットシステムにコピーします。
4. すべてのシステムに HPE Insight マネジメントエージェントを再インストールします。

解決方法 2

原因

すでにディスクイメージを配備した場合は、以下を実行して各ターゲットシステムからイメージを削除します。

アクション

手順

1. NetWare の場合 :

グローバルユニーク識別子情報は、NetWare サーバーの `sys:\system` サブディレクトリに 16 バイトのファイルとして保存されます。このファイルは、HPE Systems Insight Manager が NetWare サーバーに対して `SNMP SET` コマンドを実行すると作成されます。

グローバルユニーク識別子を永久に削除するには、NetWare SYS ボリュームから `\system` `\cpqbssa.cfg` ファイルを削除します。

ファイルを削除したら、HPE Insight マネジメントエージェントを再起動します。システムが検出されると、HPE Systems Insight Manager によって新しいグローバルユニーク識別子が割り当てられます。

2. Windows NT の場合 :

マネジメントエージェントが、Windows NT レジストリの項目にグローバルユニーク識別子情報を作成します。

グローバルユニーク識別子を永久に削除するには、エントリーを削除します。HKEY_LOCAL_MACHINE \SOFTWARE\Compaq Insight Agent\hostGUID 項目を削除したら、Insight マネジメントエージェントサービスを再起動します。新しいグローバルユニーク識別子が自動的に生成されます。

3. UnixWare の場合 :

グローバルユニーク識別子情報は HPE Systems Insight Manager が UnixWare サーバーに対して SNMP SET コマンドを実行すると作成されるファイルに保存されます。

グローバルユニーク識別子を永久に削除するには、UnixWare システムから次のファイルを削除します。

```
/var/spool/Compaq/foundation/registry/cpqhoguid.dat
```

このファイルを削除したら、マネジメントエージェントを再起動します。システムが検出されると、HPE Systems Insight Manager によって新しいグローバルユニーク識別子が割り当てられます。

HPE Systems Insight Manager のインストール後、デスクトップでセットアップされている CMS がサーバーとして表示される。

アクション

手順

1. システムで HPE SMH が見つかりと識別機能はシステムをサーバーとして識別します。WBEM の認証情報を使用して、CMS の識別をやり直してください。システムはデスクトップとして識別され、システムの正しい情報が表示されます。

コントロールパネルから HPE SIM スタンドアロンのアンインストールを試みると、残りの HPE Insight Management コンポーネントがアンインストールされず、エラー「HPIS utility application has stopped working」が表示される。

原因

このエラーは、統合 IS DVD インストーラーと一緒に HPE SIM をインストールしたか、または IS DVD がインストール済みのシステムに HPE SIM をインストールした場合に表示されます。

アクション

手順

1. この問題を解決するには、IS DVD のアンインストーラーを使用して HPE SIM と他のコンポーネントをアンインストールしてください。

エラー「Database installation fails with error code:-1035451685」が表示される。

原因

このエラーは、SQL のインストールの最後に SQL サービスが起動しないか、または他のアプリケーションが SQL サービスを使用している場合に表示されます。

アクション

手順

1. この問題を解決するには、Microsoft 社の Web サイト <http://support.microsoft.com/kb/920114> を参照してください。

IS DVD とスタンドアロン HPE SIM のインストールを試みると、HPE SIM のインストールが失敗し、「SQL Server 2008 Express SP2 installation failed with exit code: -2068578304」というエラーが表示される。

原因

データベース設定画面で入力した認証情報が正しくないとインストールが失敗します。

アクション

手順

1. この問題を解決するには、インストールが正常に実行されるように正しいログイン認証情報を入力してください。

SQL Server 2008 Express R2 で HPE SIM のインストールを試みると、HPE SIM のインストールが失敗し、次のエラーが表示される。「SQL 2008 Express R2 Installation failed with error code : -2067922940」

原因

この問題は、パフォーマンスカウンターレジストリハイブが壊れ、ローカライズされた perflib カウンターレジストリキーに含まれるデータが壊れている場合に発生します。

アクション

手順

1. コマンドプロンプトで `LODCTR/R` コマンドを入力して、カウンターを修理します。
2. レジストリエディターを開き、次のキーをエクスポートします。HKLM\Software\Microsoft\Windows NT\Current Version\Perflib\009

注記:

デフォルトのキーは 009（英語キー）です。

3. レジストリファイルをエクスポートします。
4. エクスポートしたレジストリファイルを編集し、値 009 を次の値で置き換えます。
 - 007 - ドイツ語
 - 00C - フランス語
 - 00A - スペイン語
5. 編集した.reg ファイルを保存します。
6. ファイル名をダブルクリックしてファイルをインポートします。
7. インストールを再開します。

エラーコード 3010 が生成されて HPE SIM のインストールが失敗し、依存コンポーネントのインストールが省略される。インストール全体のステータスは、インストールまたはアップグレードが警告付きで完了と表示される。

原因

このエラーは、SQL データベースサーバーを SQL Express 2008 Express x86 から SQL Server 2008 R2 SP2 Express x86 にアップグレードする際に発生します。

アクション

手順

1. この問題を解決するには、インストーラーのウィンドウを閉じて、システムを再起動し、HPE SIM のインストールを再開します。詳しくは、次の Web サイト <http://support.microsoft.com/?kbid=2008982> を参照してください。

サービスユーザーの名前の最後が「\$」で終わっていると、Windows のインストール中に、サービス認証情報画面でインストールがブロックされる。

アクション

手順

1. サービスユーザーの名前の最後が「\$」記号で終わっていると、次のエラーが生成され、サービス認証情報画面でインストールがブロックされます。
指定されたサービスアカウントには管理者権限がありません。
サービスユーザー名の最後の文字に「\$」記号を使わないでください。

サインイン

クラスターシステムで、シングルサインオンが失敗する。

原因

シングルサインオンは、仮想クラスターシステムに対して動作しません。クラスターを構成する物理システムで動作します。

プロキシサーバーを使用すると、ユーザー用に設定された IP アドレスログイン制限を不注意か故意にバイパスする場合があります。

原因

プロキシサーバーを使用すると、プロキシサーバーの IP アドレスが IP 除外範囲に含まれていない場合、ログイン IP アドレスの制限ページの特定の IP 除外をバイパスできる場合があります。同様に、有効なプロキシサーバーが IP 除外範囲に含まれていると、有効なユーザーがそのプロキシサーバー経由でサインインできない場合があります。

有効なプロキシサーバーが有効な適用範囲にあることを確認し、含まれる範囲をできるだけ小さくしてください。含まれる IP 範囲を使用すると、そこに指定されていないすべてのアドレスが除外されるので、IP 除外範囲を使用するより含まれる IP 範囲を使用した方が効率的です。

Internet Explorer 8.0 を使用して、HPE Systems Insight Manager にサインインできない。

アクション

手順

- HPE Systems Insight Manager サーバーの名前にアンダースコアが入っている場合は、Internet Explorer のアドレスフィールドに入っている名前の代わりに、HPE Systems Insight Manager サーバーの IP アドレスを使用してください。システム名にアンダースコアが入っていると、Internet Explorer で認証 Cookie が正常に動作しません。

Internet Explorer 8.0 を使用して HPE Systems Insight Manager にサインインできない。また、Internet Explorer 8.0 を使用して HPE Systems Insight Manager からブラウズして管理対象システムにサインインできない。

解決方法 1

原因

システム名にアンダースコアが入っていると、Internet Explorer で認証 Cookie が正常に動作しません。

システムの名前にアンダースコアが入っている場合は、システムの IP アドレスを使用してください。

- HPE Systems Insight Manager にアクセスしてサインインします。
- **オプション > セキュリティ > システムリンクの設定**を選択します。システムリンク設定ページが表示されます。
- **システムの IP アドレスを使用**を選択します。
- **OK** をクリックします。

注記:

名前の代わりに IP アドレスを使用すると、管理対象システム証明書の名前がリンク内の名前と一致しない場合、セキュリティアラートが表示される場合があります。管理対象システムのデフォルト証明書では、IP アドレスでなく、システム名が使用されています。

原因

管理対象システムでは、Internet Explorer 6.0 のプライバシーポリシー設定によって、管理対象システムからの認証 Cookie がブロックされます。

アクション

手順

1. (推奨) インターネットゾーンからシステムを削除します。プライバシーポリシーは、ブラウザーのインターネットゾーンにあるシステムだけに影響するので、インターネットゾーンからシステムを削除すると、プライバシーポリシーがそのシステムに影響しなくなります。ブラウザーのプライバシーポリシー設定を変更するには、Internet Explorer ブラウザーのメニューで、**ツール > インターネットオプション**の順に選択し、**プライバシー**タブをクリックします。次のいずれかの方法でプライバシー設定を変更します。
 - 名前の代わりに IP アドレスでシステムにアクセスすると、ブラウザーが、それらのシステムがインターネットゾーンにあるとみなす場合があります。代わりに、名前でアクセスしてください。HPE Systems Insight Manager を設定して、**オプション > セキュリティ > システムリンクの設定**の順に選択

してシステム名を使用を選択することでシステムへのリンクを作成する際に、システム名を使用できません。

- プロキシサーバーを使用するようにブラウザが設定されている場合、特定のシステムがプロキシサーバーをバイパスするようにブラウザを設定できます。これによって、ブラウザのインターネットゾーンからそのシステムが削除されます。ブラウザのメニューから**ツール > インターネットオプション**を選択し、**接続タブ**をクリックします。LAN の設定をクリックし、プロキシサーバーを使用する場合、**詳細設定**をクリックします。例外リストで、プロキシサーバーをバイパスするアドレスのリストを指定できます。このアドレスは、インターネットゾーンに存在しなくなり、プライバシー設定ポリシーに影響されません。
 - a. ブラウザーのメニューから**ツール > インターネットオプション**を選択します。
 - b. **接続タブ**をクリックします。
 - c. LAN の設定をクリックします。
 - d. **詳細設定**をクリックします。
 - e. 例外リストに CMS のアドレスを入力して、OK をクリックします。

注記:

管理対象システムのアドレスも追加しなければならない場合があります。同じドメインの複数のシステムを入力する場合は、ワイルドカードを使用できます。次に例を示します。https://*.scr.mt.com

例外リストのアドレスは、インターネットゾーンに存在しなくなり、プライバシー設定ポリシーに影響されません。

-
- f. ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定ウィンドウを閉じるには、OK をクリックします。
 - g. **セキュリティタブ**をクリックします。
 - h. **イントラネットアイコン**をクリックして、**サイトボタン**をクリックします。
 - i. ほかのゾーンにないローカル (イントラネット) のサイトをすべて含めるオプションとプロキシサーバーを使用しないサイトをすべて含めるが有効になっていることを確認します。
 - j. 両方のウィンドウを閉じるには、OK を 2 回クリックします。

解決方法 2

アクション

手順

1. (非推奨) ブラウザーのプライバシーセキュリティポリシー設定を変更してください。Internet Explorer ブラウザーのメニューから**ツール > インターネットオプション**を選択し、**プライバシータブ**をクリックします。プライバシー設定は、次のいずれかの方法で変更できます。
 - スライダーバーを一番下まで移動して、プライバシー設定をすべての Cookie を受け入れるに設定します。この設定により、ブラウザは、ファーストパーティのサイトとサードパーティのサイトのすべての Cookie を受け入れることができます。HPE Systems Insight Manager にアクセスしたり、管理対象システムに直接アクセスしたりするときは、ファーストパーティのサイトとみなされます。HPE Systems Insight Manager 経由で管理対象システムへ移動するときは、サードパーティのサイトとみなされます。
 - **詳細設定**をクリックし、**自動 Cookie 処理を上書きするを有効にして、Cookie 処理をカスタマイズ**します。次に、ファーストパーティの Cookie とサードパーティの Cookie について、**適当なラジオボタン (受け入れるまたはダイアログを表示する)**を選択します。ダイアログを表示するを選択すると、Cookie を受信するたびに Cookie を処理する方法に関するプロンプトが表示されます。各回または毎回

Cookie をブロックするか、許可するかを選択できます。Web エージェントはセッション Cookie を使用しないので、常にセッション Cookie を許可するを有効にしても問題は解決されません。

- システムごとに Cookie の処理を個別に指定します。Web サイトセクションにある編集をクリックし、指定したフィールドにシステムのアドレスを追加します。許可をクリックして、常にそのシステムへの Cookie を許可します。すべてのシステムについて、これを繰り返します。

新しいブラウザウィンドウを開くリンクを選択するために別のサインインが必要になる。

アクション

手順

- Windows エクスプローラの中から Internet Explorer リンクを使用してアクセスしている場合、代わりに別のプロセスとして Internet Explorer を開始する必要があります。Windows のスタートメニューから選択するか、デスクトップアイコンを使用して、Internet Explorer を起動します。

HPE Systems Insight Manager へのサインイン中に、例外 org.apache.jasper.JasperException が発生する。

原因

アクション

手順

- work ディレクトリのすべてのファイルを削除し、再度サインインします。
 - HP-UX および Linux の場合 : /opt/mx/jboss/server/hpsim/work
 - Windows の場合 : \jboss\server\hpsim\work

信頼済みシステムにアクセスしているのに、サインイン認証情報を求められる。

アクション

手順

1. HPE Systems Insight Manager と管理対象システムの間で、有効な信頼関係が設定されていることを確認してください。
2. 目的のシステムで適切なツールの権限があることを確認してください。System Management Homepage へのシングルサインオンを有効にするツールには、次のツールがあります。
 - HPE SMH (管理者として)
 - HPE SMH (オペレーターとして)
 - HPE SMH (ユーザーとして)
 - エージェント設定のレプリケート
 - ソフトウェアおよびファームウェアのインストール
3. Onboard Administrator へのシングルサインオンの場合は、次のツールがあります。
 - Onboard Administrator (管理者として)
 - Onboard Administrator (オペレーターとして)
 - Onboard Administrator (ユーザーとして)
4. HPE P6000 Command View ソフトウェアへのシングルサインオンの場合は、次のツールがあります。

- P6000 Command View (管理者として)
- P6000 Command View (オペレーターとして)
- P6000 Command View (ユーザーとして)

信頼済み P6000 Command View システムにアクセスしているのに、サインイン認証情報を求められる。

アクション

手順

1. P6000 Command View ソフトウェアがシングルサインオンについて HPE Systems Insight Manager を信頼するように設定されている場合、HPE Systems Insight Manager が CMS 上で解決されていないホスト名を使用して Command View ソフトウェアへのアクセスを試みている可能性があります。Command View リンクから、または Command View サインインページのブラウザのアドレスバーから、Command View にアクセスするために使用された URL を調べて、使われているホスト名を確認します。名前を解決でき、CMS からアクセスできることを確認します。CMS 上でネットワークまたはネームサービス設定を再指定する必要がある場合があります。

HPE Systems Insight Manager のインストール後、Windows の管理者パスワードを変更すると、HPE Systems Insight Manager にサインインできなくなる。

症状

SQL Server をローカルインストールしている場合、SQL Server が動作していることを確認してください。SQL Server サービスが動作していない場合は、ログイン証明書を確認してください。サービスログイン証明書が変更されたことが原因になっている可能性があります。HPE Systems Insight Manager サービスは、インストール時に使用された証明書のもとで動作するように登録されています。

アクション

手順

1. サービスログイン証明書の変更
 1. 以下の手順で、MSSQLSERVER サービスのパスワードを変更します。
 - a. Windows で、サービスを開きます (マイコンピュター > 管理 > サービスとアプリケーション > サービスを選択)。
 - b. MSSQLSERVER サービス (SQL2005 の場合 SQLserver サービス) をクリックして、プロパティを選択します。
 - c. ログオンタブを選択して、パスワードを変更します。
 - d. MSSQLSERVER (または、SQLserver) サービスを再起動します。
 2. 以下の手順で、HPE Systems Insight Manager サービスのパスワードを変更します。
 - a. Windows で、サービスを開きます (マイコンピュター > 管理 > サービスとアプリケーション > サービスを選択)。
 - b. HPE Systems Insight Manager サービスをクリックして、プロパティを選択します。
 - c. ログオンタブを選択して、パスワードを変更します。
 - d. HPE Systems Insight Manager サービスを再び開始します。

ダイヤルアップ接続からのサインインに時間がかかる。

アクション

手順

- たとえば、モデムの速度が遅い、接続するサーバーが最高の効率で動作していない、または電話回線のステータスが悪いことなどです。

HPE Systems Insight Manager にサインインできない。

アクション

手順

- この問題は、以下のいずれかの理由により発生します。
- IP アドレス制限フィールド（新規ユーザーグループ、ユーザーの編集、新規ユーザー、またはユーザーグループの編集ページ）が設定されている場合、CMS のすべての IP アドレスが含まれていることを確認してください。localhost にアクセスする場合は、ループバックアドレス 127.0.0.1 も含まれていることを確認してください。
- 情報が正しく入力されていません。パスワードでは大文字と小文字が区別されます。
- 入力したアカウントは、HPE Systems Insight Manager の有効なアカウントではありません。
- 入力したアカウントの削除、無効化、またはロックアウトが行われています。
- アカウントのパスワードを変更する必要があります。
- 指定されたアカウントに有効でない IP アドレスからサインインしようとした。
- ブラウザーで Cookie が有効になっていないか、または Cookie ブロッカーを使用しています。

Windows HPE Systems Insight Manager にサインインできない。

アクション

手順

- ドメインアカウントではなく、CMS で作成した Windows ユーザーアカウントでサインインするとき、CMS ホスト名が 15 文字を超えているのであれば、ドメインフィールドには CMS 名の最初の 15 文字を入力してください。たとえば、Windows CMS の名前が「SIMwin2003withsp2」で、ローカルアカウントが「bob」の場合、ユーザー名=「bob」、ドメイン=「SIMwin2003withs」でサインインしてください。新しく作成されたローカルユーザーアカウントは、ドメイン名フィールドに入力される、システム名の最初の 15 文字のみを使用して作成されたもので、その名前を使ってサインインするのではありません。

パスワード

HPE Systems Insight Manager にサインインできない。

原因

HPE Systems Insight Manager サービスが実行されていることを確認します。

アクション

手順

1. HPE Systems Insight Manager サービスが動作しているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

マイコンピュータ > 管理 > サービスとアプリケーション > サービス > HPE Insight Control の順に移動します。

次の手順を実行して、HPE Systems Insight Manager サービスを起動します。

マイコンピュータ > 管理 > サービスとアプリケーション > サービスの順に移動し、HPE Insight Control サービスを右クリックして開始を選択します。ログインの失敗を示すメッセージが表示されたら、サービスアカウントのパスワードを変更する必要があります。

サービスアカウントパスワードの変更

- a. **マイコンピュータ > 管理 > サービスとアプリケーション > サービス**の順に移動し、HPE Insight Control を右クリックしてプロパティを選択します（または、HPE Systems Insight Manager サービス名をダブルクリックします）。
- b. ログオンタブを選択します。
- c. アカウントセクションで、パスワードを更新します。
- d. OK をクリックします。パスワードが保存されます。

HPE Systems Insight Manager Windows サービスが使用するサービスアカウントのパスワードが変わっている。変更するには、どうすればよいか。

アクション

手順

1. HPE Systems Insight Manager を停止します。
2. コントロールパネルのサービスにアクセスし、サービス証明書を編集して、HPE Systems Insight Manager サービスの新しいパスワードを指定します。
3. `mxpassword -g` を実行し、次のパスワードを新しいアカウントパスワードに変更します。

MxDBUserPassword
MxPMPPassword

4. HPE Systems Insight Manager を再起動してください。

HPE Systems Insight Manager Windows サービスが使用するデータベースアカウントのパスワードが変わっている。変更するには、どうすればよいか。

アクション

手順

1. HPE Systems Insight Manager を停止します。
2. `mxpassword -g` を実行し、次のパスワードを新しいアカウントパスワードに変更します。

MxDBUserPassword
MxPMPPassword

3. HPE Systems Insight Manager を再起動してください。

SQL 2008 R2 のインストールが失敗してエラーコード "2068578304" が表示される。

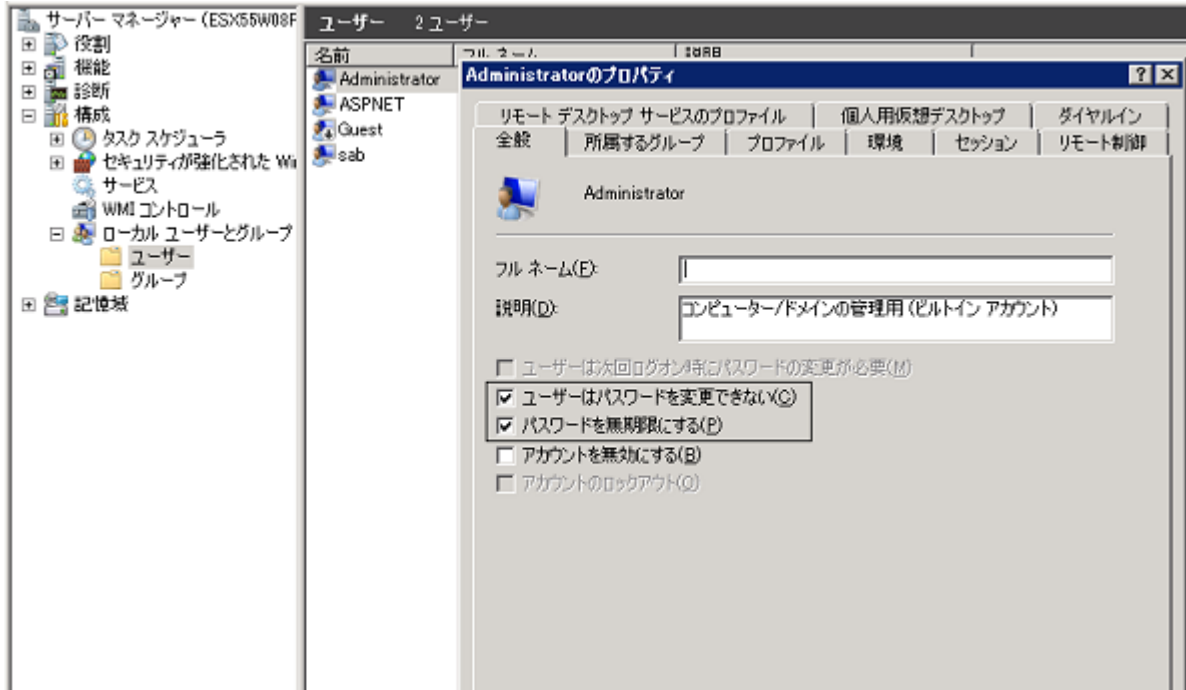
アクション

手順

1. Windows に対して記録したパスワードの期限が切れていないかを確認します。パスワードが無効の場合は、変更して、SQL のインストールを続行します。

HPE SIM がインストールされている CMS のパスワードについては、次の 2 つのオプションを選択する必要があります。そうしないと、データベースのインストールが失敗します。

1. ユーザーはパスワードを変更できない
2. パスワードを無期限にする



移行ログ

移行ログを見つけることができない。

症状

デフォルトでは、移行に対するログのデバッグは無効です。ログのデバッグを有効にするには、[HPSIM] \config\debugsettings\migration.props ファイルを開き、GlobalEnable プロパティの値を true に設定し、詳細なログを記録するためにログレベルを 20 以上に設定します。このプロパティファイルは、エクスポートまたはインポート操作の最初の実行時に作成されます。

アクション

手順

- デバッグログファイルは[HPSIM]\logs with name migration_log4j.log の下に作成されます。バックアップログファイルは、migration_log4j_backup.log という名前で作成されます。

用語集

BladeSystem	BladeSystem は、Windows、HP-UX、および Linux のクラウドシステムを HPE Systems Insight Manager から管理できるようにする HPE Systems Insight Manager プラグイン。BladeSystem は、ブレードコンピューターシステム、データおよびストレージネットワークへの統合接続、ならびに共有電源サブシステムで構成されます。BladeSystem を使用すると、ユーザーは、ご使用の HPE ブレード環境（サーバーブレード/デスクトップ、エンクロージャーインフラストラクチャ、ラック、統合スイッチなど）を階層型ツリービューによって素早く操作することができます。これにより、個々のブレードシステムまたはブレードシステムグループを簡単に設定し、展開し、管理することができます。
component	インストール（対話式またはサイレントインストール）可能な単一の自己記述バイナリファイルで、ファームウェアイメージ、ドライバ、エージェント、ユーティリティなど、マネジメントツールやアップデートツールでサポートされるソフトウェアを含む。
CPU ポーリング率	監視対象システム上で HPE Insight マネジメントエージェントがレポートする CPU の利用率を、クラスター監視 CPU リソースがチェックする頻度のこと。
Desktop Management Interface	Desktop Management Task Force（DMTF）によって確立された、主にクライアント管理で 사용되는業界標準プロトコル。DMI は、クライアントシステムについての問題レポートを効率的な方法で提供する。DMI 準拠のコンピューターは、ネットワーク上の中央管理システムにステータス情報を送信できる。
Desktop Management Task Force	業界の WBEM 標準を定義する業界標準組織。Hewlett Packard Enterprise は DMTF の積極的なスポンサーおよびメンバーである。
Email 通知	HPE Systems Insight Manager の通知タスクの 1 つ。Email で通知を送信する。
enclosure	1 組のサーバーブレードを収納する物理的なコンテナ。エンクロージャーは、電源と信号を供給するバックプレーンと配線や温度センサー用のその他のハードウェアから構成される。CPU の電源装置やサーバーの電源もホストする。
hosts ファイル	UNIX、Linux、または Windows の hosts ファイルフォーマットに従うファイル。このファイルでは、IP アドレスの後に名前と各システムが個別の行でリストされる。このファイルは、複数のシステムを HPE Systems Insight Manager データベースに手動で追加するための検出で使用される。
HP Insight Vulnerability and Patch Manager ソフトウェア	HPE Systems Insight Manager に統合される、必要な機能をすべて備えた脆弱性評価およびパッチ管理ツール。サーバーの可用性に影響を及ぼす可能性のある問題の予防的識別と解決を簡素化して、中央の単一コンソールに統合。
HPE Insight Control	Hewlett Packard Enterprise のシステム、クラスター、デスクトップ、ワークステーション、ポータブルなど、さまざまなシステムを管理できるシステムマネジメントソフトウェアである。 HPE Systems Insight Manager は、Insight マネージャー 7、HPE Toptools、HPE Servicecontrol マネージャーの長所を組み合わせることにより、Windows、Linux、HP-UX を実行している HPE ProLiant システム、Integrity システム、HPE 9000 システムを管理する、統一されたツールとして使用できる。HPE Systems Insight Manager ソフトウェアの中核部分では、すべての Hewlett Packard Enterprise 製サーバープラットフォームの管理に不可欠な機能が提供されます。また、HPE

Systems Insight Manager は、Hewlett Packard Enterprise 製ストレージ、電源、クライアント、およびプリンター製品用のプラグインにより広範囲なシステム管理を提供するように拡張することもできます。また、迅速なマシンの展開、パフォーマンス管理、ワークロード管理のプラグインにより、ハードウェア資産の完全なライフサイクルの管理機能の提供に必要な付加価値ソフトウェアを選択できる。

HPE Insight Control 仮想マシン管理

Microsoft Virtual サーバー、ならびに VMware の GSX および ESX で、仮想マシンを 1 個所で集中的に管理および制御する。virt は、HPE Systems Insight Manager に統合されることにより、HPE ProLiant ホストサーバーと仮想マシンを統一的に管理できる。

HPE Insight Control サーバー配備

HPE Insight Control サーバー配備は、マルチサーバー展開ツールである。このツールを使用すると、IT 管理者は、無人化（自動化）された方法で多数のサーバーを簡単に展開できる。サーバー配備は、HPE SIM とは別にインストールされる。管理されるサーバーごとに 1 つずつライセンスが必要である。サーバー配備をインストールする前に、サーバー配備製品を登録して、ライセンスを購入するか 10 ノード 30 日間ライセンスを入手する必要がある（10 ノード 7 日間試用ライセンスはソフトウェアに付属している）。サーバー配備は、独自の DVD からインストールされる。試用ライセンスの入手または製品登録のためのリンクなど、サーバー配備については、<http://www.hpe.com/jp/servers/rdp> を参照。ネットワーク環境のセットアップ、サーバー配備の要件、およびインストール手順の詳細については、サーバー配備のドキュメントを参照。

HPE Insight Control サーバープロビジョニング

HPE Insight Control には HPE Insight Control サーバープロビジョニングの権限が含まれる。この権限は、HPE Insight Control サーバー配備の代わりに使用できる新しい機能。HPE Insight Control サーバープロビジョニングは、ベアメタル ProLiant および BladeSystem サーバーへのオペレーティングシステムの複数サーバープロビジョニングを実行します。HPE Insight Control サーバープロビジョニングのインストール手順書は、<http://www.hpe.com/info/insightupdates> からダウンロードできます。

IC サーバー配備は、DVD で引き続き入手でき、アップグレードの目的で使用できる。ただし、IC サーバー配備ソフトウェアのライセンスは、HPE Insight Control 製品には含まれなくなる。新しい IC サーバー配備ライセンスが必要な HPE Insight Control のお客様は、スタンドアロンの HPE Insight Control サーバー配備ライセンスを購入する必要がある。

HPE Insight Control データベース

ユーザー、システム、ツールボックスなど、HPE Systems Insight Manager に関する重要な情報を保存するデータベース。

HPE Insight Control 電力管理

サーバーの消費電力や熱出力をデータセンターレベルで集中管理できる統合電力監視/管理アプリケーション。このアプリケーションにより、ProLiant サーバーに必要な総電力および冷却機能を制御できるようになり、データセンターの能力を拡張できる。ProLiant パワーレギュレーターテクノロジーに基づくこのアプリケーションは、新しいサーバーエネルギー計測手段を HPE Systems Insight Manager に付与して、優れた統合インフラストラクチャ管理を実現する。

HPE Insight Control パフォーマンス管理

HPE ProLiant サーバーのハードウェア障害の検出、分析、説明を行うソフトウェアソリューション。HPE Insight Control パフォーマンス管理ツールは、オンライン分析、オフライン分析、CSV ファイル生成レポート、システム概要レポート、ステータス分析レポート、設定、ライセンス、手動ログ削除から構成される。

HPE Insight Remote Support

HPE Insight Remote Support は、データセンター環境内の Hewlett Packard Enterprise がサポートするサーバーおよびストレージデバイスの可用性向上に役立つ、予防的なりモート監視、診断、およびトラブルシューティング機能を提供する。HPE Insight Remote Support により、システムやデバイスのサポートにかかる

	コストが削減され、複雑さが解消される。HPE Insight Remote Support は、イベントの情報をお客様のファイアウォールや Web プロキシ経由で安全に Hewlett Packard Enterprise サポートセンターに伝えて対応を要求する。また、サポート契約に基づいてシステム情報を収集し、予防的な分析とサービスを提供する。
HPE Insight マネジメントエージェント	ユーザーの介在なしに、情報を定期的に収集したり、その他のサービスを実行したりするプログラム。
HPE VCA ログ	バージョンコントロールエージェントによって実行されたすべてのソフトウェアメンテナンスタスクの一覧、およびこれらのタスクの実行結果のレポート。
HyperText Transfer Protocol	ワールドワイドウェブで使用される、基礎となるプロトコル。
IP 範囲	指定された範囲に含まれる IP アドレスを持つシステム。
Java データベース接続性	ODBC (Open DataBase Connectivity) と同様に、アプリケーションプログラムインターフェイス (API) のこのセットは Java アプレットのデータベースアクセスを可能にする標準メカニズムを提供する。
Java リモートメソッド呼び出し	Java オブジェクトが、別の Java オブジェクトとリモートでやり取りできるようにするプロトコルセット。
Matrix Operating Environment	HP-UX、Linux、および Windows サーバー用の統合サーバー仮想化製品で、サーバーリソースの利用率を最適化する柔軟なコンピューティング環境を提供する。Matrix Operating Environment は、動的にサイズを変更できる仮想サーバーのプールによって構成される。各仮想サーバーは、サービスレベル目標やビジネス優先度に応じて拡張または縮小される。詳しくは、 http://www.hpe.com/info/matrixoe/docs を参照してください。
Microsoft クラスタサービスステータスページ	Microsoft Cluster Server による定義に従い、クラスタのステータスをまとめたページ。MSCS が定義するクラスタ属性のステータスと値のリストを含む。クラスタ監視は、色を使用して MSCS ステータス値 (正常、劣化、障害、その他) を基にステータスを表示する。
Onboard Administrator	c-Class エンクロージャー全体を制御するための集中管理ポイント。ラック全体のコンフィギュレーション、電源、および管理制御を提供し、関連するブレード (Compute Servers)、ブレード管理プロセッサ、(iLO)、ネットワークスイッチ (使用しているスイッチのモデルによって異なります)、およびストレージコンポーネント (SAN または SATA など) を提供する。Onboard Administrator は、単一の管理プロセッサで、フェイルオーバー用にオプションのバックアップツインプロセッサとの共有リソースを持つ。
Open Service Event Manager	Insight マネジメントエージェントが動作している、サポートされているシステム (ProLiant および Integrity) の問題のレポートを収集し、フィルタリングし、送信することができる。さらに、システムで問題が検出されると、Open Service Event Manager は HPE Systems Insight Manager にサービスイベント通知を自動的に送信する。
OpenSSH	SSH を使用して、コンピューターネットワーク経由で暗号化通信セッションを実現するネットワーク接続ツールのセット。SSH Communications Security が独自に提供する SSH ソフトウェアスイートに代わるオープンソースとして作成された。
ProLiant Essentials ライセンスキー	Hewlett Packard Enterprise がお客様に与える契約上の許可であり、ライセンスの特定のインスタンスを示すライセンスコードの形式で具体化される。1つのライセンスは、1つのキーで表現されたり、キーの集合によって表現される。

ProLiant Support Pack	Hewlett Packard Enterprise によってバンドルされた Hewlett Packard Enterprise 製ソフトウェアコンポーネントのセット。特定のオペレーティングシステムで動作することが確認されている。ProLiant Support Pack には、ドライバーコンポーネント、エージェントコンポーネント、ならびにアプリケーションおよびユーティリティコンポーネントが含まれる。これらは、すべて一緒にインストールしても問題ないことが確認されている。
ProLiant および Integrity Support Pack	ProLiant および Integrity Support Pack は、Hewlett Packard Enterprise によってバンドルされた Hewlett Packard Enterprise 製ソフトウェアコンポーネントのセット。特定のオペレーティングシステムで動作することが確認されている。ProLiant および Integrity Support Pack には、ドライバーコンポーネント、エージェントコンポーネント、およびアプリケーションとユーティリティのコンポーネントが含まれている。これらは、すべて一緒にインストールしても問題ないことが確認されている。
Red Hat パッケージマネージャー	Red Hat パッケージマネージャーは、強力なパッケージマネージャーで、個々のソフトウェアパッケージをビルド、インストール、クエリ、確認、アップデート、およびアンインストールするために使用できる。パッケージは、ファイルのアーカイブと、名前、バージョン、および説明を含むパッケージ情報で構成される。
Resource Partition	OS インスタンスが所有するリソースのサブセット。これらのリソースの使用は、Fair-Share Scheduler、pSet、メモリリソースグループなどの技術によって制御される。 また、リソースパーティションに関連付けられる一連のプロセスがあり、これらのプロセスは、リソースパーティション内のリソースを排他的に使用できる。PRM (Process Resource Manager)、WLM (Workload Manager)、gWLM (Global Workload Manager) などのツールによって確立されるポリシーは、OS インスタンス内の一連のリソースパーティションへのリソースの割り当て方法を制御する。
role	ツールボックスを参照。
SAN	ストレージエリアネットワーク (SAN) は、データストレージデバイスに関連付けられたデータサーバーに接続するネットワーク (サブネットワーク)。ストレージエリアネットワークは、通常、演算リソース全体のネットワークの一部を構成する。
Secure HTTP	HTTP プロトコルの拡張機能であり、Web 上でデータを安全に送信できる。
Secure Sockets Layer	HTTP と TCP の間にあって、クライアントとサーバーの間でプライバシーやメッセージ整合性を提供する標準プロトコル層。一般に、SSL は、クライアントが正しいサーバーと通信していることを保証するサーバー認証に使用される。アプリケーションプロトコルに依存しない。
Service Advertising Protocol	ネットワークに接続されているサーバーのサービスとアドレスの識別に使用される NetWare のプロトコル。
Shared Resource Domain	システムリソースを共有するコンパートメント (すべて同タイプ) の収集。コンパートメントには、nPartition、仮想パーティション、プロセッサセット (pSet)、または Fair Share Scheduler (FSS) グループなどがある。nPartition を含むサーバーは、nPartition の要件が満たされていれば、SRD になる可能性がある。仮想パーティションに分割されたサーバーや nPartition は、その仮想パーティションコンパートメントの SRD になる可能性がある。同様に、pSet を含む、サーバー、nPartition、または仮想パーティションは、その pSet コンパートメントの SRD になる可能性がある。さらに、FSS グループを含む、サーバー、nPartition、または仮想

	パーティションは、その FSS グループコンパートメントの SRD になる可能性がある。
	nPartition を含むコンプレックスは、複数の SRD を保持する可能性がある。たとえば、コンプレックスが Par1 および Par2 という名前の nPartition に分割されている場合、Par1 のコンパートメントが仮想パーティションである可能性があり、Par2 のコンパートメントが pSet である可能性がある。
	各コンパートメントがワークロードを持つ。gWLM は、コンパートメントのリソース割り当てを調整してワークロードを管理する。
Short Message Service	簡潔なテキストメッセージをワイヤレス電話に直接送信する便利な方法。最大メッセージ長は 140 文字。
Simple Object Access Protocol	一元管理されていない分散環境で情報を交換するための軽量プロトコル。
SMI CIMOM	共通情報モデルオブジェクトマネージャーを参照。
SMI-S プロバイダー	ストレージ管理用に明確に定義されたインターフェイスを実装する業界標準 WBEM プロバイダー。HBA、スイッチ、テープライブラリ、およびストレージレイのメーカーは、それらのシステムを SMI-S プロバイダーと統合するか、SMI-S プロバイダーを個別のソフトウェアパッケージとして提供することができる。 Web Based Enterprise Management も参照。
SNMP 通信設定	SNMP 通信をサポートするシステムとの通信時に使用されるデフォルトの SNMP コミュニティ名。
SNMP トラップ	障害を通信するのに使用するシステムで、SNMP エージェントによって生成される非同期イベント。
SNMP を使用したシステム情報	SNMP MIB-2 規格に準拠するエージェント。
Software Distributor	HP-UX 管理ツールセットで、HP-UX オペレーティングシステムとレイヤードソフトウェアアプリケーションの配布と管理に使用される。
Storage Management Initiative Specification	SNIA (Storage Networking Industry Association) によって策定された標準管理インターフェイス。SMI-S によって、複数のベンダーのストレージデバイスを管理するための共通インターフェイスが提供され、管理が容易になる。SMI-S は、業界標準の共通情報モデルと Web-Based Enterprise Management 技術を使用する。
Survey ユーティリティ	ハードウェアとオペレーティングシステムの設定情報を収集および配信するエージェント（またはオンラインサービストール）。この情報は、サーバーがオンラインのときに収集される。
System Management Homepage	HPE の Web 対応システムマネジメントソフトウェアの Hewlett Packard Enterprise スイートによって使用される統合されたソフトウェア。HTTP および HTTPS 上の通信用。HPE の Web 対応システムマネジメントソフトウェアに機能とセキュリティを 1 つにまとめて提供する。
Tomcat	Web サーバーとして HPE Systems Insight Manager が使用する、Java サーブレット技術と Java サーバーページ技術のオープンソース実装。
type	標準システムタイプとしてシステムを識別するシステムの分類。システムタイプは、クライアント、クラスター、ハンドヘルド、プリンター、リモートアクセスデ

	<p>バイス、リピータ、ルーター、サーバー、スイッチ、不明、ワークステーション、およびその他がある。</p>
user	<p>HPE Systems Insight Manager に追加されている中央管理サーバーで有効なログインがあるネットワークユーザー。</p>
Version Control Agent。バージョンコントロールエージェント	<p>サーバーにインストールし、サーバーにインストールされている Hewlett Packard Enterprise 製ソフトウェアを確認するためのエージェント。バージョンコントロールレポジトリマネージャーをポイントするように HPE VCA を設定すると、バージョンを簡単に比較したり、レポジトリからソフトウェアを更新したりできるようになる。</p>
Version Control Repository Manager。バージョンコントロールレポジトリマネージャー	<p>ユーザー定義のレポジトリに保存されている Hewlett Packard Enterprise 製ソフトウェアを管理する Hewlett Packard Enterprise エージェント。</p>
WBEM Services	<p>HPE WBEM Services for HP-UX は、WBEM 標準と DMTF 標準を使用して HP-UX システムリソースを管理する Hewlett Packard Enterprise 製品。</p>
Web-Based Enterprise Management	<p>この業界イニシアチブは、システム、ネットワーク、ユーザー、およびアプリケーションを、複数のベンダー環境にまたがって管理できるようにする。WBEM は、システム管理を簡素化し、WBEM クライアントアプリケーションで読み出すことのできるソフトウェアデータとハードウェアデータへのアクセス性能を向上させる。</p>
Web-Based Enterprise Services	<p>システムのダウンタイムを防止または削減するためのツールスイート。</p>
Web 起動対応	<p>Web サーバーを使用して Web ブラウザーで起動するツールの実行タイプ。WLA ツールは、複数のシステムに対処するように設計できる。</p>
Windows Management Instrumentation	<p>ネットワーク内のシステムを管理および制御できるようにする、Windows オペレーティングシステム内の API。</p>
X Window システム	<p>プラットフォーム間ウィンドウシステムであり、クライアント/サーバーモデルを使用して、ネットワーク経由でサービスを配布する。これにより、リモートコンピューター上でアプリケーションやツールを実行できるようになる。</p>
XML ドキュメント	<p>XML で表現されたデータの集合。</p>
X クライアント	<p>X サーバー上に表示されるアプリケーションまたはツール。X クライアントは、X アプリケーションとも呼ばれる。</p>
X サーバー	<p>X クライアントの要求を受け入れて、それに基づいて動作するローカルアプリケーション。</p>
イベント	<p>管理環境に何か変更があった場合に、特定ユーザーに通知する情報。イベントは SNMP トラップから生成される。HPE Systems Insight Manager は、重要なイベントが発生すると、トラップを受信する。イベントは次のように定義される。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 警告: <p>このタイプのイベントは、問題に発展する可能性のある状態を示す。</p> • 情報:

このタイプのイベントに注意する必要はなく、これらは、便利な情報として提供される。

- **正常**

このイベントは問題ではない。

- **マイナー**

このタイプのイベントは、さらに深刻な問題に発展する可能性のある警告ステータスを示します。

- **メジャー**

このタイプのイベントは、差し迫った障害を表す。

- **クリティカル**

このタイプのイベントは、障害が発生しており、すぐに対処する必要があることを示す。

イベント概要

製品タイプごとにイベントを要約する表。

イベントを確認済みに変更

未確認から確認済みにイベントステータスを変更すること。

インストールされたバージョン

サーバーにインストールされている特定の Hewlett Packard Enterprise 製ソフトウェアコンポーネント。

インターネットプロトコル

ネットワーク上で送受信されるデータグラム（パケット）のフォーマットとアドレス指定スキーマを指定する。ほとんどのネットワークは、送信先と送信元の仮想接続を確立する TCP（Transmission Control Protocol）と、この IP を組み合わせている。

インフラストラクチャサービス

マルチティア Web アプリケーションなど、ビジネスアプリケーションを実行するように設計されたサービスで、インフラストラクチャリソースを実際に稼働するように構成したもの。「サービス」「サービスインスタンス」とも呼ばれる。

エージェント

ユーザーの介在なしに、情報を定期的に収集したり、その他のサービスを実行したりするプログラム。HPE Systems Insight Manager エージェントでは、ハードウェアとソフトウェアの詳細情報、およびサブシステムのステータスが、HPE Systems Insight Manager と多数のサードパーティ製管理アプリケーションに提供される。

「マネジメントエージェント」も参照

エージェント設定のレプリケート

Web ベースエージェント設定をシステムのグループにコピーするツール。

エージェントの設定および修復

SNMP 設定の認証情報や、HPE Systems Insight Manager とターゲットシステム間の信頼関係を修正できる HPE Systems Insight Manager の機能。7.1 以前のエージェントがインストールされているターゲットシステム上の Web エージェントパスワードを更新することもできる。

オペレーター権限があるユーザー

中央管理サーバーを設定する機能が制限されているユーザー。オペレーター権限があるユーザーには、すべてのレポートと自分自身のツールの作成、修正、削除を行う権限がある。

外部サイト

他社製アプリケーションの URL。

確認済みステータス

イベントが確認されたことを示すステータス状態。

カスタムツール

カスタムツールは、ユーザーが作成して中央管理サーバー上またはターゲットシステム上で実行できるツールである。例：

- **リモートツール**

選択したターゲットシステム上で実行されるツール。ファイルをターゲットシステムにコピーしたり、ターゲットシステム上で特定の X-Window アプリケーションを実行したりすることができる。ユーザーはこのツールのスケジュールを設定できる。

- **CMS ツール**

CMS で動作するツール。通常、スクリプトかバッチファイルで、環境変数を渡すことができる。このツールは、自動イベント処理を使用してイベントの受信時に実行されるように設定できる。ユーザーはこのツールのスケジュールを設定できる。

- **Web ページツール**

Web URL を起動するツール。URL は、CMS 上の別のブラウザウィンドウで起動する。このツールのスケジュールは設定できない。

監視ツールツールボックス	管理対象システムの状態を表示するツールが含まれるが、管理対象システムの状態を変更するツールが含まれないデフォルトツールボックス。
管理 LAN	システム管理に必要な通信専用の LAN。一般的に、帯域は中程度（10/100 BaseT）であり、アクセス制限によって安全になっている。
管理機器	システムで動作し、HTTP または SNMP プロトコルの管理情報を提供するエージェント。
管理サービス	自動検出、データ収集、システムとイベント情報の中央レポジトリ、イベント管理、基本通知、およびセキュアアクセスなどの機能のコアセット。この機能は、Hewlett Packard Enterprise、マネジメントソリューションパートナー、および HPE Systems Insight Manager ユーザーからのアドインによって使用される。
管理者	HPE Matrix Operating Environment インフラストラクチャオーケストレーションコンソールを介してユーザー、リソースプール、およびセルフサービスリクエストを管理するユーザー。
管理者権限があるユーザー	中央管理サーバーを含むすべてのシステムですべてのツールツールボックスを使用する権限を持つユーザー。このタイプのユーザーには、HPE Systems Insight Manager ソフトウェアを管理する、特別な権限が与えられる。
管理情報ベース	SNMP/SNMP v3 プロトコルを使用して情報を送信するためのデータ仕様。HPE MIB は、ネットワーク管理プロトコルによってアクセスされる管理対象オブジェクトのデータベースでもあります。
管理スコープ	HPE Systems Insight Manager が管理する、検出されたすべてのシステムのセット内にあるシステムセット。
管理対象システム	サーバー、デスクトップ、ストレージシステム、リモート Insight ボード（RIB）など、HPE Systems Insight Manager によって管理されるシステム。
管理タスク	システムまたはイベントの検索を設定する手続き。
管理ドメイン	管理対象システムと呼ばれるリソースの集合であり、HPE Systems Insight Manager の制御下に置かれる。それぞれの中央管理サーバーが、管理ドメインを制御する。管理対象システムは、複数の管理ドメインに属することができる。
管理プロトコル	検出されたシステムとの通信を確立する WBEM、HTTP、または SNMP/SNMPv3 などのようなプロトコルのセット。

キーストア	キーのリストを保管するデータベース。キーストアには、自分のプライベートキーを入れることができる。また、証明書に公開されているパブリックキーのリストを入れることもできる。
共通情報モデル	Desktop Management Task Force (DMTF) によって定義されたオブジェクト指向スキーマ。CIM は、エンタープライズワイドで管理情報を説明および共有する情報モデルガイドである。CIM は、使用される管理環境単位で拡張できるように設計されている。
共通情報モデルオブジェクトマネージャー	CIMOM は、Web-Based Enterprise Management (WBEM) プロバイダーと管理アプリケーション (HPE Systems Insight Manager など) の間の通信のインターフェイスとして機能する。SMI-S プロバイダー用のインターフェイスを提供する CIMOM は、SMI CIMOM と呼ばれることがある。
クライアント	Hewlett Packard Enterprise のデスクトップシステム、ポータブルシステム、およびワークステーションシステム。
クラスター	独立した多くのシステムで構成され、1つの統一コンピューティングリソースを形成するパラレルまたは分散コンピューティングシステム。機能、複雑さ、そして目的に応じて、クラスターの最適な構成は異なる。
クラスター IP アドレス	クラスターの IP アドレス。
クラスター監視	HPE Systems Insight Manager の中心的なコンポーネント。クラスター監視では、マルチノードクラスターの監視と管理ができる。また、クラスター監視は、異機種環境で複数のクラスタープラットフォームを管理する。
クラスター監視リソース	クラスター内でクラスター化されたノードの監視または管理機能を提供するプログラム。
クラスターシステム識別	クラスターシステムに関する情報。この情報はデータベースに格納される。
グラフィカルユーザーインターフェイス	コンピューターのグラフィック機能を利用して、プログラムを簡単に使用できるようにするプログラムインターフェイス。HPE Systems Insight Manager の GUI は、Web ブラウザー内で動作する。
クリティカルステータス	HPE Systems Insight Manager が管理対象システムとやり取りできないときに生成される状態。
警告	特定イベントが発生したとき、HPE Systems Insight Manager のシステムステータスパネルに表示される、ユーザーが設定可能な通知。たとえば、監視されている項目が変更された場合、警告はユーザーに変更が発生したことを通知する。 トラップ、イベントも参照。
権限	ユーザー、ツールボックス、システム、システムグループ間の関係のマップ。
検索条件	要求されている情報のサブセットを HPE Systems Insight Manager データベースから定義するために使用される変数 (情報) のセット。
検出	ネットワークオブジェクトを検索および識別する管理アプリケーションの機能。Hewlett Packard Enterprise の管理アプリケーションでは、検出により、指定したネットワーク範囲にあるすべての Hewlett Packard Enterprise 製システムが検索および識別されます。

検出テンプレート	検出テンプレートは、自動検出によって使用されるファイルであり、自動検出-一般設定ページの包括範囲を ping フィールドや除外範囲フィールドにアドレスを直接入力する代わりとなる。また、自動検出の範囲を迅速に変更するための方法として設計されている。
検出フィルター	ユーザーが、特定システムタイプのデータベースへの追加を許可したり禁止したりできるようにする。
構成情報収集	システムやイベントのグループを作成するための方法。
コマンドラインインターフェイス	sh、csh、ksh などのコマンドシェルや Microsoft Windows CMD シェルから実行できるテキストベースのアプリケーション。
コンプレックス	複数のハードウェアパーティションがサポートされているコンピューターシステムは、コンプレックスと呼ばれている。たとえば、HPE Integrity Superdome システムでは、単一コンプレックス内で、複数のハードウェアパーティションがサポートされる。
サーバーブレード	一般的に、電源装置、ファン、スイッチ、およびその他のコンポーネントを他のサーバーブレードと共有するために、ラックマウント可能なエンクロージャーに簡単に挿入できる、マイクロプロセッサ、メモリ、およびネットワーク接続を含む高密度なサーバーシステムである。サーバーブレードは、コスト効率が高さ、デプロイの高速性、および拡張に対する適応度において優れており、これまでのラックマウントやタワー型のサーバーとは異なる。 エンクロージャーも参照。
サーバーブレードの図による位置の特定	各エンクロージャーおよびラック内の、ProLiant BL e-Class、p-Class、および c-Class サーバーを視覚的に表示する機能。 エンクロージャーも参照。
作業領域	ツールが表示される GUI の一部分。
サブネット	TCP/IP ネットワークで、IP アドレスのプレフィックスが同じシステムの集まり。たとえば、10.10.10. で始まる IP アドレスを持つすべてのシステムが、同じサブネットに含まれる。
しきい値	その値に達したり、値を超えたりしたときにイベントを生成するあらかじめ設定された制限値。
識別	検出ではシステムが探し出されるが、識別ではシステムタイプの判別が試みられる。さらに、グローバルプロトコルの設定ページの認証情報を使用して、システムがサポートする管理プロトコルが特定され、ロードされているオペレーティングシステムの種類やバージョンと、システムに関するその他の基本的な属性の取得も試みられる。識別は、最後に、システムが別のシステムと関連付けられているかどうかを確認する。たとえば、サーバー内の管理プロセッサ。
自己署名の証明書	記載者と認証機関が同じであるなど、認証機関を証明する証明書。 証明書、認証機関も参照。
システム	TCP/IP を介して通信するネットワーク上のノード。システムを管理するには、あるタイプの管理プロトコル (SNMP、WBEM など) がシステムに存在する必要がある。システムの例としては、サーバー、ワークステーション、デスクトップ、ハンドヘルド、ルーター、スイッチ、ハブ、およびゲートウェイがある。

システム概要レポート	HPE Systems Insight Manager を初めて起動したときに取得されるシステムのステータスを示すレポート。システム検索結果には、HPE Systems Insight Manager データベースに登録されているシステム数が含まれる。システムは、それらのステータス条件によってグループ化されている。列の各番号はシステムの詳細情報リストへのハイパーリンクで、概要における番号に対応したシステムを表示する。
システムグループ	システム収集（システムグループが作成された時点でのソース収集の静的なスナップショット）に基づくシステムグループ。ユーザー認証に使用する。
システム検索	HPE Systems Insight Manager データベース内の情報に基づいてシステムを論理グループに分類すること。検索を定義すると、システムビューページに結果を表示し、管理タスクに関連付けることができる。
システム検索結果	システム検索の結果。
システム識別	システムに関する情報を識別すること。この情報はデータベースに格納される。以下の情報が識別される。 <ul style="list-style-type: none"> • システムの管理プロトコルタイプ（SNMP/SNMP v3、WBEM、HTTP、および SSH） • Hewlett Packard Enterprise システムタイプ（サーバー、クライアント、スイッチ、ルーターなど） • システムのネットワーク名
システム情報	システムタブのシステムページで提供される情報。システム情報は、以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> • ネットワークアドレス • ネットワーク名 • 説明 • 連絡先 • 位置 • システムリンク
システムステータスパネル	画面の左側にある GUI セクションで、ステータス情報とシステムまたはイベント警告を表示する。
システムタイプ	12 のタイプが提供されている。これらのタイプの 1 つをもとに独自のタイプを追加できる。たとえば、Server タイプを使用して MyServer タイプを作成する。このタイプは依然としてサーバーであり、同じ方法でレポートされるが、独自の指定を持っている。
システムタイプ管理	HPE SIM で不明として検出されたシステムに対してユーザーが特定の属性を設定できるユーティリティ。このユーティリティを使用して、ユーザーはシステムオブジェクト識別子に基づき SNMP ルールを構成し、SNMP からの応答に基づいてシステムタイプ、サブタイプ、およびユーザー定義のモデルを設定できる。HPE Systems Insight Manager はシステムの検出および識別を行い、プライマリルールセットとして指定されたルールセットに不明システムが一致するとき、新しい情報を適用する。さらに、新しいシステムタイプを作成すると、システムリンクページが提供され、システムエージェントまたは SNMP の通信プロトコルから戻される情報が表示される。
システムプロパティ	単一のシステムに対して、または同時に複数のシステムに対して設定できるプロパティ。システム名、システムタイプ、システムサブタイプ、オペレーティングシステムバージョン、資産管理番号、および連絡先情報や、検出プロセスによってシステムプロパティが変更または更新可能かどうかなどのオプションがある。

- システムヘルスステータス** ターゲットシステムでサポートされるすべてのステータスソース（SNMP/SNMP v3、WBEM、HTTP など）の統計ステータス。最も深刻なステータスが表示される。表示される各種システムヘルスステータスは、以下のとおり。
- **クリティカル**

HPE Systems Insight Manager がシステムと通信できなくなった。このシステムは以前検出されていましたが、現在は ping できません。システムが停止しているか、電源が切れているか、ネットワークの問題のためにネットワーク経由でアクセスできない。
 - **メジャー**

このシステムに、重大な問題が発生している。このステータスにはすぐに対処する必要がある。Insight マネジメントエージェントを実行しているシステムの場合、一部のコンポーネントが故障している。システムが正常に動作しておらず、データが消失している可能性がある。
 - **マイナー**

このシステムに、軽度の問題がある。Insight マネジメントエージェントを実行しているシステムの場合、一部のコンポーネントが故障しているが、システムはまだ機能している。
 - **警告**

システムに潜在的な問題が存在するか、問題が発生する可能性のある状態になっている。
 - **正常**

システムは正常に稼動している。
 - **無効**

監視機能から見るとシステムは無効になっているが、必ずしも電源が切られているわけではない。
 - **不明**

HPE Systems Insight Manager が、システムに関する管理情報を取得できない。
 - **情報**

システムの状態が変化しているところか、またはエラーではない状態が発生している。

システムリンク 管理エージェントを搭載する特定のシステムの概要情報ページ。

自動検出 HPE Systems Insight Manager が、ネットワーク上のシステムを検出および識別し、その情報を使ってデータベースを作成するプロセス。データの収集およびシステムヘルスステータスの追跡を行うには、最初にシステムを検出する必要があります。自動検出のプライマリソースは、自動検出タスクページで設定される ping 検出。他のソースとして、不明システムから、またはサーバーに関する情報を持つ管理プロセッサからの受信イベントが使用される場合もある。識別は、検出されたシステムについて自動的に実行される。

収集の編集 既存の収集を修正し、検索条件の追加や削除を行うこと。

手動検出方法 次のタスクの完全検出を省略できるようにするプロセス。

- 1つのシステムの追加
- システムの編集
- HPE Systems Insight Manager データベース hosts ファイルの作成またはインポート
- 一般 hosts ファイルの作成またはインポート

使用できるソフトウェア	バージョンコントロールエージェント (HPE VCA) が参照するように設定されているレポジトリ内の利用可能なソフトウェアコンポーネントの一覧。HPE VCA に直接アクセスすると、これらの追加コンポーネントを選択してインストールできます。
証明書	被認証者のパブリックキーおよび被認証者についての識別情報を含む電子文書。証明書は、認証機関 (CA) によって署名され、キーと対象識別情報を結合します。認証機関も参照。
証明書キー	暗号法で、単体または暗号デコーダ (対応するパブリックまたはプライベートキー) と一緒に使用される値。従来のプライベートキー暗号法では、お互いがメッセージを暗号化および解読できるように、キーまたは暗号キーが通信者によって共有されている。このシステムには、ある人がキーをなくすとシステムが破綻するというリスクがある。パブリックキー暗号法では、プライベートキーはパブリックキーと関連するため、システムの各人が共有されない自分独自のプライベートキーを所有している。
シングルサインオン	管理対象システムごとに認証を受けなくても HPE Systems Insight Manager 内から任意の管理対象システムにアクセスできるように、HPE Systems Insight Manager にアクセスする認証済みユーザーに与えられる権限。HPE Systems Insight Manager は最初の認証ポイントであり、他の管理対象システムには HPE Systems Insight Manager からアクセスする必要がある。
シンプルネットワークマネージメントプロトコル	HPE Systems Insight Manager がサポートする管理プロトコルの 1 つ。従来の管理プロトコルは、ネットワーキングシステムとほとんどのサーバーで広範に使用されています。TCP/IP ベースのインターネットのネットワーク管理用の管理情報ベース (MIB-II) は、すべてのベンダーに一貫して提供されている標準情報。
ステータスタイプ	ステータスメッセージ (クリティカル、メジャー、マイナー、正常、警告、および不明) の分類。
ステータスメッセージリスト	クラスター管理リソースが作成するリスト。クラスター監視ページの左下の領域に、検出されたエントリが収集され、異常な状態のクラスター属性が通知される。
ステータスメッセージ概要ヘッダー	リストヘッダーでは、リスト内のステータスメッセージの総数、および調査されなかったステータスメッセージの数が、括弧内にまとめられている。
ストレージシステム	ストレージシステムには、SAN に接続されたファイバーチャネルディスクアレイ、スイッチ、テープライブラリ、ホスト (ファイバーチャネルホストバスアダプター搭載) などがある。
スプーフィング	別のサイトを装う Web サイトの行ため。機密情報の収集、データトランザクションの変更、不正データや誤解を招くデータの表示を行う。
すべてのイベント収集	すべてのシステムで発生したすべてのイベントを表示する。
すべてのツールツールボックス	権限があるシステムかシステムグループのすべてのツールに完全にアクセスできる、デフォルトのツールボックス。
すべてのディスクしきい値の削除	HPE Systems Insight Manager によって提供されるタスクであり、関連収集に載っているシステムのディスクスレッショルドを削除する。このタスクでは、HPE Systems Insight Manager によって設定されるディスクスレッショルド、または Web エージェントの直接参照によって設定されるディスクスレッショルドだけが削除される。ディスクスレッショルドを含む Windows 32 用の HPE Systems

Insight Manager によって設定されたスレッシュホールドは、このタスクでは削除されない。

制御タスク	イベントの削除、ディスクスレッシュホールドの削除、ディスクスレッシュホールドの設定、およびデバイスアクセスコミュニティ名の設定など、検索やイベントに関連する命令のシーケンス。
セキュアシェル	ネットワークを通して別のシステムにログインし、そのシステムでコマンドを実行するプログラム。また、SSH を使用すると、あるシステムから別のシステムにファイルを移動でき、安全でない経路でも安全な認証と通信を提供する。
セキュアタスク実行	管理対象システムから安全にタスクを実行する HPE Systems Insight Manager の機能。STE 機能では、タスクを要求するユーザーに適切なタスク実行権があることが保証され、要求が暗号化されてデータが保護される。
セキュリティロール	管理者が、ユーザーごとかグループごとにシステムアクセスと管理アクセスを制限できるようにする機能。システム管理者は、この機能により、高度な機能や危険な機能にアクセスできないようにして、スタッフにタスクを委任できる。システム管理者は、別の組織や顧客が所有するシステムにアクセスできないようにして、特定の組織や顧客にシステムの管理を委任することもできる。
設計者	HPE Matrix Operating Environment インフラストラクチャオーケストレーション（グラフィカルデザイナー）を使用してマルチシステムインフラストラクチャテンプレートを作成し公開するユーザー。他のユーザーはこのテンプレートを使用してインフラストラクチャサービスを作成する。
設定履歴レポート	サーバーの設定を表示するレポートを含み、設定履歴ファイルを比較して差異を発見する調査ユーティリティ。
属性	管理情報フォーマット（MIF）ファイルの属性。属性は、管理可能な製品またはコンポーネントの 1 つの特性を説明する。関連する属性の組み合わせは、グループを構成する。たとえば、プロセッサチップのクロック速度は、そのチップを説明するグループの属性である。管理情報フォーマットも参照。
ソフトウェアインベントリ	バージョンコントロールエージェントがインストールされているシステムにインストールされている Hewlett Packard Enterprise のソフトウェアの一覧。
ソフトウェアの更新	リモートサイトからソフトウェアやファームウェアを更新するタスク。
ソフトウェアの全体的なステータス	このセクションは、バージョンコントロールエージェントをインストールしたサーバー上のソフトウェアに、監視するように設定されたレポジトリ内に利用できる更新があるかどうかを示す。
対称鍵	メッセージの送信側と受信側が共有し、メッセージの暗号化と解読に使用する共通のキー。
タスク	特定セットの引数を使用して、1 つ以上のシステムにおいて実行される、HPE Systems Insight Manager ツールのインスタンス。
タスクスケジューリング	ポーリングタスク、コントロールタスク、および通知タスクをスケジューリングするための主要スケジューリングツール。
単一システム対応	多重システム操作をサポートしない実行タイプ。この実行タイプのツールでは、ツールが動作しているノードのみが認識される。

注意	その指示に従わなければ、装置の損傷や情報の消失を引き起こす恐れがある注意事項を示す。
中央管理サーバー (CMS)	HPE Systems Insight Manager ソフトウェアを実行する、管理ドメイン内のシステム。HPE Systems HPE Insight Manager 内での全ての集中操作は、すべてこのシステムから開始されます。
通信プロトコル	管理プロトコルを参照。
ツール	HPE Systems Insight Manager がタスクを行うために 1 つ以上のシステムで実行するアプリケーション、コマンド、スクリプト。
ツールボックス	データベース管理やソフトウェア管理などの特定タスクにユーザーが必要とするツールの定義済みセット。各 HPE Systems Insight Manager ツールボックスは、ツールセットおよび認証に関連付けられている。
ディスクしきい値の設定	HPE Systems Insight Manager により提供されるタスク。関連収集のシステムのディスクスレッシュホールドを設定するには、このタスクを使用する。このスレッシュホールドは、ターゲットシステム上のすべてのディスクボリュームに設定される。
データ収集タスク	管理対象システムグループから情報を収集し、データベースに格納する手順。HPE Systems Insight Manager では、ハードウェアステータスポーリングおよびデータ収集タスクが使用されてデータ収集が実装される。
データ収集レポート	データ収集レポートは、検出したシステムの情報を単一インスタンスのレポートまたは時系列変動解析レポートに含む。HPE Systems Insight Manager では、既存データセットを上書き（詳細解析用）(Insight マネージャー 7 の単一インスタンスデータ収集タスク) および新規データセットを追加（時系列変動解析用）がサポートされる。既存データセットを上書き（詳細解析用）オプションでは、単一インスタンスでシステムからデータが収集される。新規データセットを追加（時系列変動解析用）では、システムの履歴を詳述するデータが収集される。
デジタル署名	トランザクション送信者の確認に使用される技術。この技術では、プライベートキーが使用されてデータが電子的に署名され、パブリックキーが使用されて送信者が確認される。
テンプレート	サーバーグループ、ネットワーク、ストレージについて、インフラストラクチャサービスの要件を指定するツール。リクエストの実行時に HPE Operations Orchestration ワークフローを使用するカスタマイズポイントを含む。
テンプレートファイル	HPE Systems Insight Manager が複数の自動検出タスクを持つ前に使用されていた概念。現在では使用されないが、テンプレートファイルによって、検出 IP 包括範囲に入力されるものと同じデータ範囲 (IP 範囲など) を作成することができる。自動検出タスクは、入力として、1 つまたは複数のテンプレートファイルを持つことができる。ただし、テンプレートファイルをネストすることはできない。
ドメインネームサービス	ドメイン名を IP アドレスに変換するサービス。
トラップ	イベントが発生したことを示すマネジメントエージェントによって生成される非要求メッセージ。たとえば、監視項目は設定しきい値または変更されたステータスを超えていることなど。以前は、アラームと呼ばれていた。 イベントも参照してください。
トラップカテゴリ	イベントタイプ単位で検出されるイベント収集システム。HPE Systems Insight Manager が、機能に従って論理グループに分類した SNMP/SNMP v3 トラップ。

トラップ通知アドレス	HPE Systems Insight Manager システムによって通知されるトラップ通知を受信するために指定されたシステムの IP アドレス。
認証	ユーザー名とパスワードに基づいて、個人を識別するプロセス。ユーザー認証は、ログインしたユーザーが実際にその人物であるかどうかを確認するプロセスであり、「権限」とは異なる。
認証機関	電子署名とパブリック-プライベートキーペアを作成するために使用される電子証明書を発行する信頼された第三者機関または企業。このプロセスでの認証機関の役割は、証明書の所有者が本人であることを保証することにある。
ネットワーククライアント	ネットワークに接続されており、HPE Systems Insight Manager GUI に接続するための互換ブラウザを備える任意のコンピューターシステム。
バージョンコントロール	Windows および Linux ProLiant システムでは、Windows システムにインストールされたバージョンコントロールレポジトリマネージャーと呼ばれ、HP-UX オペレーティングシステムでは、ソフトウェアディストリビューターと呼ばれる。管理対象のすべての ProLiant または Integrity システムのソフトウェアステータスの概要を提供し、それらのシステム上であらかじめ設定された条件に基づいて自動的にシステムソフトウェアとファームウェアのアップデートを行うことができる。バージョンコントロールは、古いシステムソフトウェアを実行しているシステムを識別して、アップグレードを利用できるかどうかを示し、アップグレードの理由を提供する。HP-UX システムでは、1 つまたは複数のインストール済み HP-UX に対してソフトウェアディストリビューターを HPE Systems Insight Manager 中央管理サーバーから起動することができる。
バナー	画面最上部に表示される GUI の一部分。ユーザー名が表示され、ホームページにアクセスしたり、サインアウトしたりするためのリンクがある。
標準エラー	システムがエラーメッセージを書き出す、デフォルトの場所。デフォルトは、端末ディスプレイ。
標準出力	プログラムが出力を書き出す、デフォルトの場所。デフォルトは、端末ディスプレイ。
不明ステータス	HPE Systems Insight Manager が、SNMP/SNMP v3 を使用して、システムに関する管理情報を取得できない。管理関連情報は取得できませんが、システムに対して ping は実行できます。コミュニティ名またはセキュリティの設定が間違っている可能性がある。
プロビジョニング	テンプレートに基づいてサービスを作成するプロセス。ユーザーは、インフラストラクチャオーケストレーション Self Service Portal またはインフラストラクチャオーケストレーションコンソールを介して、サービスの作成リクエストを発行する。これに対し、HPE Insight Orchestration コントローラーはコントローラーのインベントリを検索して、テンプレート内のすべての論理リソース定義に演算リソースを割り当てる。
分散型コンポーネントオブジェクトモデル	コンポーネントオブジェクトモデル (COM) の拡張機能であり、COM コンポーネントが、同一ネットワーク上のクライアントとサーバー間でやり取りできるようにする。
分散タスクファシリテーター	管理対象システムにおける、タスクのリモート実行を管理する管理アプリケーション。

ヘルスステータス	ステータスは、デバイスヘルスステータスの情報源（SNMP、WBEM、および HTTP）すべてのステータスを集約して表示します。いずれかの問題がある場合には最もクリティカルなステータスが表示されます。 システムヘルスステータスも参照。
マイナーステータス	システムから収集されたステータス情報であり、監視対象サブシステムの 1 つ以上が正しく動作せず、システムに影響を与えていることを示す。これ以上のエラーが発生することを回避するために、できるだけ早く対処する必要がある。
マネジメント HTTP サーバー	HPE の Web 対応システムマネジメントソフトウェアの Hewlett Packard Enterprise スイートによって使用される統合されたソフトウェア。HTTP および HTTPS 上の通信用。HPE の Web 対応システムマネジメントソフトウェアに機能とセキュリティを 1 つにまとめて提供する。このバージョンは、ProLiant Support Pack 7.10 以前で利用できる。
マネジメントエージェント	管理対象システムで動作するデーモンまたはプロセス。管理対象システムにおいて、中央管理サーバーから要求を受信して実行する。
マルチシステム対応	多重システム操作をサポートする実行タイプ。この実行タイプのツールは、分散タスクファシリティを使用する代わりに、内部メカニズムを使用して、ターゲットシステムで動作する。MSA 実行タイプでは、分散タスクファシリティが使用されて、1 つのシステムでツールが起動されてから、その他の管理対象システムと関連するツールが起動される。
未確認のイベントステータス	深刻度が、クリティカル、メジャー、マイナー、正常、または情報になっており、確認もデータベースからの削除も行われていないイベント。イベントは、データベースから削除しなくても、イベントの確認メニューオプションを使用して消去できる。 <ul style="list-style-type: none"> • クリティカル 障害が発生し、すぐに対応する必要がある。 • メジャー 近いうちに障害が発生する。 • マイナー さらに深刻な問題に発展する可能性のある警告ステータス。 • 正常 このイベントは問題ではない。 • 情報 注意する必要はない。これは便利な情報として提供される。
メジャーステータス	システムから収集されたステータス情報であり、監視対象サブシステムの 1 つ以上が正しく動作せず、システムに影響を与えていることを示す。このステータスにはすぐに対処する必要がある。
ユーザーアカウント	HPE Systems Insight Manager へのサインインに使用するアカウント。これらのアカウントは、ローカル Windows ユーザーアカウントまたはドメインアカウントを HPE Systems Insight Manager 内の権限レベルとポケベル属性に関連付ける。
ユーザーグループ	HPE Systems Insight Manager に追加されている、中央管理サーバーオペレーティングシステム上で定義されているユーザーグループ。オペレーティングシステムのユーザーグループのメンバーは、HPE Systems Insight Manager にサインインできる。

ユーザー権限があるユーザー	中央管理サーバーを設定できないユーザー。ただし、ユーザーは、中央管理サーバーとすべての管理対象システムに関する定義済みレポートの表示と実行ができる。
ラック	相互に通信するために配線されたコンポーネントのセット。ラックはエンクロージャーのためのコンテナである。
リソースプール	HPE Matrix Operating Environment で管理される物理および仮想リソースのグループ。管理者は、リソースプールへのユーザーアクセスを許可することで、リソースの利用を管理します。
リファレンス Support Pack	バージョンコントロールエージェントがレポジトリ内で参照するように設定できる Hewlett Packard Enterprise のソフトウェアのバンドルされたベースライン製品。この設定を行うことにより、ユーザーは所有するすべてのソフトウェアについて、特定のサポートパックレベルを維持するように指定できる。
リモートウェイクアップ	Wake-On-LAN (WOL) と呼ばれることもある。常駐 WOL ネットワークカードによって、リモートサイトからシステムの電源を入れること。その場合、ROM または F10 キー (セットアップ) からのシステムの「ウェイクアップ」が有効になっている必要がある。 HPE Systems Insight Manager は、この機能に依存して、スケジュールされたソフトウェア更新やエージェント設定のレプリケートのシステムをオンに切り替える。
ルールセット	システム情報に適用するステータス、ポリシー、または条件で、どのようなシステムかを決定する。
レポジトリ	ProLiant Support Pack または Integrity Support Pack、および Smart コンポーネントを含むディレクトリ。

サポートと他のリソース

Web サイト

全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/EIL
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	http://www.hpe.com/support/hpesc
Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide	http://www.hpe.com/assistance
サブスクリプションサービス/サポートのアラート	http://www.hpe.com/support/e-updates-ja
Software Depot	http://www.hpe.com/support/softwaredepot
カスタマーセルフリペア (CSR)	http://www.hpe.com/support/selfrepair
Insight Remote Support	http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs

上記以外の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトを訪問してください。

<http://www.hpe.com/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトに移動します。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポート登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。製品のドキュメントを確認し、推奨されるソフトウェアアップデートの方法を特定します。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかに移動します。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード <http://www.hpe.com/support/downloads>

Software Depot <http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- eNewsletters およびアラートにサブスクライブするには、以下の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- お客様の権利の表示や更新を行ったり、契約と保証をプロフィールとリンクさせたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページをご覧ください。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

❗ 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の権利付与情報が必要になる場合があります。関連する権利付与情報を使って HP パスポートをセットアップしておく必要があります。

カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。CSR による修理が可能かどうかについては、Hewlett Packard Enterprise のサポート窓口が判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス	http://www.hpe.com/jp/hpalert
HPE プロアクティブ ケアサービス	http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja
HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト	http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts (英語)
HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス：サポートされている製品のリスト	http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts

プロアクティブケアカスタマー情報

プロアクティブケアセントラル	http://www.hpe.com/services/proactivecarecentral
プロアクティブケアサービスのアクティブ化	http://www.hpe.com/services/proactivecarecentralgetstarted

保証情報

ご使用の製品の保証を確認するには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで入手できるサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照します。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

追加保証情報

HPE ProLiant と x86 サーバーおよびオプション	http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties
HPE Enterprise サーバー	http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties
HPE ストレージ製品	http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties
HPE ネットワーク製品	http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties

規定に関する情報

ご使用の製品の規定に関する情報を表示するには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで入手できるサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照します。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。本製品の化学物質情報レポートについては、次をご覧ください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

Hewlett Packard Enterprise 製品の環境および安全に関する情報やコンプライアンスに関するデータ（RoHS、REACH など）は、次をご覧ください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>（英語）

Hewlett Packard Enterprise の社内プログラム、製品リサイクル、エネルギーの有効利用などの環境情報については、次をご覧ください。

<http://www.hpe.com/info/environment>（英語）

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当（docsfeedback@hpe.com）へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、製品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。